

## 第2章 調査結果の詳細

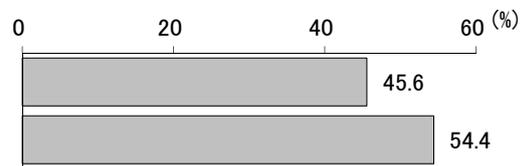


## 1. 基本属性

## (1) 回答者の属性

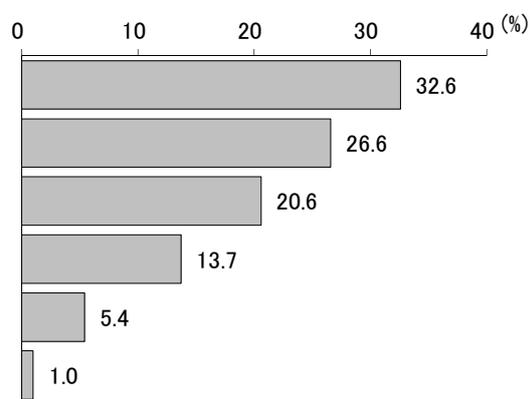
## ① 対象者（本人）の性別（問1）

	基数	構成比
男性	1,013	45.6%
女性	1,207	54.4%



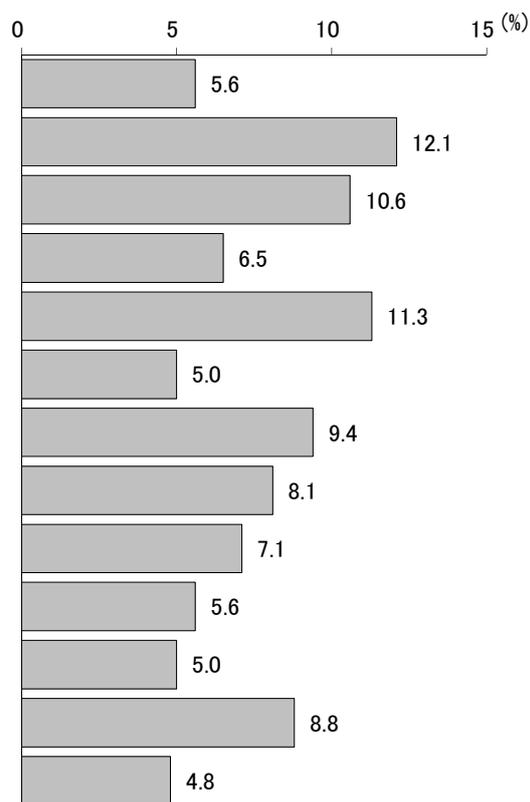
## ② 対象者（本人）の年齢（問2）

	基数	構成比
65～69歳	727	32.6%
70～74歳	595	26.6%
75～79歳	461	20.6%
80～84歳	307	13.7%
85～89歳	120	5.4%
90歳以上	23	1.0%



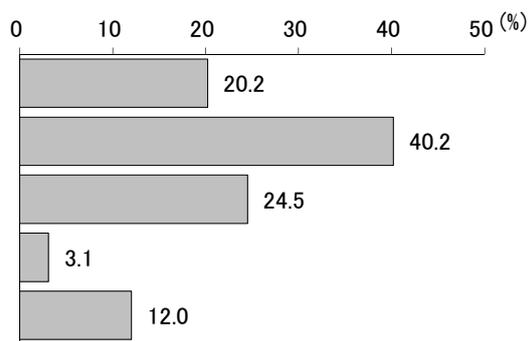
## ③ 対象者（本人）の居住地域（問3）

	基数	構成比
片瀬	125	5.6%
鶴沼	271	12.1%
辻堂	237	10.6%
村岡	146	6.5%
藤沢	253	11.3%
明治	112	5.0%
善行	210	9.4%
湘南大庭	181	8.1%
六会	159	7.1%
湘南台	124	5.6%
遠藤	111	5.0%
長後	196	8.8%
御所見	106	4.8%



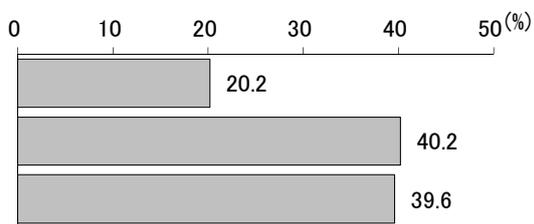
④ 対象者（本人）の家族構成（問4）

	基数	構成比
ひとり暮らし	427	20.2%
夫婦のみ(二人暮らし)	850	40.2%
二世帯同居	518	24.5%
三世帯同居	65	3.1%
その他	254	12.0%



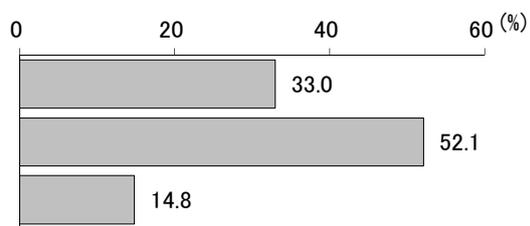
【三区分】

	基数	構成比
ひとり暮らし	427	20.2%
夫婦のみ(二人暮らし)	850	40.2%
それ以外	837	39.6%



⑤ 日中の独居状況（問4-1：問4で「ひとり暮らし」以外の方）

	基数	構成比
よくある	535	33.0%
たまにある	844	52.1%
ない	240	14.8%

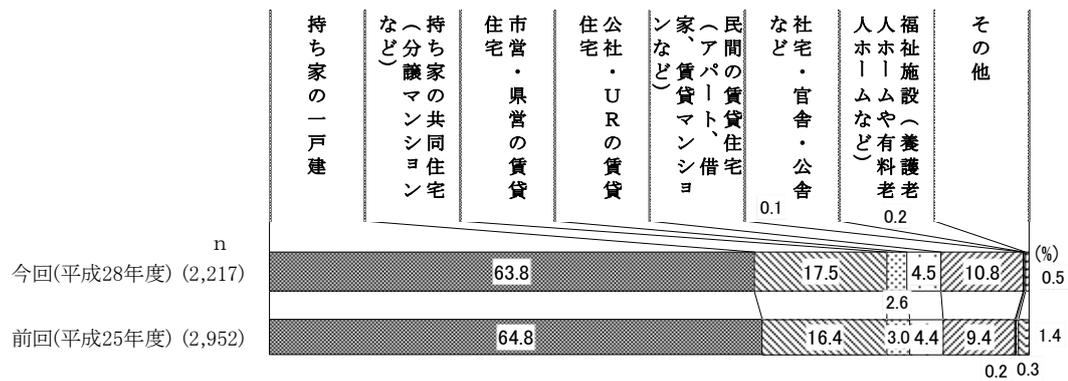


## 2. 住まいの状況について

### (1) 住居形態

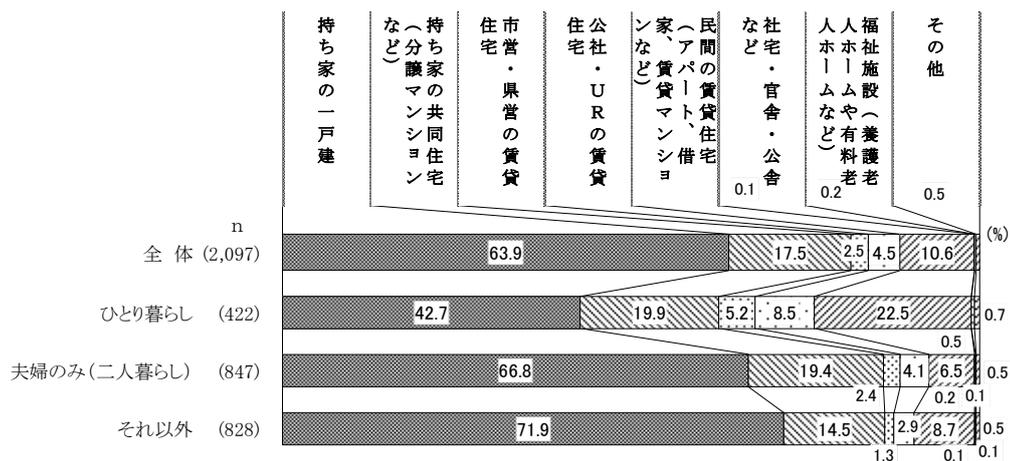
問5 どのような住宅にお住まいですか。(1つに○)

「持ち家の一戸建」が6割強



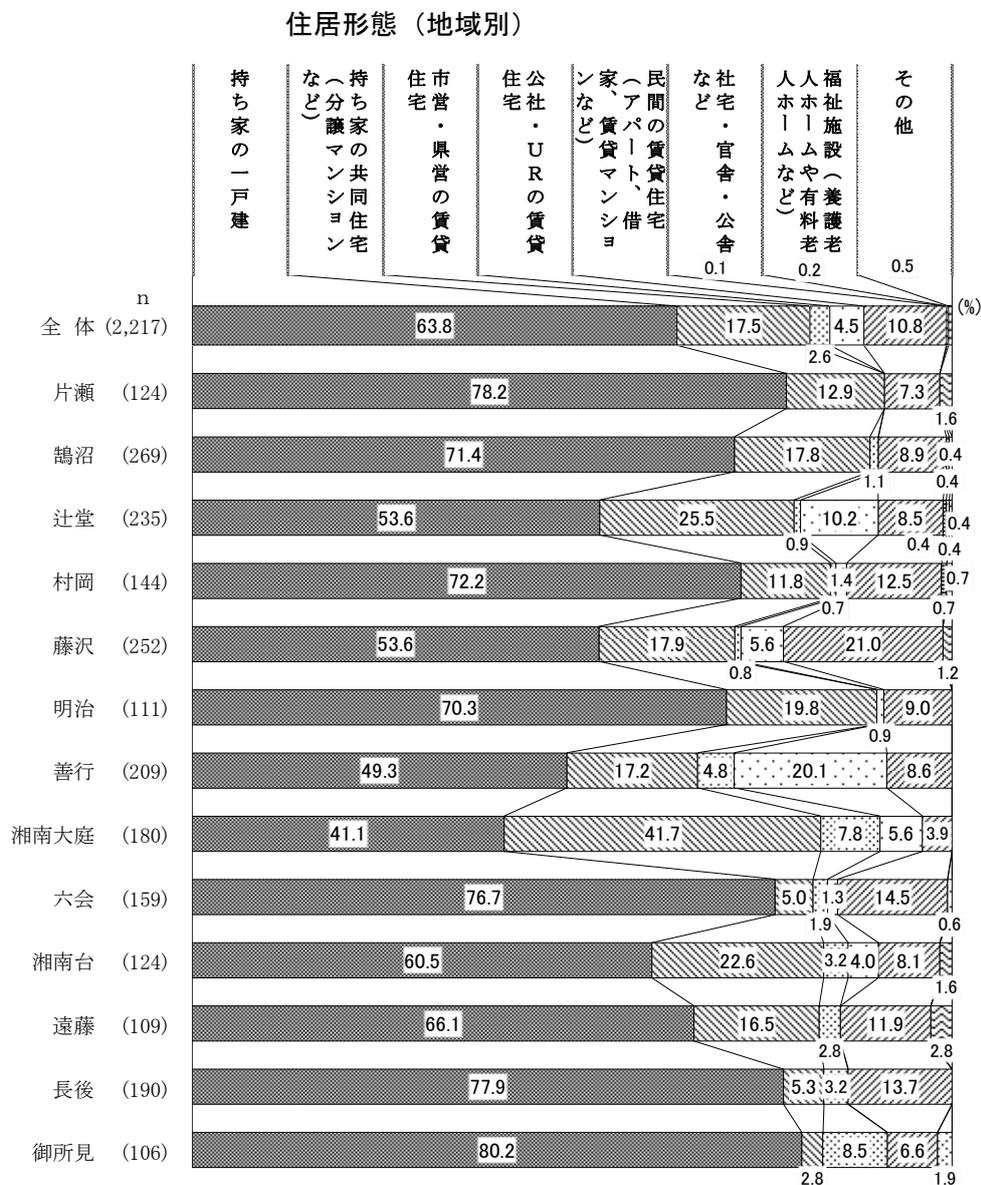
住居形態は、「持ち家の一戸建」が63.8%で最も多く、以下「持ち家の共同住宅(分譲マンションなど)」(17.5%)、「民間の賃貸住宅(アパート、借家、賃貸マンションなど)」(10.8%)と続いている。前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

### 住居形態(家族構成別)



## 第2章 調査結果の詳細

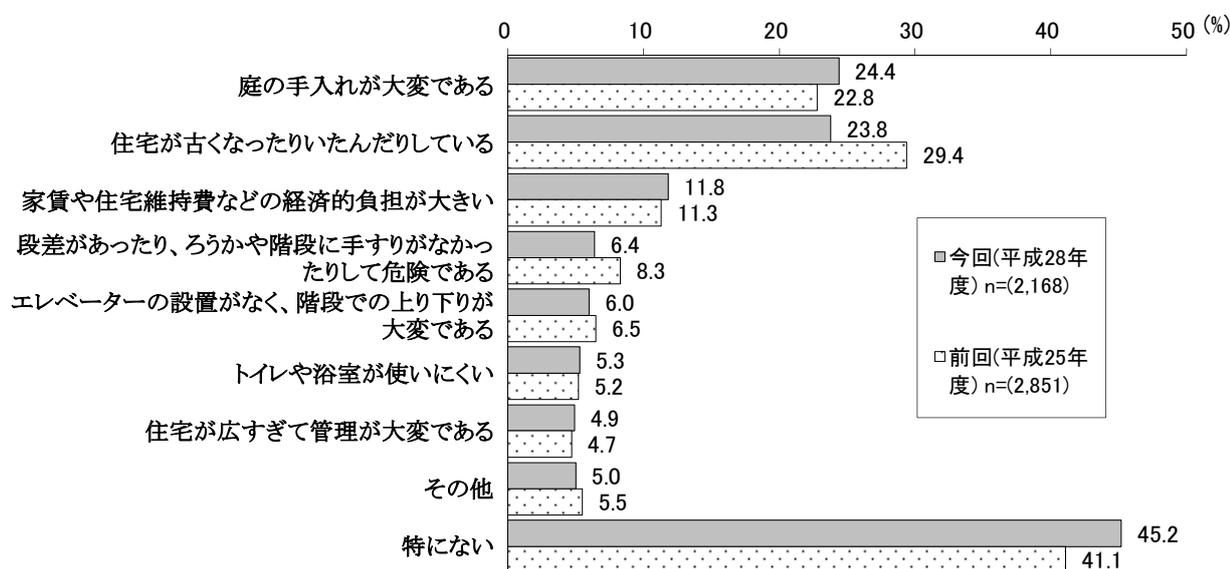
地域別にみると、「持ち家の一戸建」は、御所見で約8割、片瀬、長後で8割弱と多く、また、「持ち家の共同住宅（分譲マンションなど）」は湘南大庭で4割強と多くなっており、住居形態は地域により大きく異なっている。



## (2) 住まいについて困っていること

問6 現在のお住まいについて、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「庭の手入れが大変である」が2割台半ば



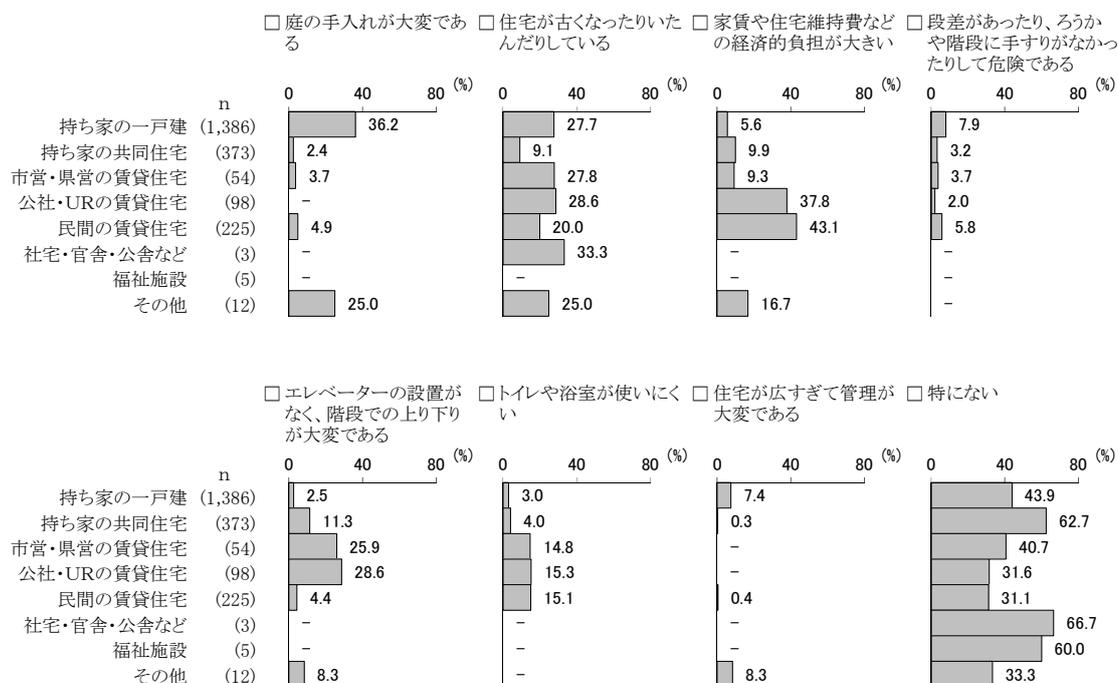
住まいについて困っていることは、「庭の手入れが大変である」が24.4%で最も多く、以下「住宅が古くなったりいたんだりしている」(23.8%)、「家賃や住宅維持費などの経済的負担が大きい」(11.8%)と続いている。一方、「特にない」は45.2%となっている。

前回調査と比較すると、「住宅が古くなったりいたんだりしている」は前回(29.4%)より5.6ポイント減少した。

## 第2章 調査結果の詳細

住居形態別にみると、「庭の手入れが大変である」は持ち家の一戸建が3割半ば、「住宅が古くなったりいたんだりしている」は持ち家の一戸建、市営・県営の賃貸住宅、公社・URの賃貸住宅で3割弱、「家賃や住宅維持費などの経済的負担が大きい」は民間の賃貸住宅、公社・URの賃貸住宅で4割前後と多くなっている。

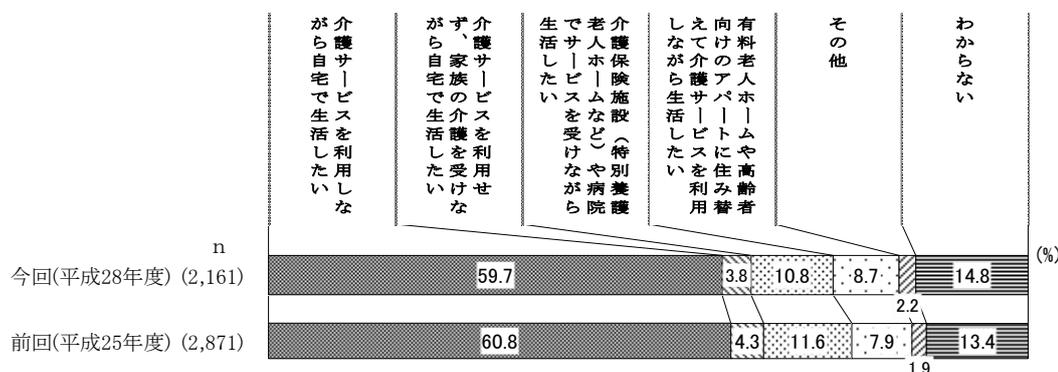
### 住まいについて困っていること（住居形態別（上位7項目+「特にない」））



(3) 要介護認定を受けた時の生活についての希望

問7 介護保険制度の要介護認定を受けた場合の生活について、どのような希望をお持ちですか。(1つに○)

「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」が6割弱

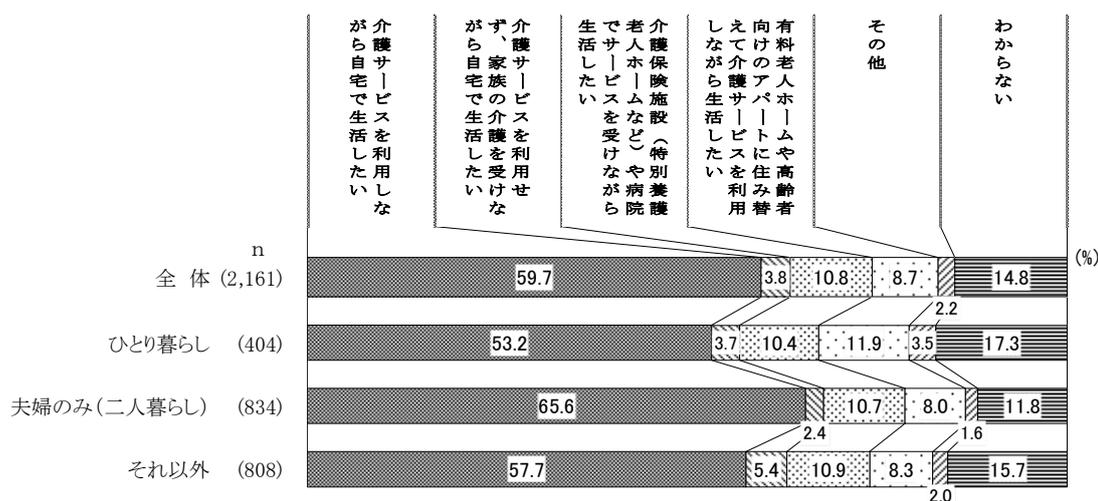


要介護認定を受けた時の生活についての希望は、「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」が59.7%で最も多い。また、「わからない」が14.8%、「介護保険施設(特別養護老人ホームなど)や病院でサービスを受けながら生活したい」が10.8%となっている。

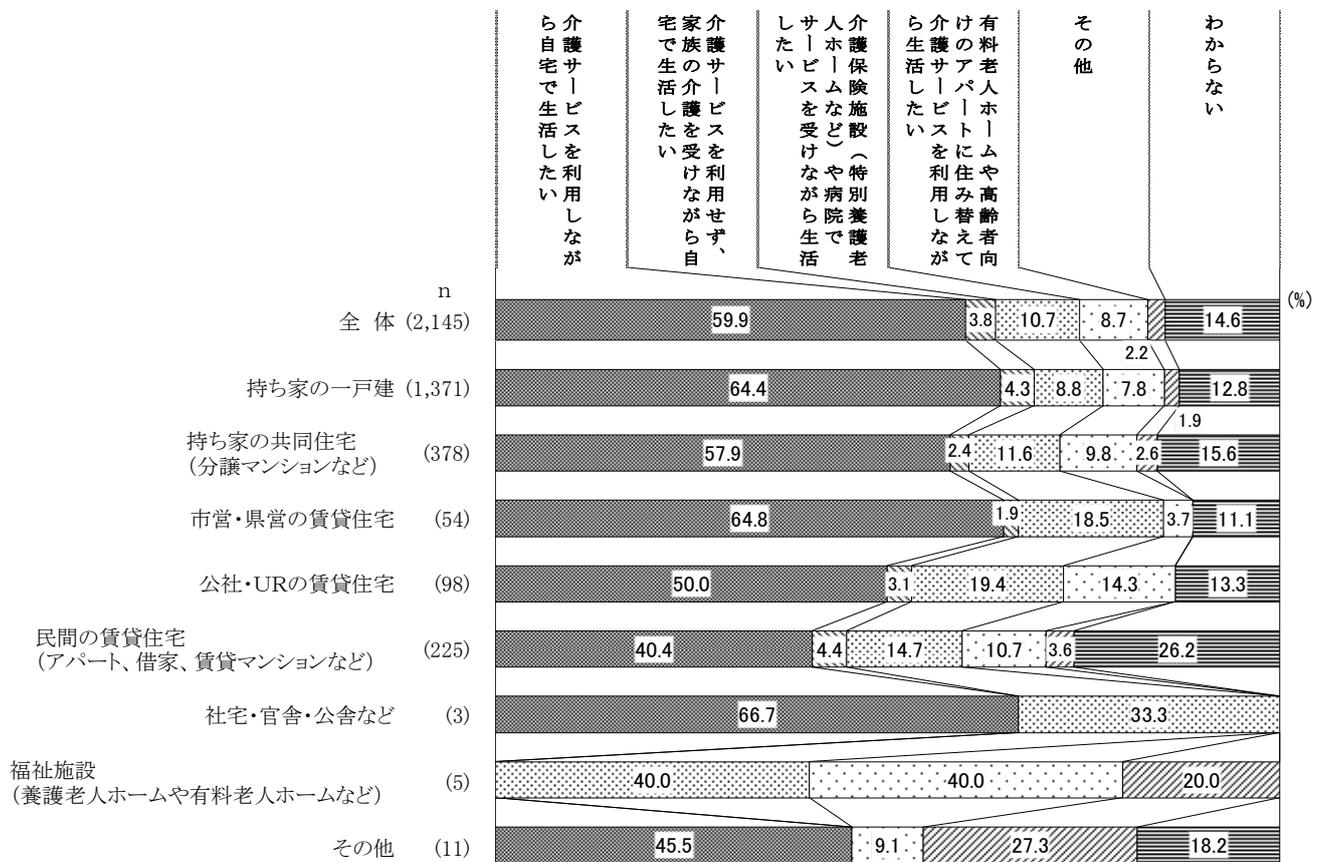
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

家族構成別でみると、「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」はひとり暮らしで53.2%と最も低くなっている。

要介護認定を受けた時の生活についての希望 (家族構成別)



要介護認定を受けた時の生活についての希望（住まいの形態別）

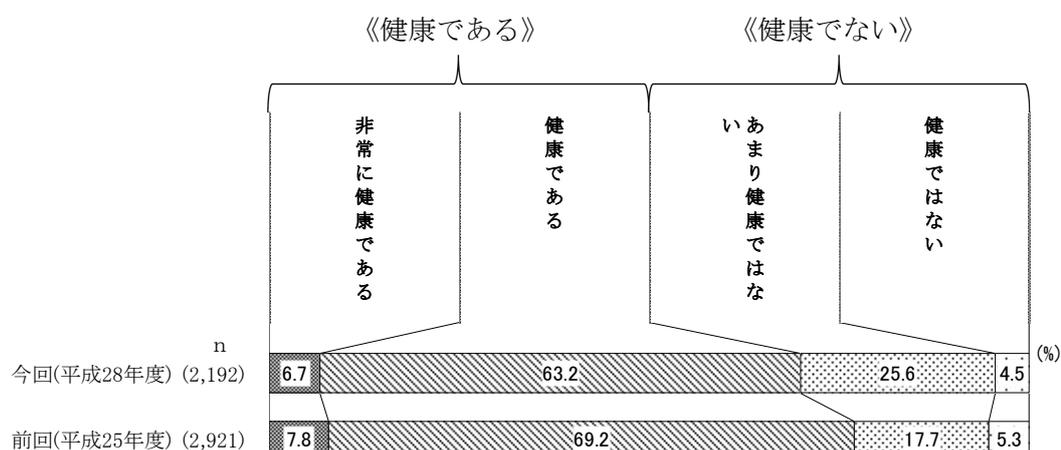


### 3. 健康状態について

#### (1) 主体的健康感

問8 ご自分の心身の健康状態をどのように感じていますか。(1つに〇)

主体的健康感は、「健康である」層が7割弱



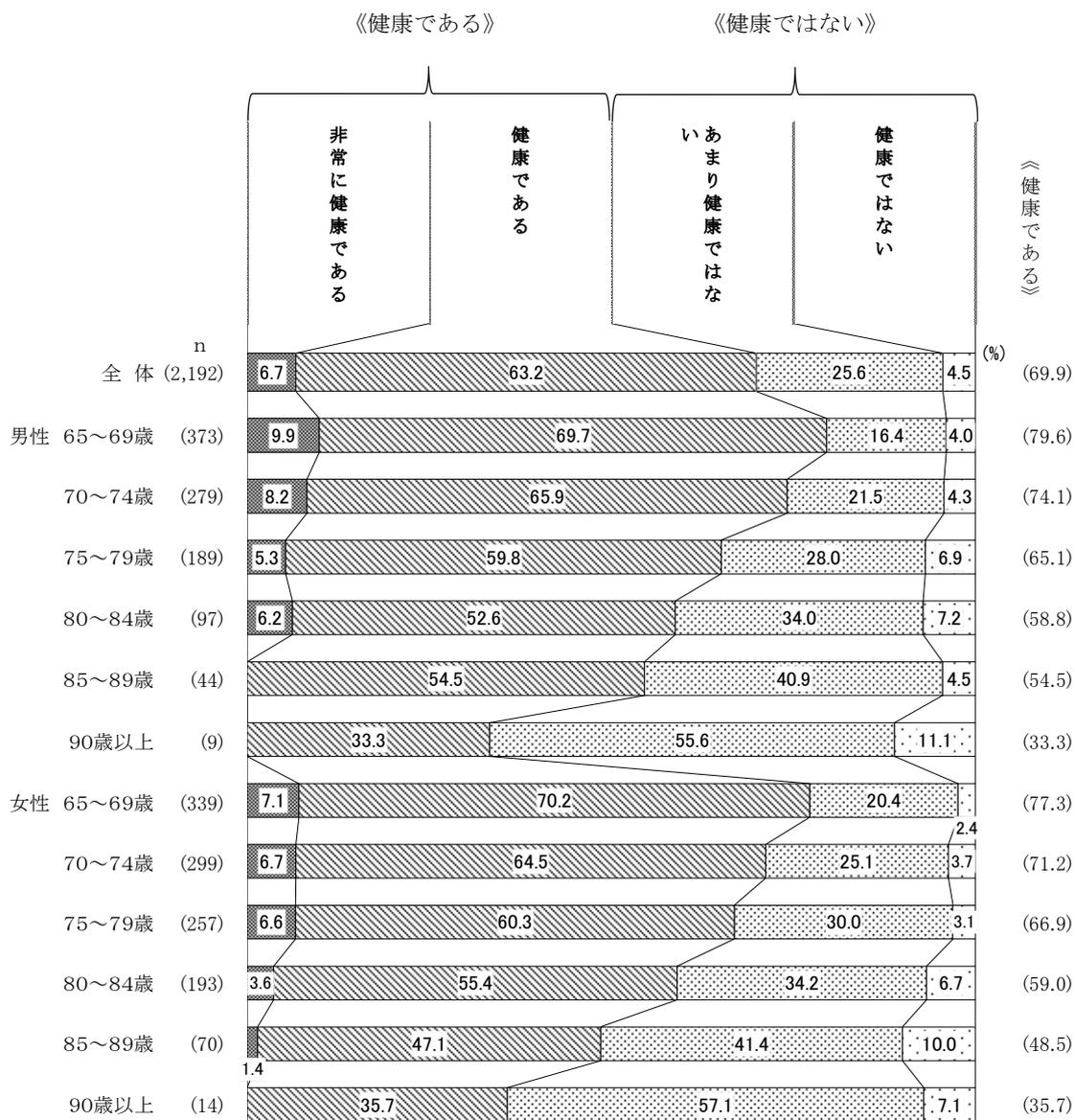
主体的健康感は、「健康である」が63.2%で最も多く、「非常に健康である」(6.7%)をあわせると《健康である》層が全体の69.9%を占める。一方、《健康ではない》層(「あまり健康ではない」+「健康ではない」)は30.1%であった。

前回調査と比較すると、「あまり健康ではない」は前回(17.7%)より7.9ポイント増加した。

第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、《健康である》層は男女とも、年齢とともにその割合は減少している。

主体的健康感（性・年齢別）

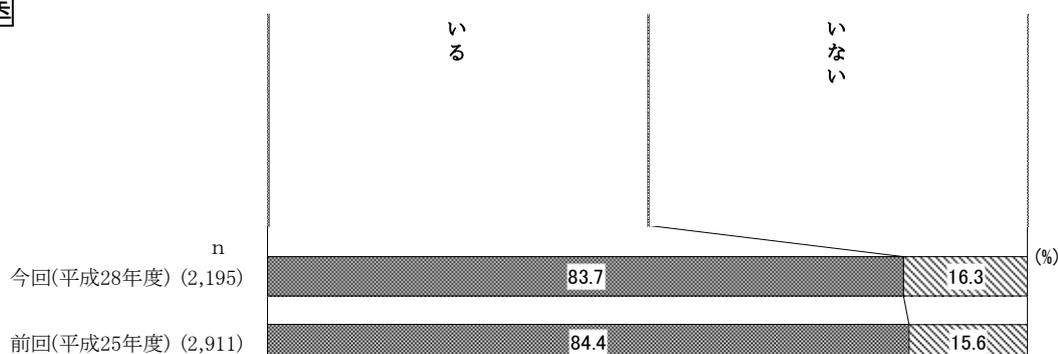


(2) かかりつけ医師等の有無

問9 治療や健康について相談する、かかりつけの医師、歯科医師、薬局がありますか。(それぞれ1つに〇)

かかりつけ医、歯科医のいる割合はとも8割強、かかりつけ薬局は7割弱

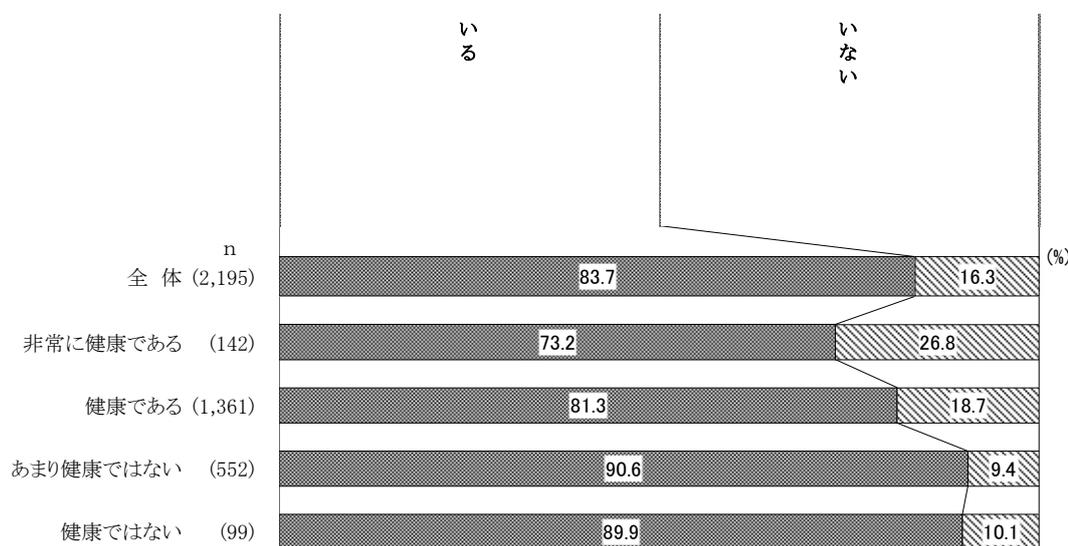
かかりつけ医



かかりつけ医は「いる」が83.7%、「いない」が16.3%となっている。  
 前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

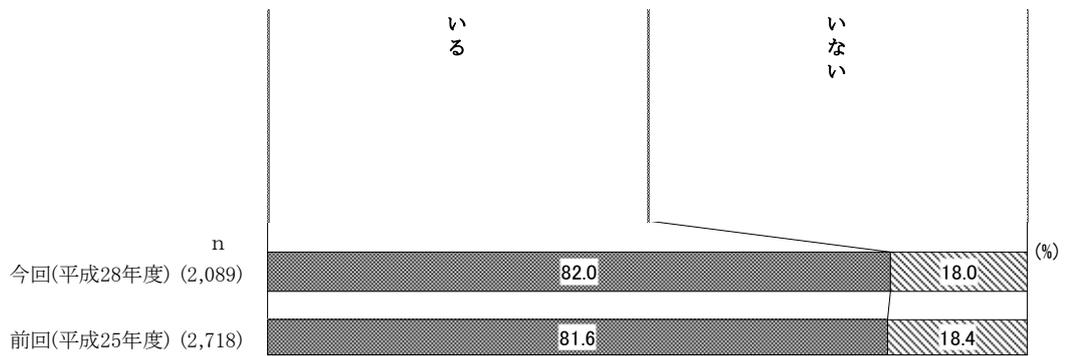
主体的健康感別にみると、かかりつけ医の「いる」割合は、「非常に健康である」場合で73.2%となっており、主体的健康感が悪くなるほど、「いる」の割合が多くなる傾向がみられる。

かかりつけ医の有無（主体的健康感別）



## 第2章 調査結果の詳細

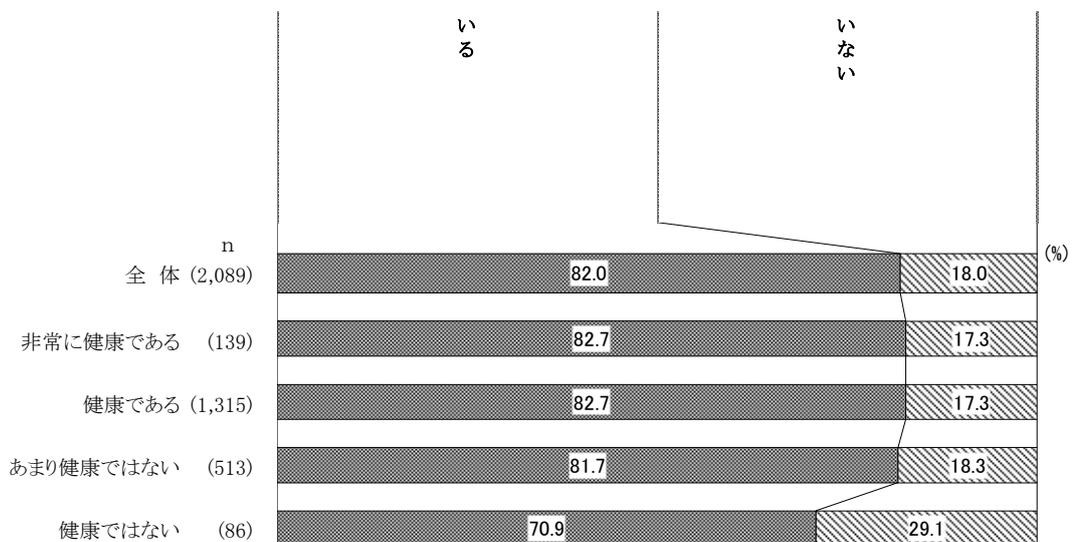
### かかりつけ歯科医



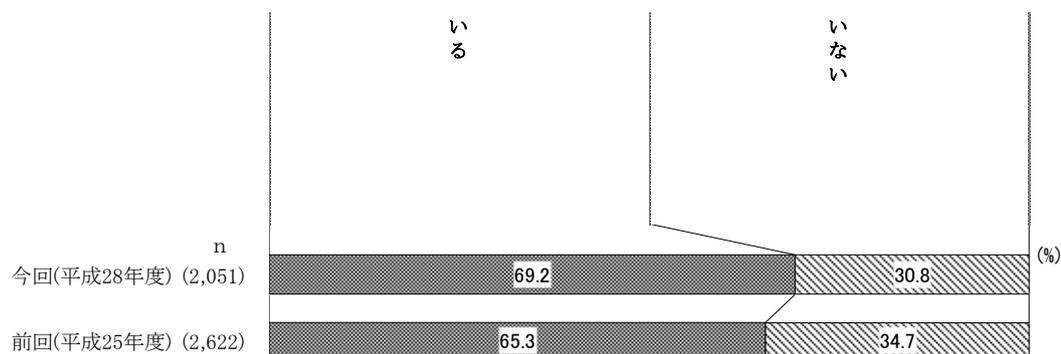
かかりつけ歯科医は「いる」が82.0%、「いない」が18.0%となっている。  
 前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

主体的健康感別にみると、かかりつけ歯科医の「いる」割合は、「非常に健康である」場合で82.7%となっており、「健康ではない」以外の主体的健康感で8割強となっている。

### かかりつけ歯科医の有無（主体的健康感別）



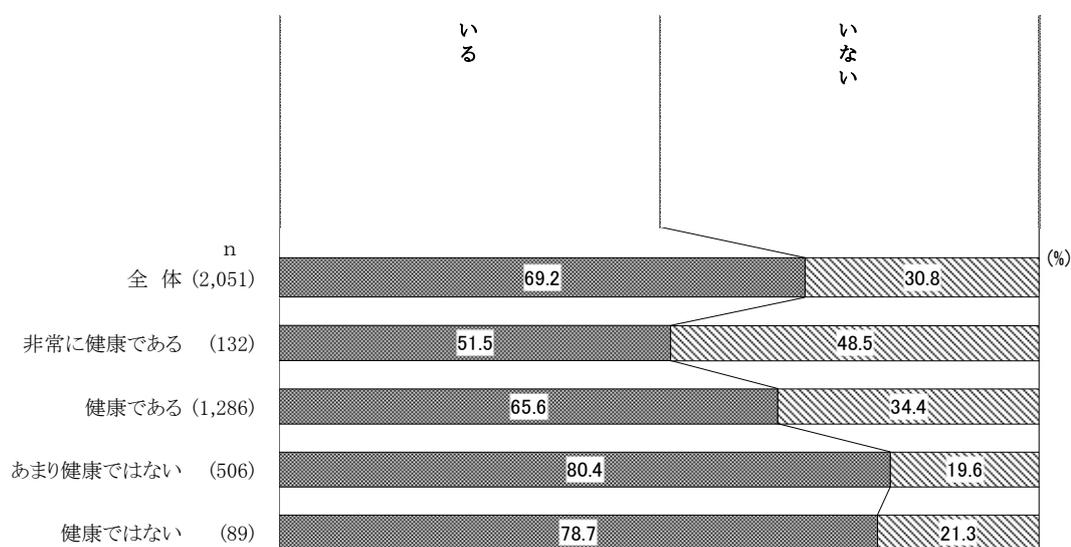
かかりつけ薬局



かかりつけ薬局は「いる」が69.2%、「いない」が30.8%となっている。  
 前回調査と比較すると、「いる」は前回(65.3%)より3.9ポイント増加した。

主体的健康感別にみると、かかりつけ薬局が「いる」割合は、かかりつけ医の有無と同様、主体的健康感の悪い層で「いる」の割合が多くなる傾向がみられる。

かかりつけ薬局の有無（主体的健康感別）

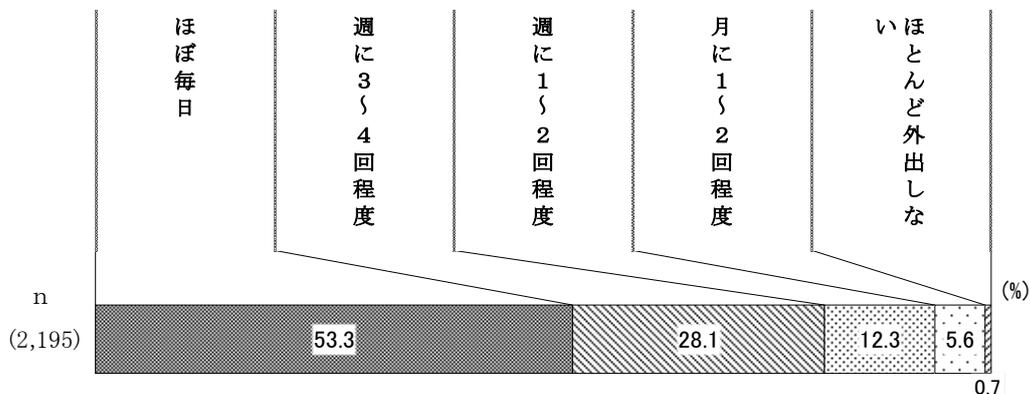


## 4. 外出の状況について

### (1) 外出頻度

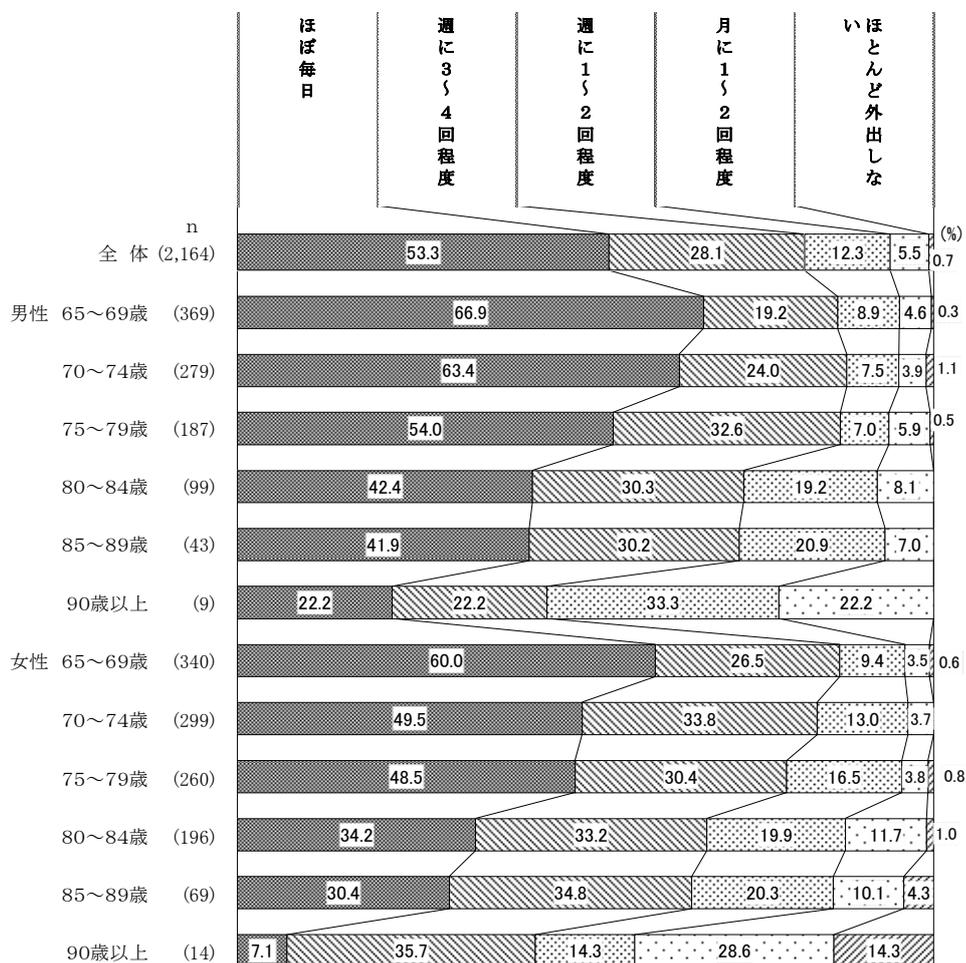
問10 外出(散歩や通院も含む)はどのくらいの頻度で行っていますか。(1つに○)

「ほぼ毎日」が5割強

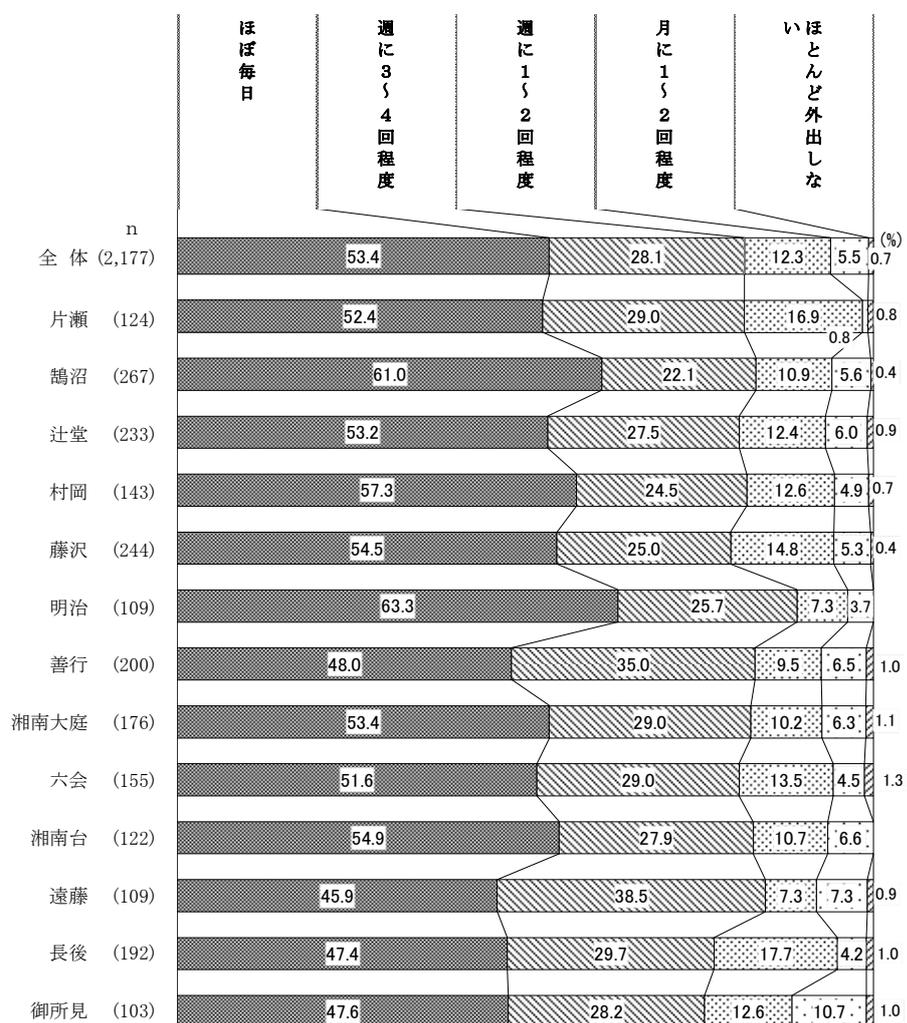


外出頻度は、「ほぼ毎日」が53.3%で最も多く、以下「週に3〜4回程度」(28.1%)、「週に1〜2回程度」(12.3%)と続いている。

### 外出頻度 (性・年齢別)



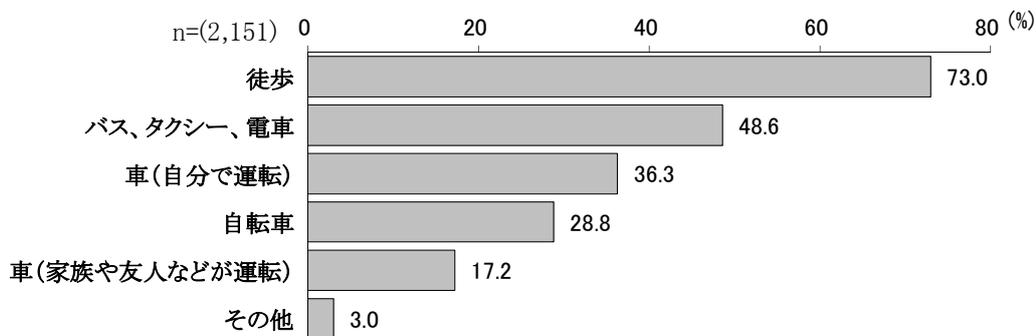
外出頻度（地区別）



### (2) 外出時の移動手段

「問10で「ほぼ毎日」～「月に1～2回程度」のいずれかを回答した方にうかがいます。」  
 問10-1 外出の際の移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出時の移動手段は、上位から「徒歩」、「バス、タクシー、電車」、「車(自分で運転)」の順

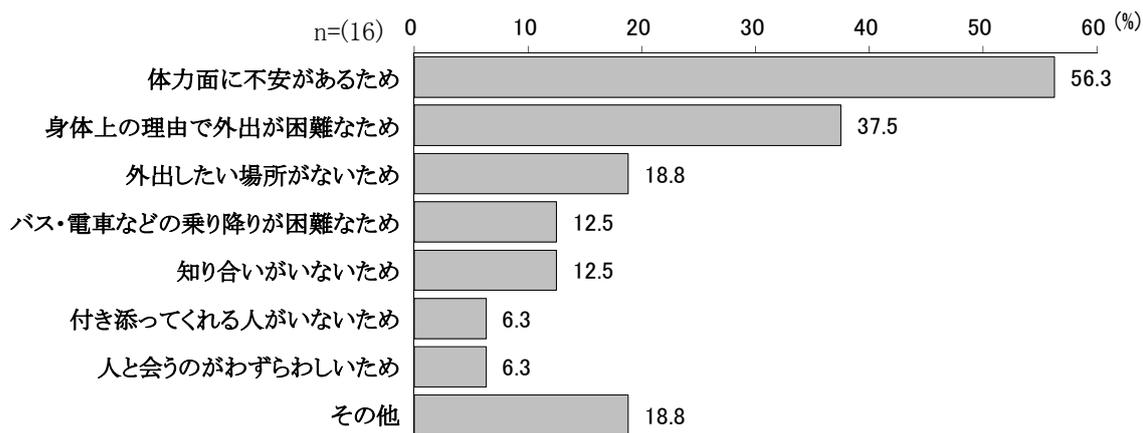


外出の際の移動手段は、「徒歩」が73.0%で最も多く、「バス、タクシー、電車」(48.6%)、「車(自分で運転)」(36.3%)と続いている。

### (3) 外出しない理由

「問10で「ほとんど外出しない」と回答した方にうかがいます。」  
 問10-2 ほとんど外出しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出しない理由は、「体力面に不安があるため」が5割台半ば



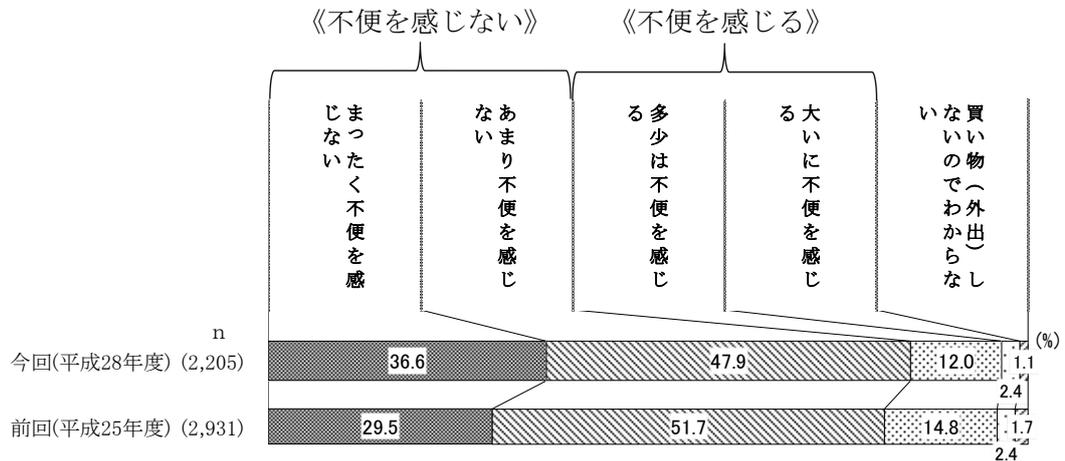
外出しない理由は、「体力面に不安があるため」が56.3%で最も多く、以下「身体上の理由で外出が困難なため」(37.5%)、「外出したい場所がないため」(18.8%)と続いている。

## 5. 買い物の状況について

### (1) 買い物で不便を感じる事

問11 あなた(ご本人)は日頃、食料品や日用品など、日常生活に必要な買い物で不便を感じることはありますか。(1つに〇)

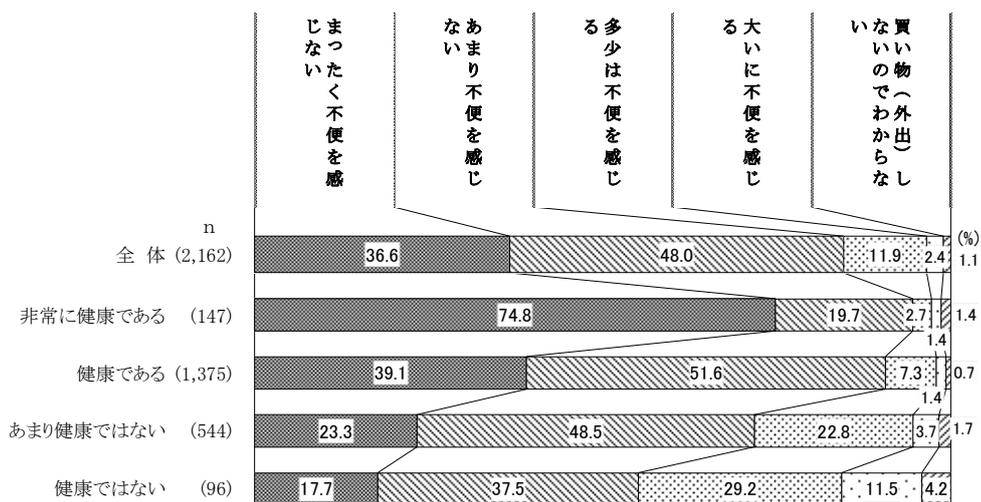
《不便を感じない》が8割台半ば



買い物で不便を感じることは、「あまり不便を感じない」が47.9%で最も多く、「まったく不便を感じない」(36.6%)をあわせると《不便を感じない》層が全体の84.5%を占める。一方、《不便を感じる》層(「多少は不便を感じる」+「大いに不便を感じる」)は14.4%であった。

前回調査と比較すると、「まったく不便を感じない」は前回(29.5%)より7.1ポイント増加した。

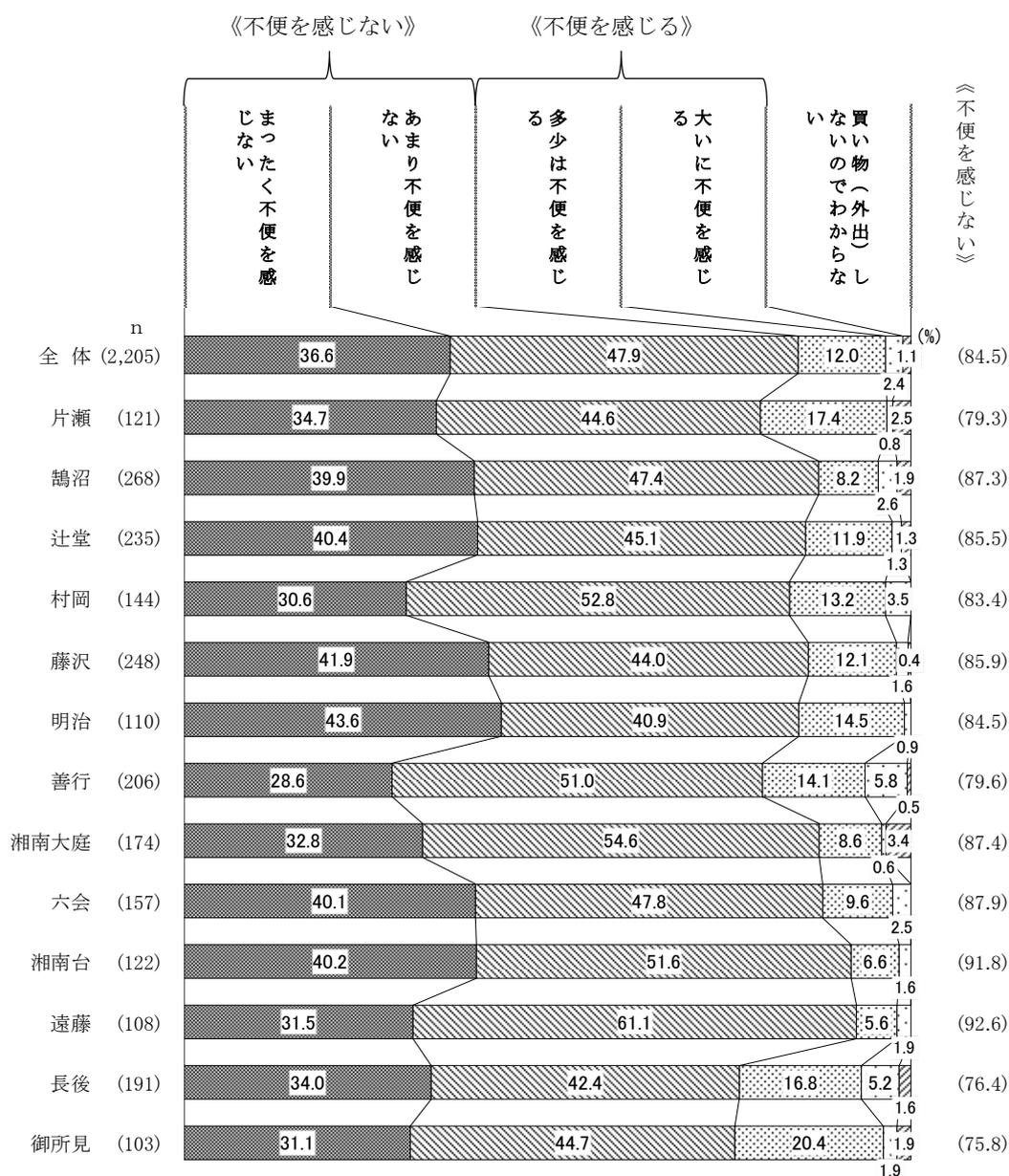
### 買い物で不便を感じる事 (主観的健康感別)



## 第2章 調査結果の詳細

地域別にみると、《不便を感じない》は遠藤が92.6%で最も多く、以下、湘南台（91.8%）、六会（87.9%）、湘南大庭（87.4%）と続いている。

### 買い物で不便を感じる事（地域別）

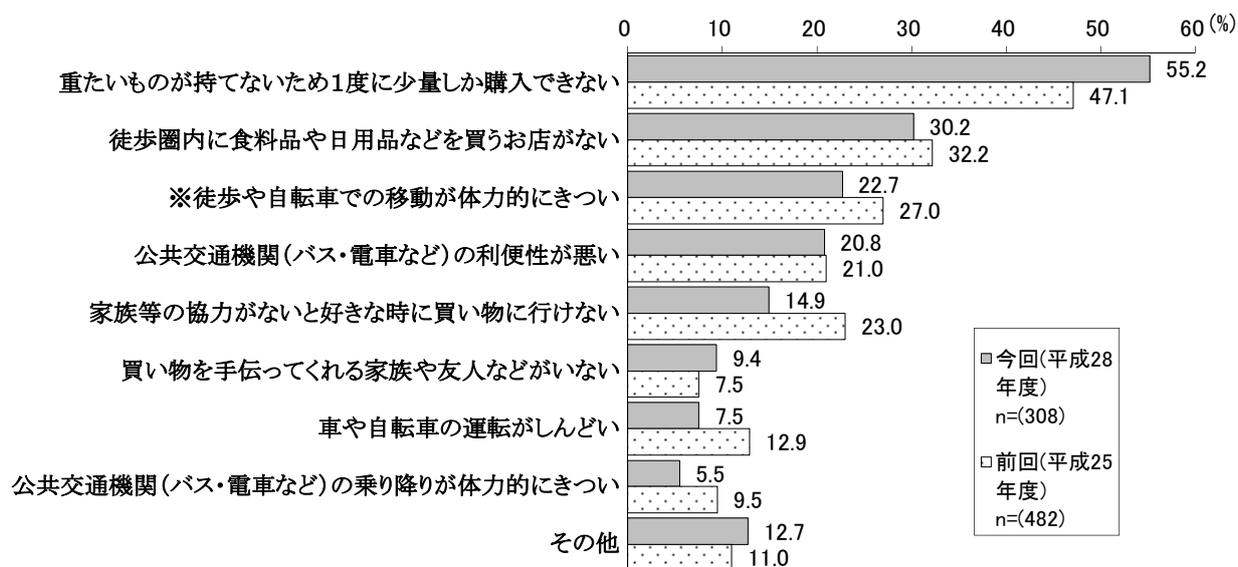


(2) 買い物で不便を感じる理由

「買い物で不便を感じている方のみ(問11で「多少は不便を感じる」または「大いに不便を感じる」と回答した方)お答えください。」

問11-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「重いものが持てないため1度に少量しか購入できない」が5割台半ばで最多



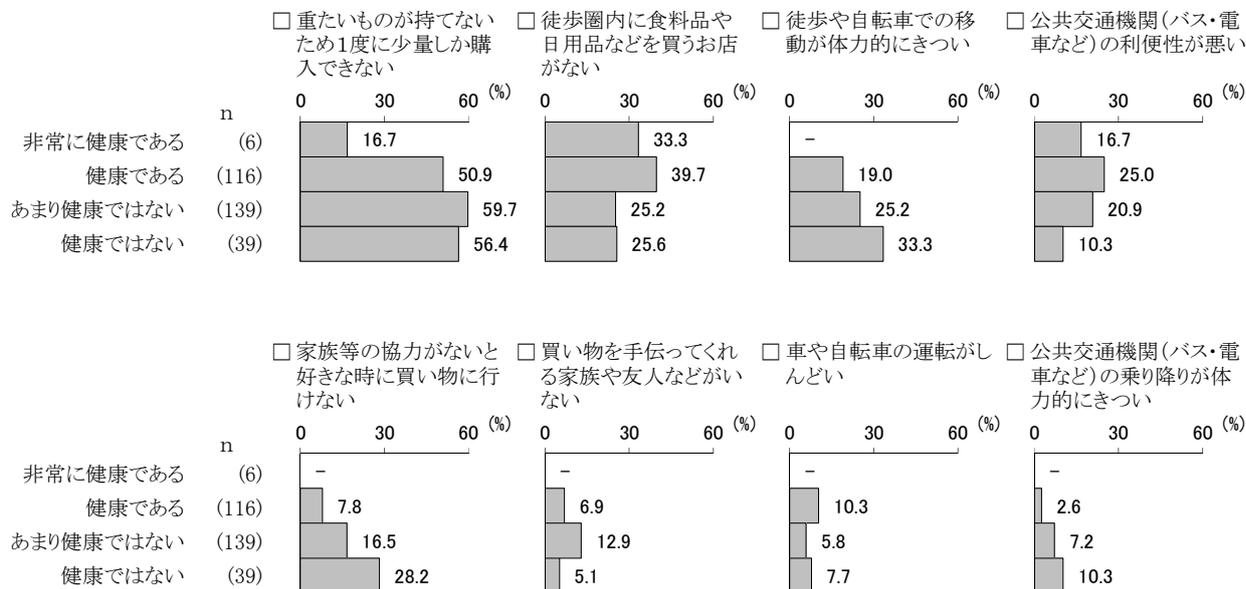
※「徒歩や自転車での移動が体力的にきつい」は今回、新たに調査した項目  
 買い物で不便を感じる理由は、「重いものが持てないため1度に少量しか購入できない」が55.2%で最も多く、以下「徒歩圏内に食料品や日用品などを買うお店がない」(30.2%)、「徒歩や自転車での移動が体力的にきつい」(22.7%)と続いている。

前回調査と比較すると、「重いものが持てないため1度に少量しか購入できない」は前回(47.1%)より8.1ポイント増加した。

## 第2章 調査結果の詳細

主体的健康感別にみると、「重たいものが持てないため1度に少量しか購入できない」「徒歩や自転車での移動が体力的にきつい」「家族の協力がなくて好きな時に買い物に行けない」「公共交通機関(バス・電車など)の乗り降りが体力的にきつい」は、主体的健康感が悪くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

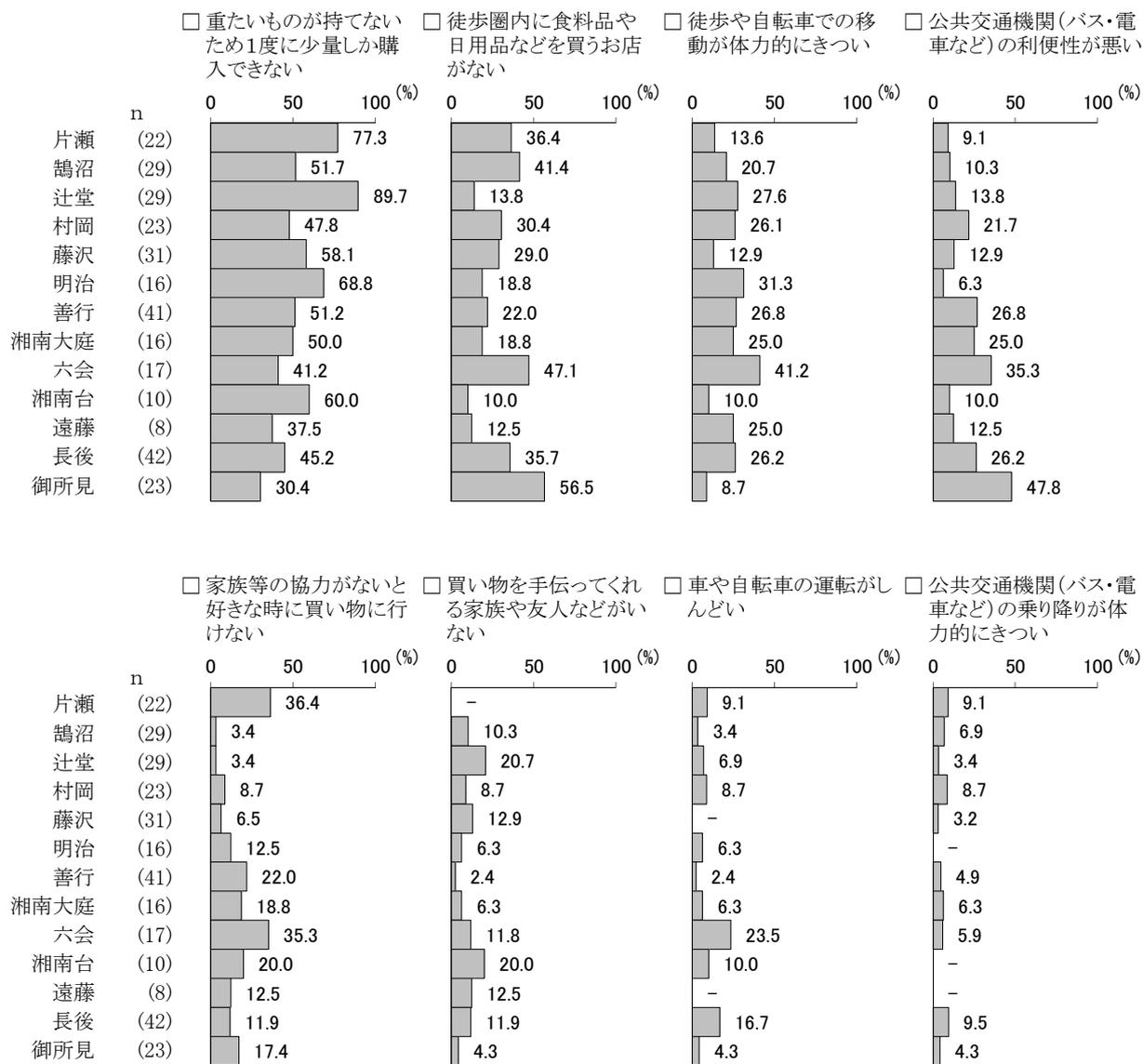
### 買い物で不便を感じる理由（主体的健康感別）



※「その他」を除く

地域別にみると、「重たいものが持てないため1度に少量しか購入できない」は辻堂（89.7%）で約9割と最も多くなっている。「徒歩圏内に食料品や日用品などを買うお店がない」は、御所見（56.5%）で5割半ばと最も多くなっている。「徒歩や自転車での移動が体力的にきつい」は、六会で41.2%と最も多くなっている。

買い物で不便を感じる理由（地域別）

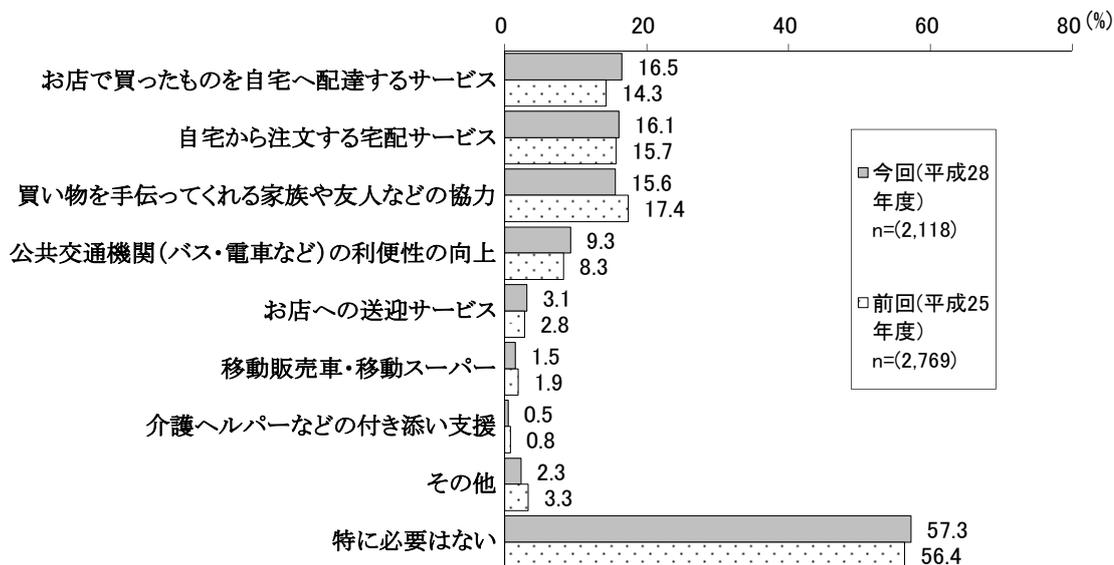


※「その他」を除く

(3) 買い物で必要とする(希望する)支援やサービス

問12 あなた(ご本人)は、食料品や日用品など、日常生活に必要な買い物をする時、必要とする(希望する)支援やサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「お店で買ったものを自宅へ配達するサービス」が1割台半ばで最多

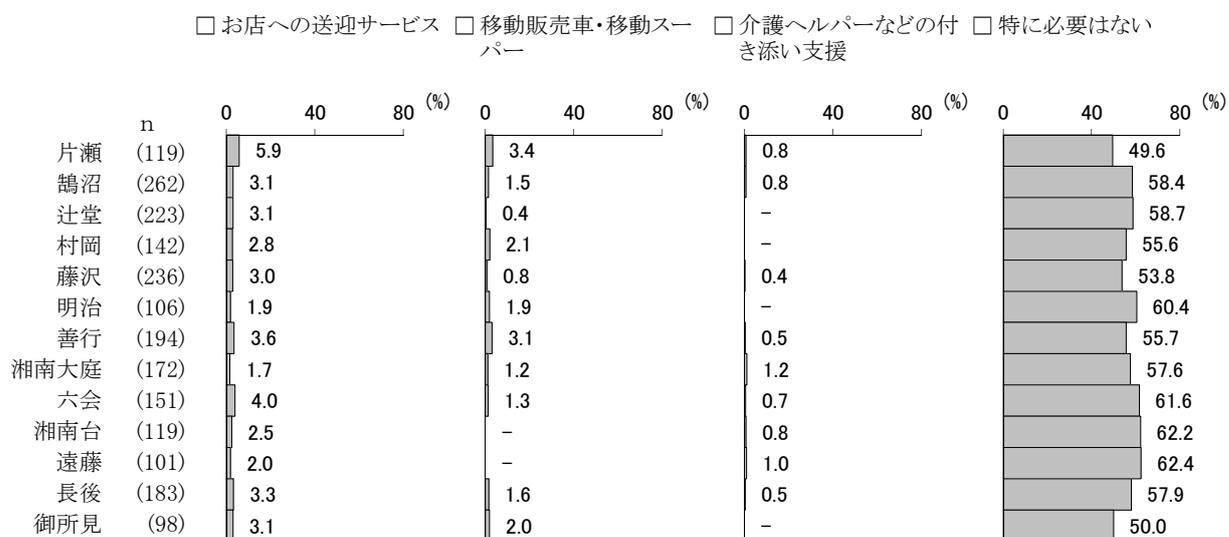
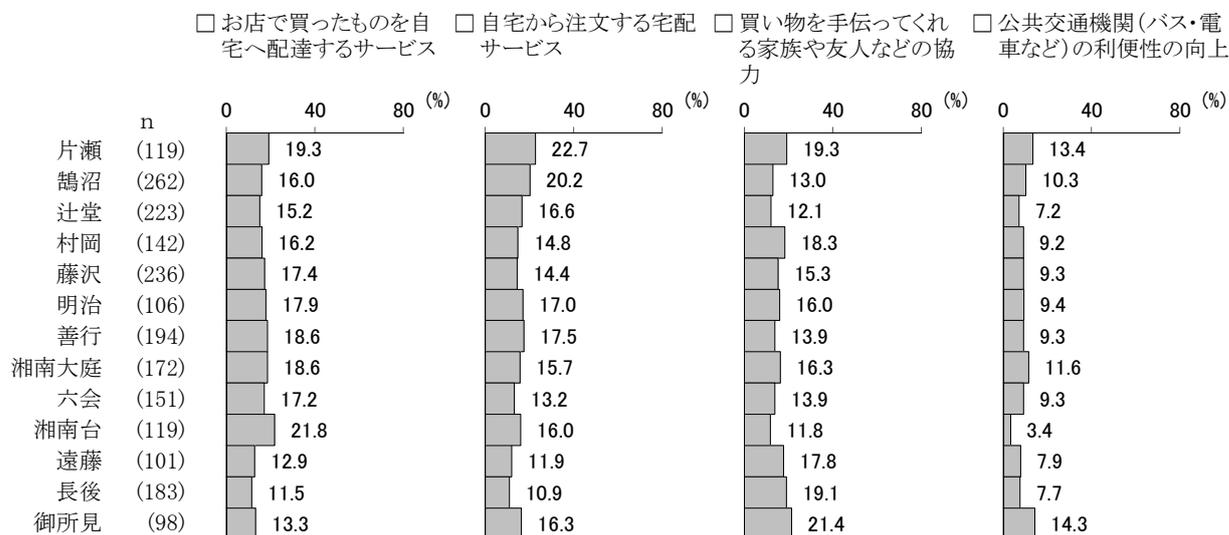


買い物で必要とする(希望する)支援やサービスは、「お店で買ったものを自宅へ配達するサービス」が16.5%で最も多く、以下「自宅から注文する宅配サービス」(16.1%)、「買い物を手伝ってくれる家族や友人などの協力」(15.6%)と続いている。一方、「特に必要はない」は57.3%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

地域別にみると、「お店で買ったものを自宅へ配達するサービス」は湘南台で21.8%と最も多くなっている。「自宅から注文する宅配サービス」は片瀬で22.7%と最も多く、「買い物を手伝ってくれる家族や友人などの協力」は御所見で21.4%と最も多くなっている。

買い物で必要とする(希望する)支援やサービス(地域別(上位7項目+特に必要はない))



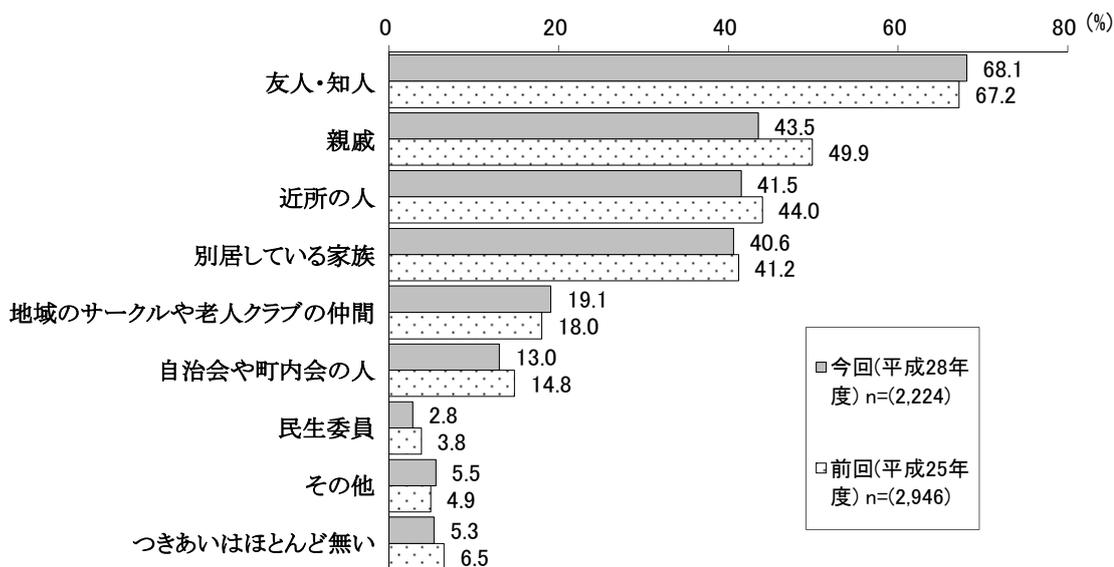
※「その他」を除く

## 6. 同居の家族以外のお付き合いの状況について

### (1) 同居の家族以外で付き合いや連絡を取り合う人の有無

問13 普段、同居の家族以外でどのような方とお付き合いをしたり、連絡をとりあったりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「友人・知人」が7割弱で最多

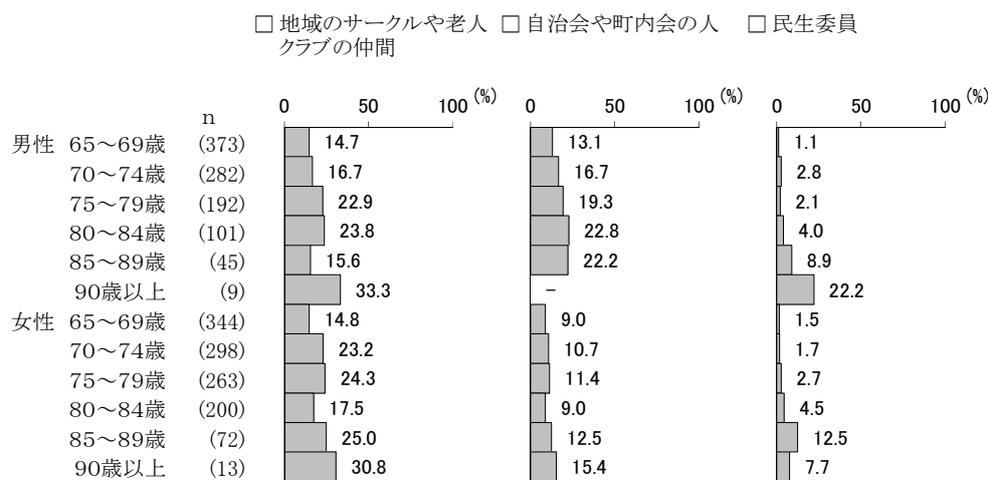
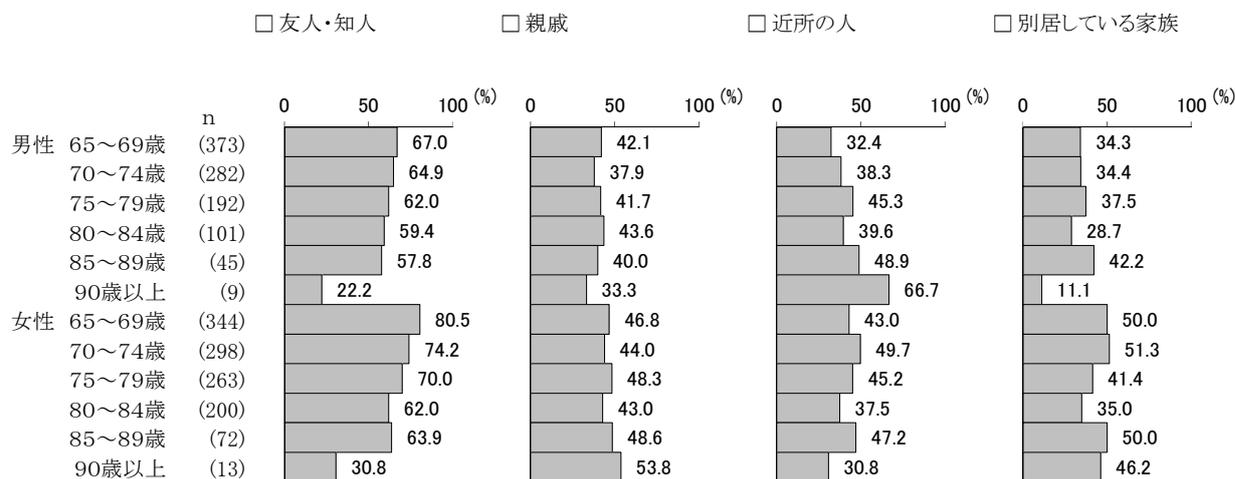


同居の家族以外で付き合いや連絡を取り合う人の有無は、「友人・知人」が68.1%で最も多く、以下「親戚」(43.5%)、「近所の人」(41.5%)と続いている。

前回調査と比較すると、「親戚」は前回(49.9%)より6.4ポイント減少した。

性・年齢別にみると、「友人・知人」は男女ともに、年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。男性の場合、「近所の人」「自治会や町内の人」「民生委員」ともに、年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。一方、女性の場合、「親戚」「自治会や町内の人」「民生委員」ともに年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

同居の家族以外で付き合いや連絡を取り合う方（性・年齢別）

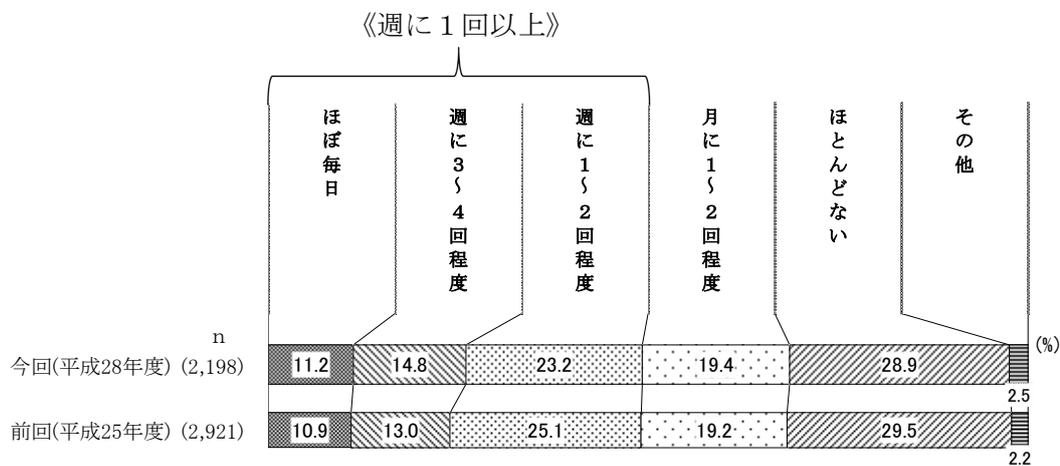


※「その他」「つきあいはほとんど無い」を除く

(2) 近隣や地域の方と付き合う機会

問14 普段、近隣や地域の方とお付き合いする機会はどの程度ありますか。(1つに○)

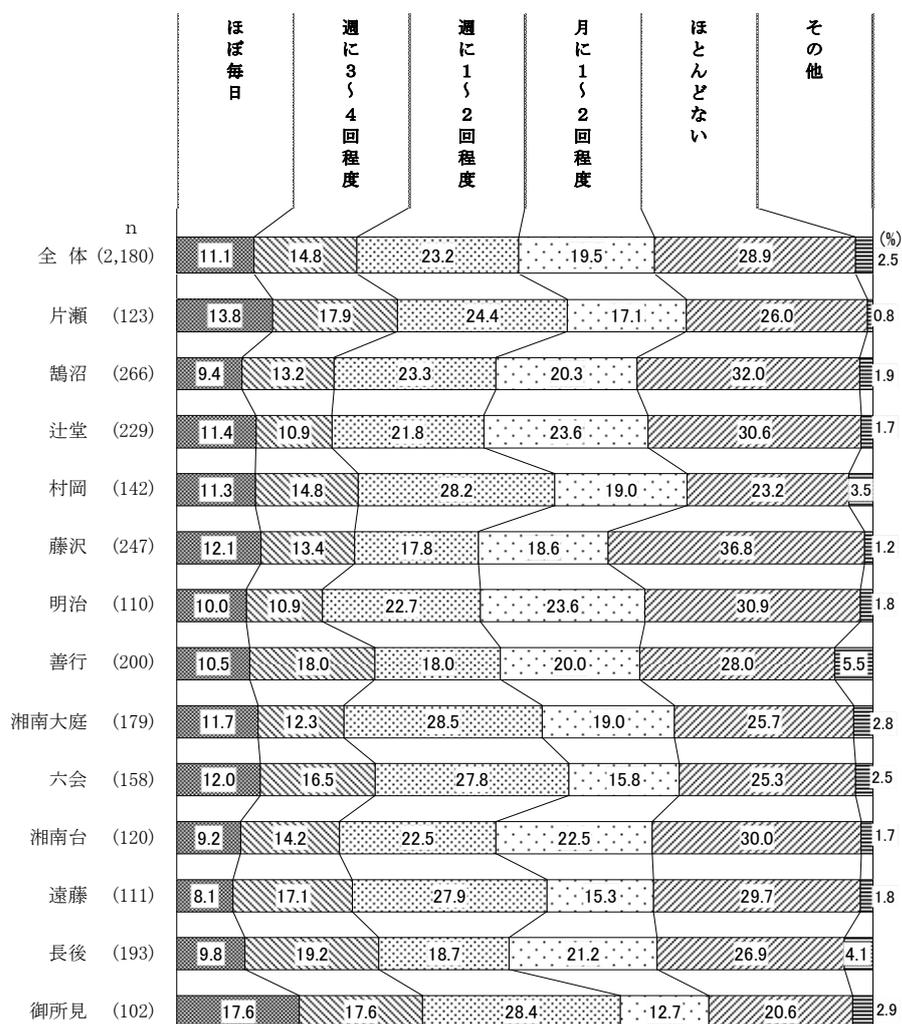
「ほとんどない」が3割弱



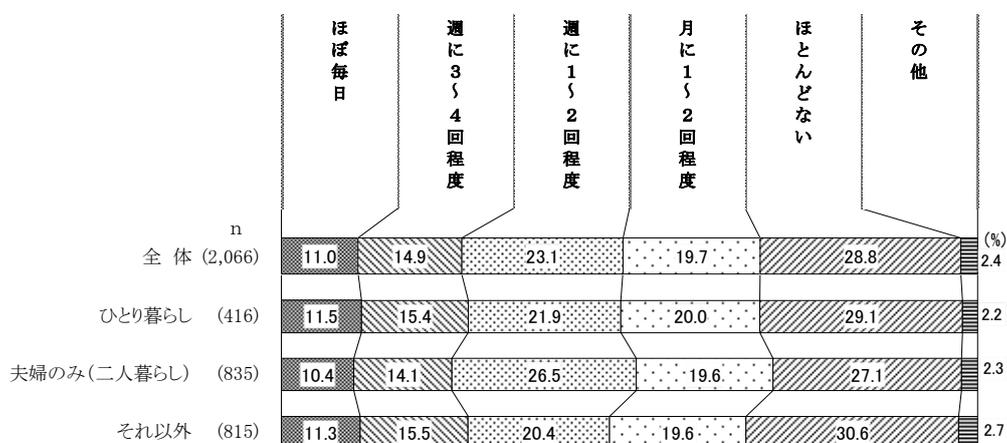
近隣や地域の方と付き合う機会は、「ほとんどない」が28.9%で最も多く、以下「週に1~2回程度」(23.2%)、「月に1~2回程度」(19.4%)と続いている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

近隣や地域の方と付き合う機会（地区別）



近隣や地域の方と付き合う機会（家族構成別）



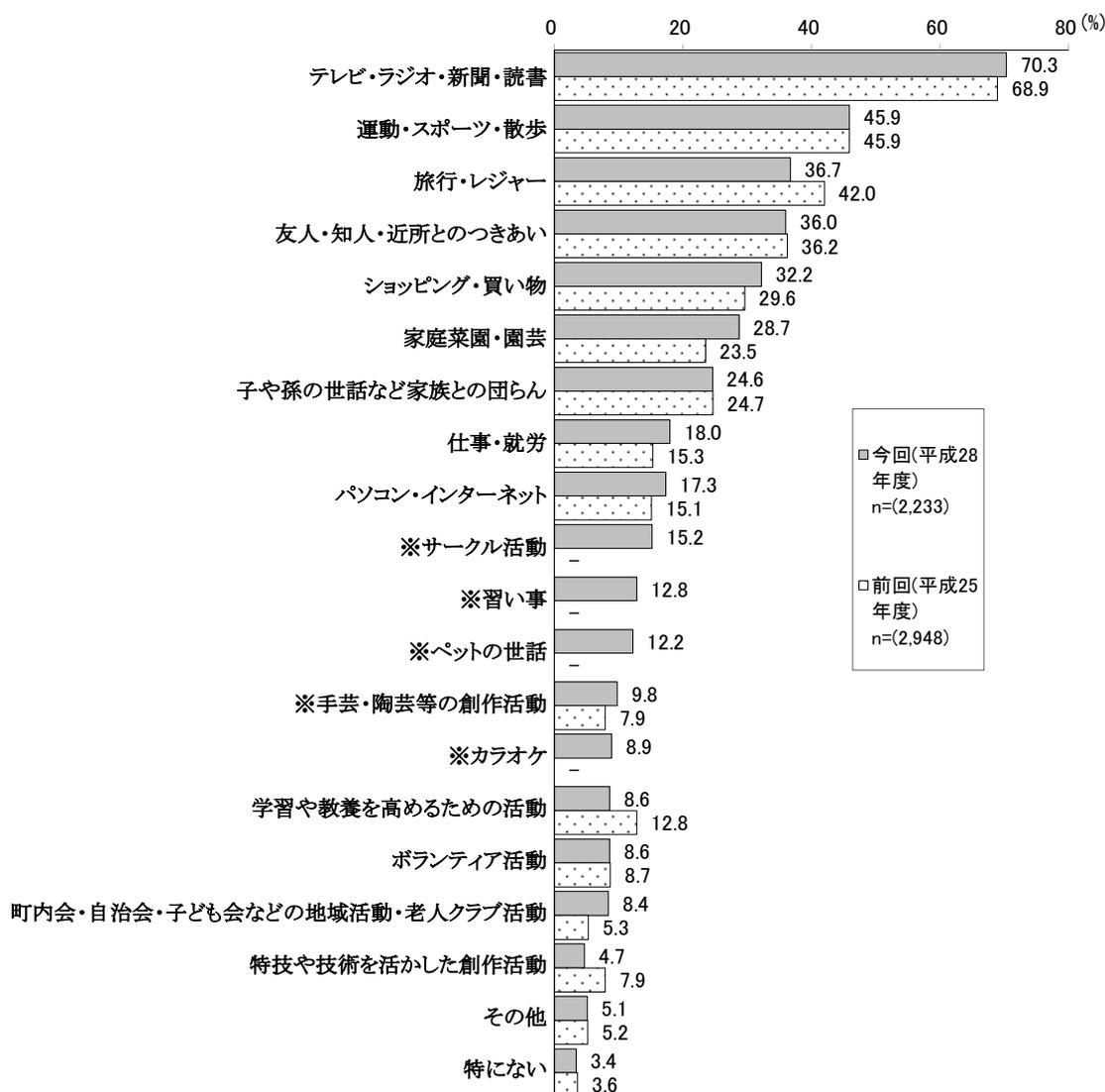
## 7. 生きがい・楽しみについて

### (1) 充実感や生きがいを感じる事・今後してみたいこと

問15 (1) 現在、どのようなことに充実感や生きがいを感じていますか。また(2) 今後してみたいことはありますか。(1)(2)それぞれにお答えください。(あてはまるものすべてに○)

充実感を感じることは「テレビ・ラジオ・新聞・読書」が7割強で最多。今後してみたいことは「旅行・レジャー」が3割台半ばで最多

#### (1) 現在、どのようなことに充実感や生きがいを感じているか



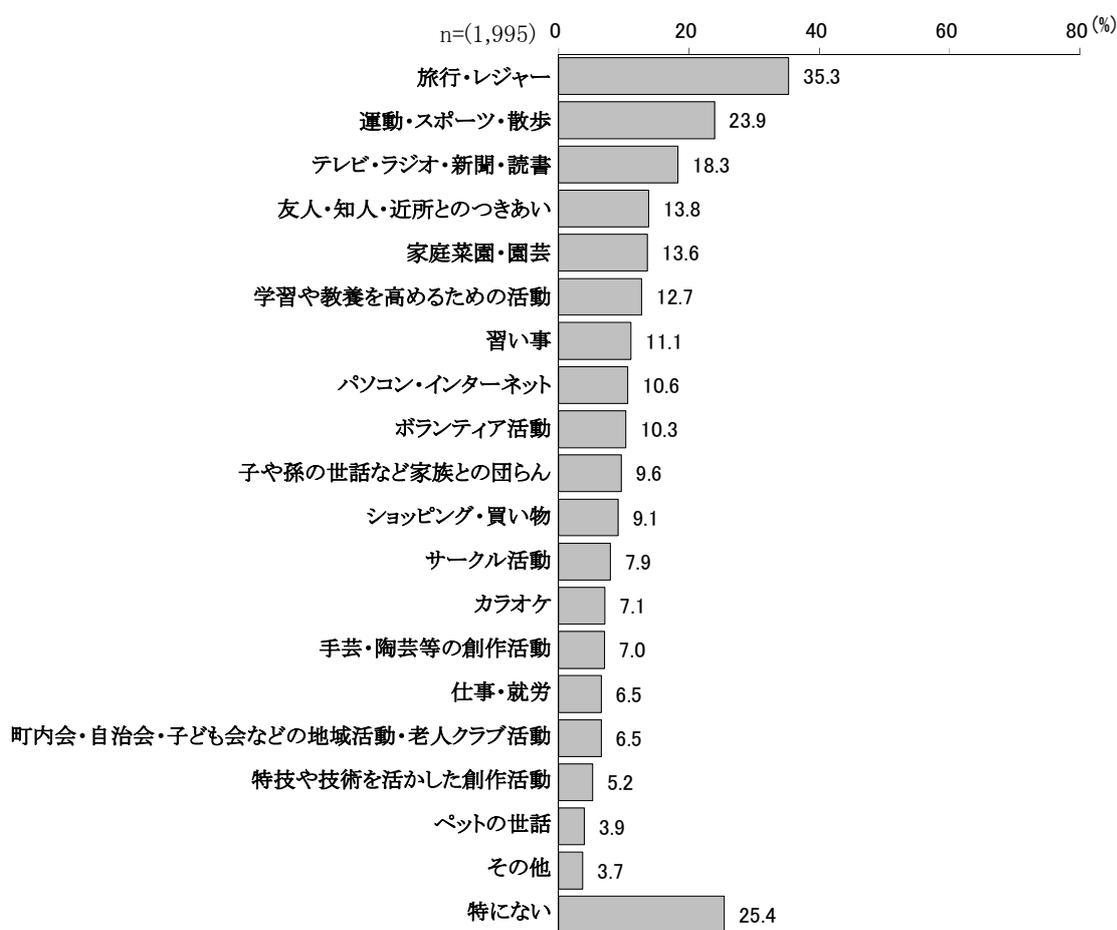
※「サークル活動」、「習い事」、「ペットの世話」、「カラオケ」は今回、新たに調査した項目

※「手芸・陶芸等の創作活動」は前回調査では「特技や技術を生かした創作活動」

現在、どのようなことに充実感や生きがいを感じているか、「テレビ・ラジオ・新聞・読書」が70.3%で最も多く、以下「運動・スポーツ・散歩」(45.9%)、「旅行・レジャー」(36.7%)と続いている。

前回調査と比較すると、「家庭菜園・園芸」は前回(23.5%)より5.2ポイント増加した。

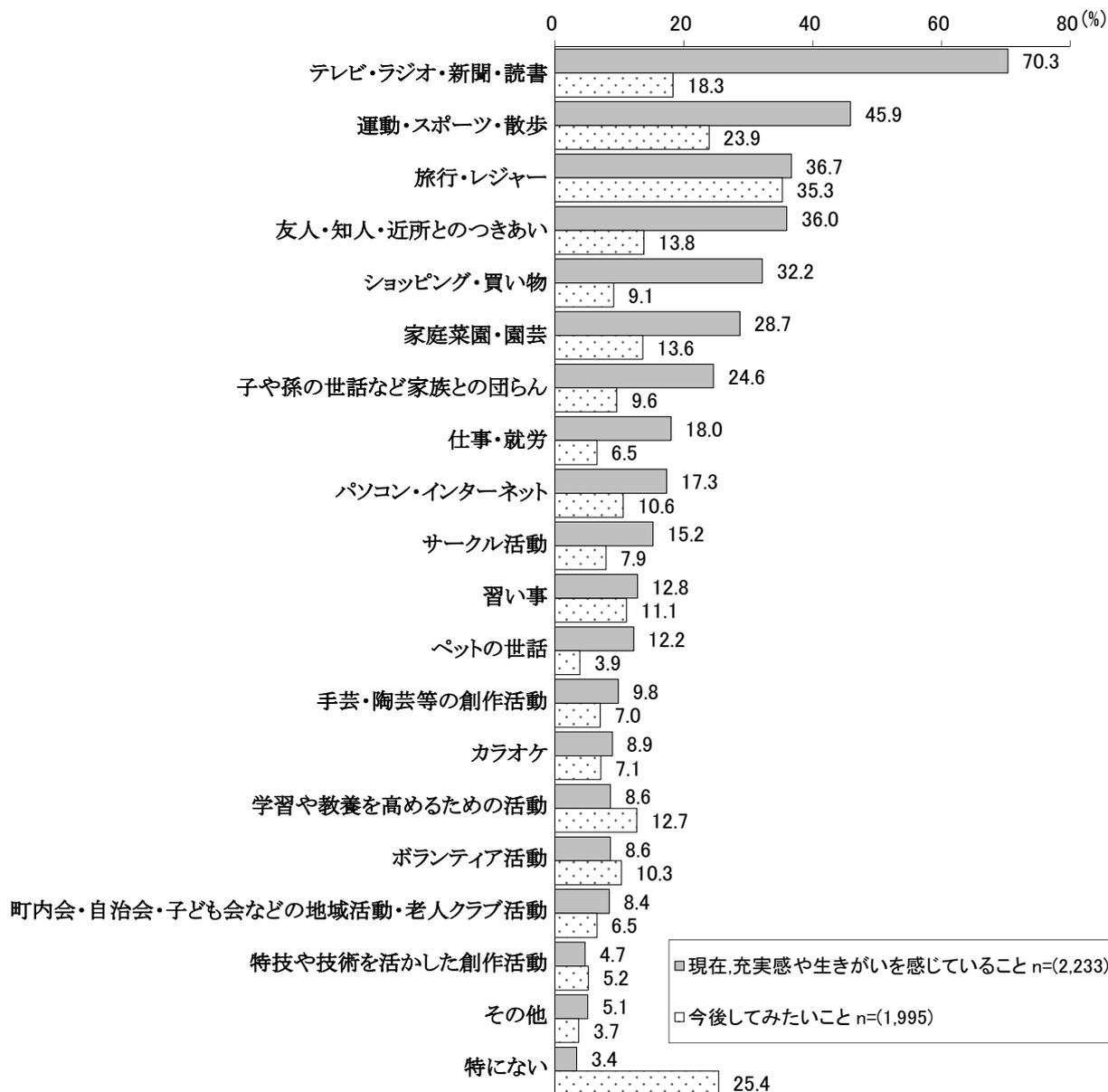
## (2) 今後してみたいこと



今後してみたいことは、「旅行・レジャー」が35.3%で最も多く、以下「運動・スポーツ・散歩」(23.9%)、「テレビ・ラジオ・新聞・読書」(18.3%)と続いている。

一方、「特にない」は25.4%となっている。

(3) 現在、充実感や生きがいを感じていること・今後してみたいことの比較

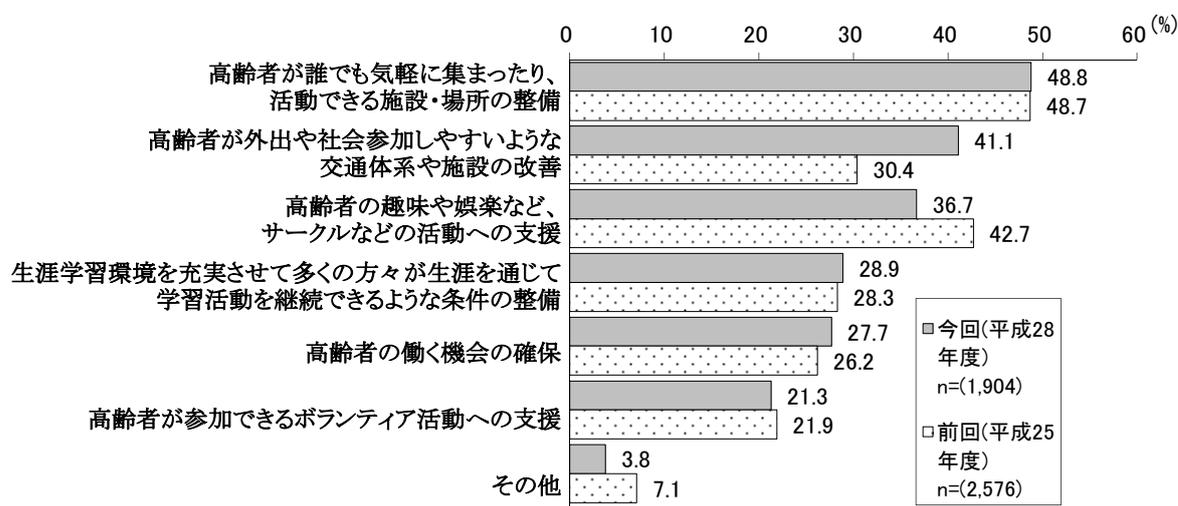


現在、充実感や生きがいを感じていることと今後してみたいことの差異をみると、全体的に、充実感や生きがいを感じていることの方が今後してみたいことよりも多い。特に「テレビ・ラジオ・新聞・読書」(52.0ポイント)「ショッピング・買い物」(23.1ポイント)「友人・知人・近所とのつきあい」(22.2ポイント)が差異が大きい。一方「特にない」は今後してみたいことが22.0ポイント多い。

## (2) 生きがいづくり・社会参加に必要な支援

問16 市が生きがいづくり・社会参加に対する取り組みをすすめていくうえで、どのような支援が必要と考えますか。(あてはまるものすべてに○)

「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設・場所の整備」が5割弱で最多



生きがいづくり・社会参加に必要な支援は、「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設・場所の整備」が48.8%で最も多く、以下「高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善」(41.1%)、「高齢者の趣味や娯楽など、サークルなどの活動への支援」(36.7%)と続いている。

前回調査と比較すると、「高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善」は前回(30.4%)より10.7ポイント増加した。

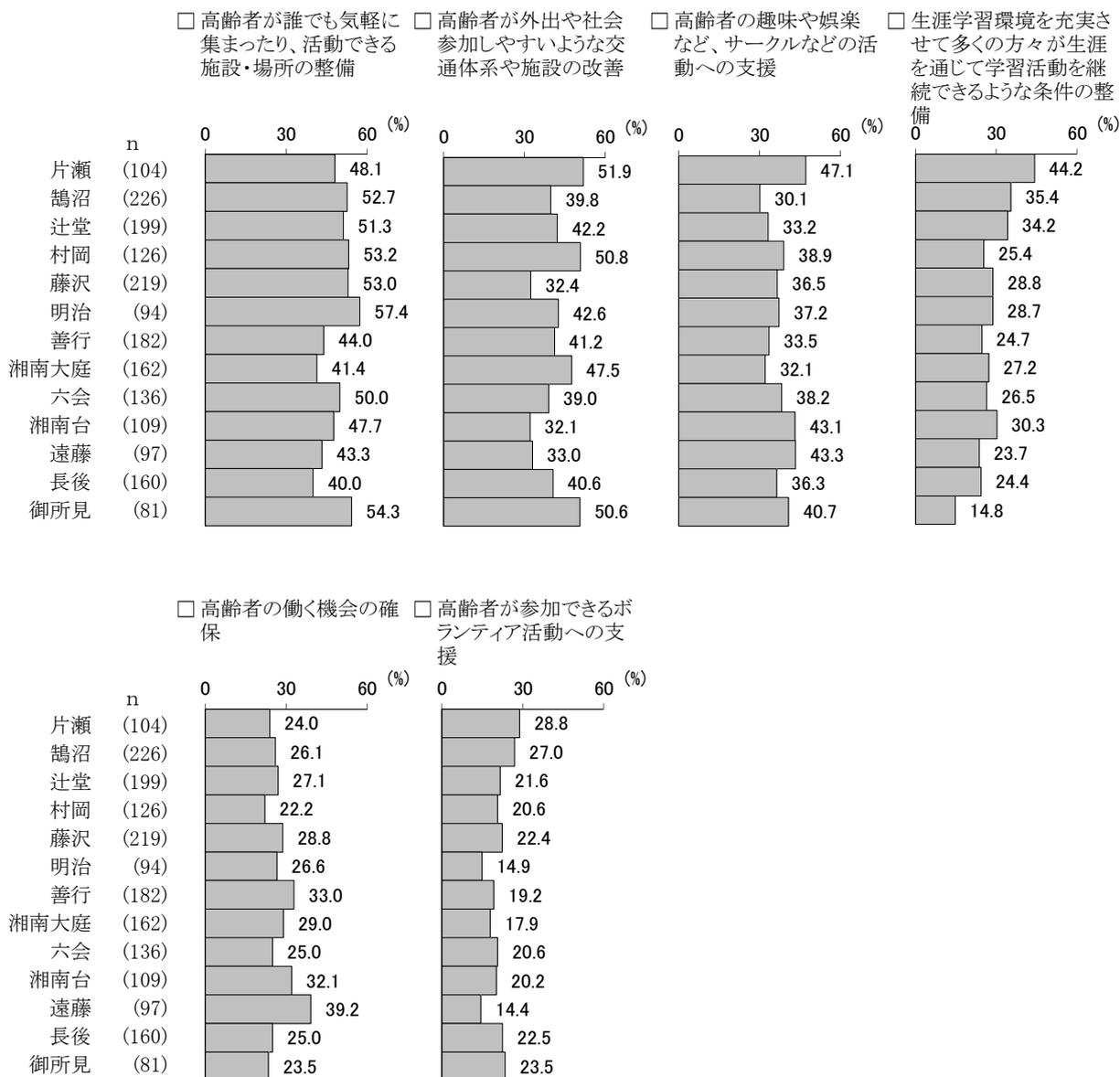
## 第2章 調査結果の詳細

地域別にみると、「高齢者が誰でも気軽に集まったり、活動できる施設・場所の整備」は明治 (57.4%) が最も多く、以下、御所見 (54.3%)、村岡 (53.2%) と続いている。

「高齢者が外出や社会参加しやすいような交通体系や施設の改善」は片瀬 (51.9%) が最も多く、以下、村岡 (50.8%)、御所見 (50.6%) と続いている。

「高齢者の趣味や娯楽など、サークルなどの活動への支援」は片瀬 (47.1%) が最も多く、以下、遠藤 (43.3%)、湘南台 (43.1%) と続いている。

### 生きがづくり・社会参加に必要な支援（地域別）

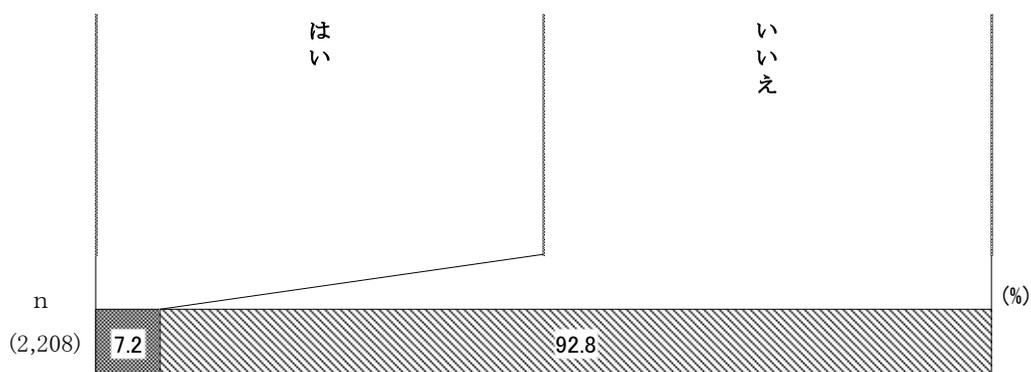


※「その他」を除く

(3) 老人クラブ(ゆめクラブ)加入状況

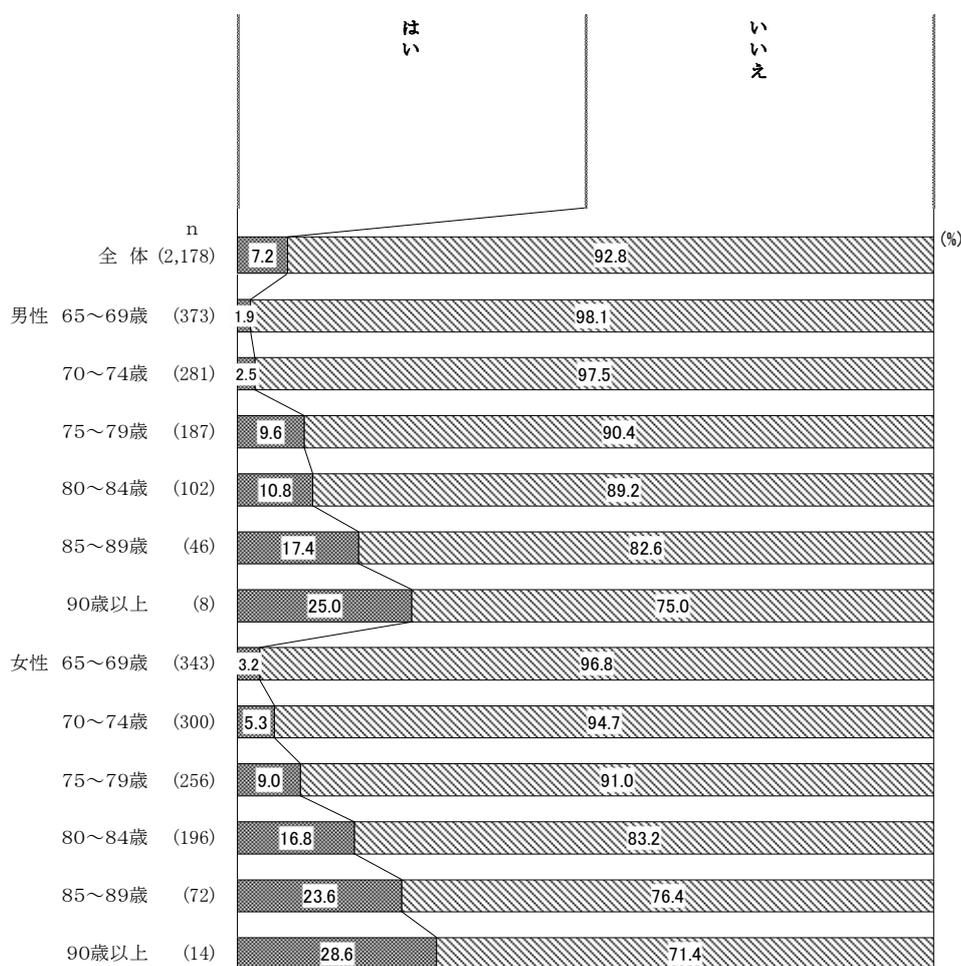
問17 老人クラブ(ゆめクラブ)に加入していますか。(1つに○)

老人クラブ(ゆめクラブ)に加入していない方は9割強



老人クラブ(ゆめクラブ)加入状況は、「はい」が7.2%、「いいえ」が92.8%となっている。

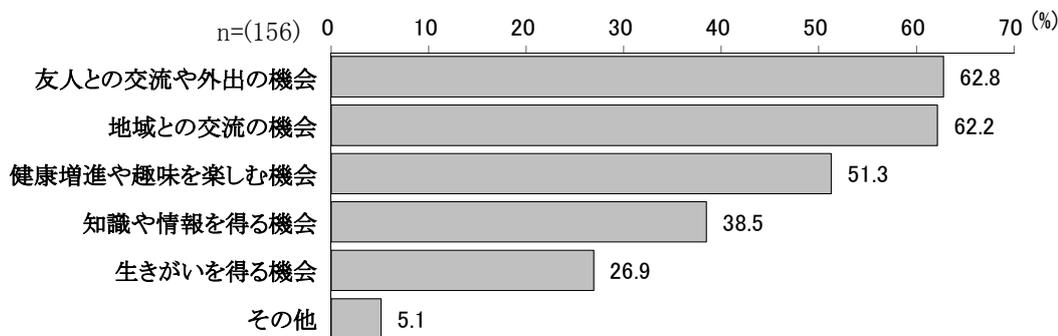
老人クラブ(ゆめクラブ)加入状況 (性・年代別)



(4) 老人クラブ(ゆめクラブ)の活動機会

《問17で「老人クラブ(ゆめクラブ)に加入している」と回答した方にうかがいます。》  
 問17-1 老人クラブ(ゆめクラブ)の活動は、どのような機会となっていますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

老人クラブ(ゆめクラブ)の活動機会は「友人との交流や外出の機会」が6割強で最多

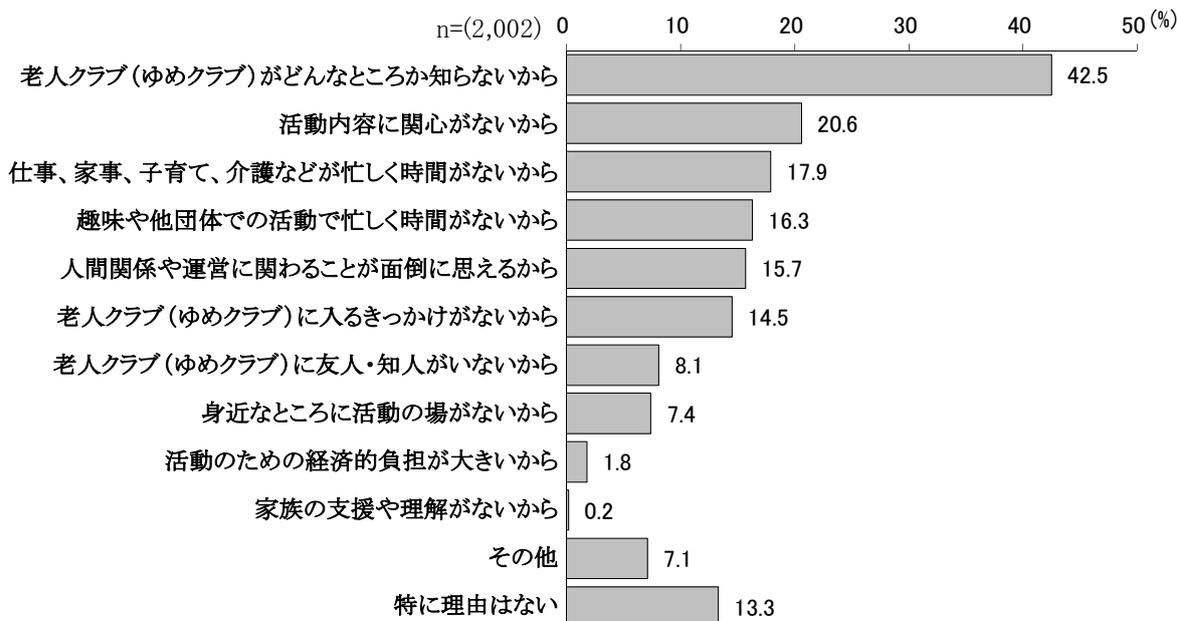


老人クラブ(ゆめクラブ)の活動機会は、「友人との交流や外出の機会」が62.8%で最も多く、以下「地域との交流の機会」(62.2%)、「健康増進や趣味を楽しむ機会」(51.3%)と続いている。

(5) 老人クラブ(ゆめクラブ)に参加しない理由

《問17で「老人クラブ(ゆめクラブ)に加入していない」と回答した方にうかがいます。》  
 問17-2 老人クラブ(ゆめクラブ)に参加しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「老人クラブ(ゆめクラブ)がどんなところか知らないから」が4割強で最多



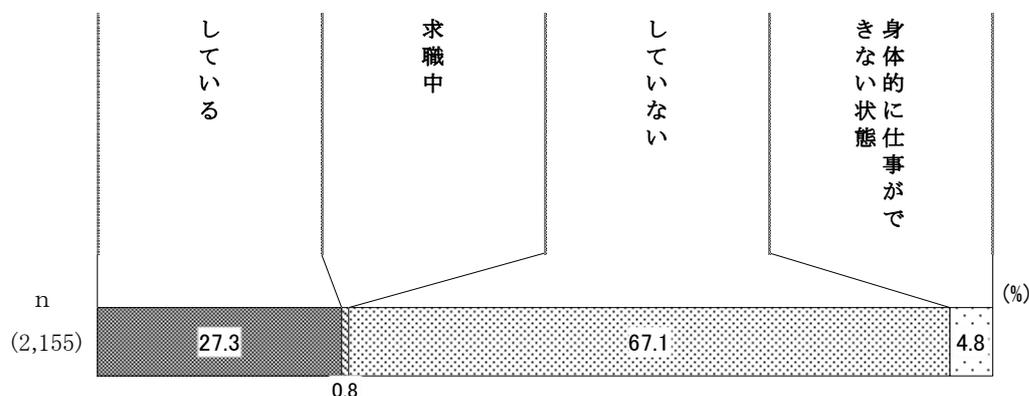
老人クラブ(ゆめクラブ)に参加しない理由は、「老人クラブ(ゆめクラブ)がどんなところか知らないから」が42.5%で最も多く、以下「活動内容に関心がないから」(20.6%)、「仕事、家事、子育て、介護などが忙しく時間がないから」(17.9%)と続いている。

## 8. 就労の状況について

### (1) 現在の就労状況

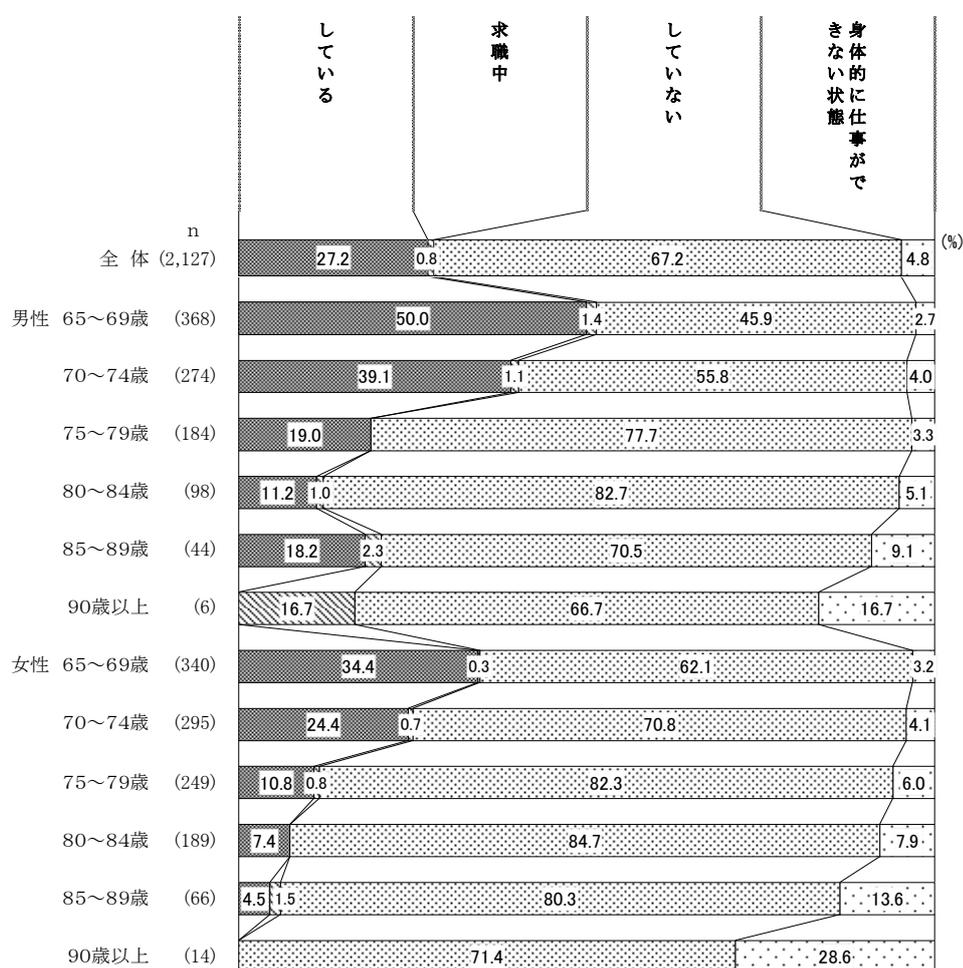
問18 現在、仕事をしていますか。(1つに○)

「していない」が7割弱



現在の就労状況は、「していない」が67.1%で最も多く、以下「している」(27.3%)、「身体的に仕事ができない状態」(4.8%)と続いている。

現在の就労状況 (性・年代別)

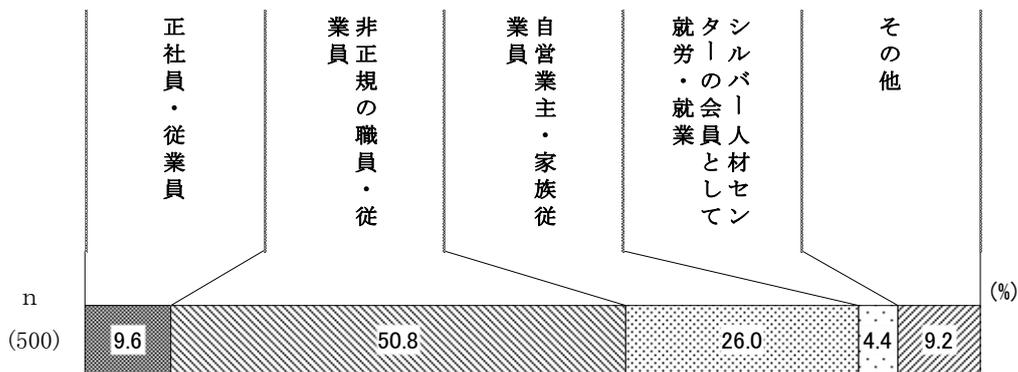


(2) 就労形態

《問18で「仕事をしている」または「求職中」と回答した方にうかがいます。》

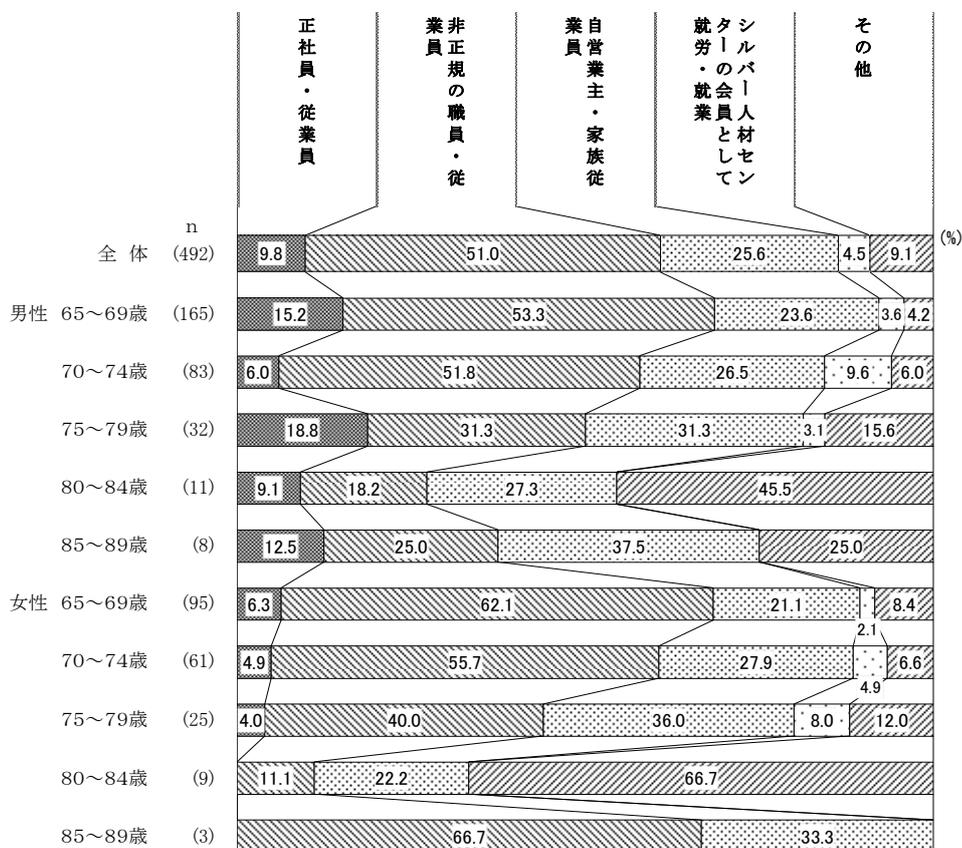
問18-1 どのような形態で仕事をしていますか。求職中の方は、どのような形態の仕事を探していますか。(1つに○)

就労形態は、「非正規の職員・従業員」が5割強



就労形態は、「非正規の職員・従業員」が50.8%で最も多く、以下「自営業主・家族従業員」(26.0%)、「正社員・従業員」(9.6%)と続いている。

現在の就労形態 (性・年代別)

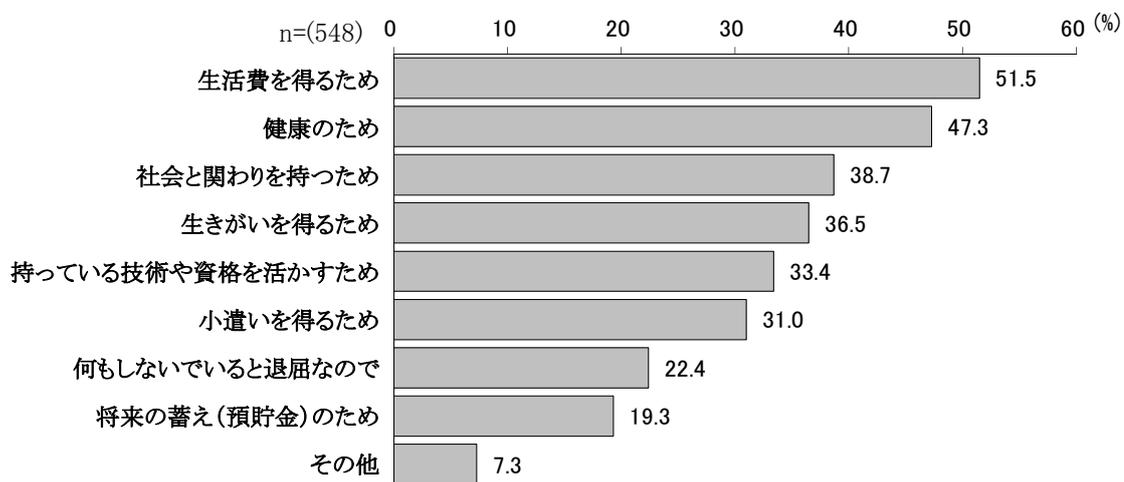


## (3) 仕事をしている(または探している)理由

《問18で「仕事をしている」または「求職中」と回答した方にうかがいます。》

問18-2 仕事をしている(または探している)理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「生活費を得るため」が5割強で最多



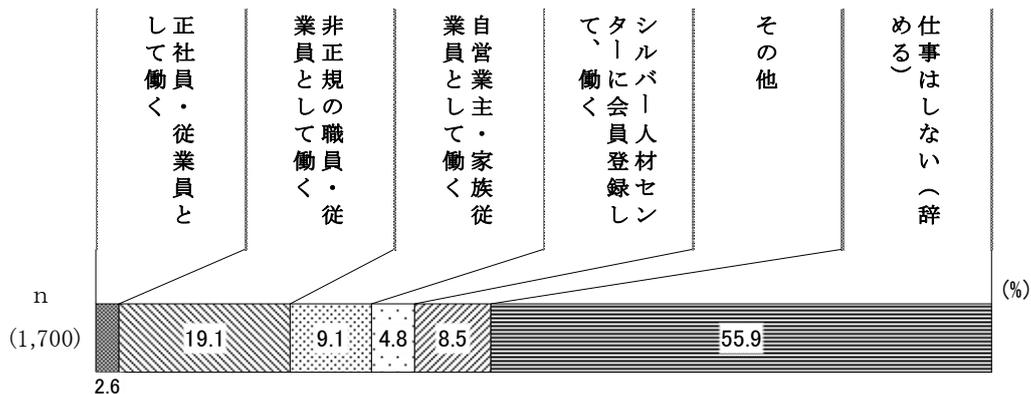
仕事をしている(または探している)理由は、「生活費を得るため」が51.5%で最も多く、以下「健康のため」(47.3%)、「社会と関わりを持つため」(38.7%)と続いている。

(4) 今後の働き方

《問18で「仕事をしている」「求職中」「仕事をしていない」のいずれかを回答した方のみにうかがいます。》

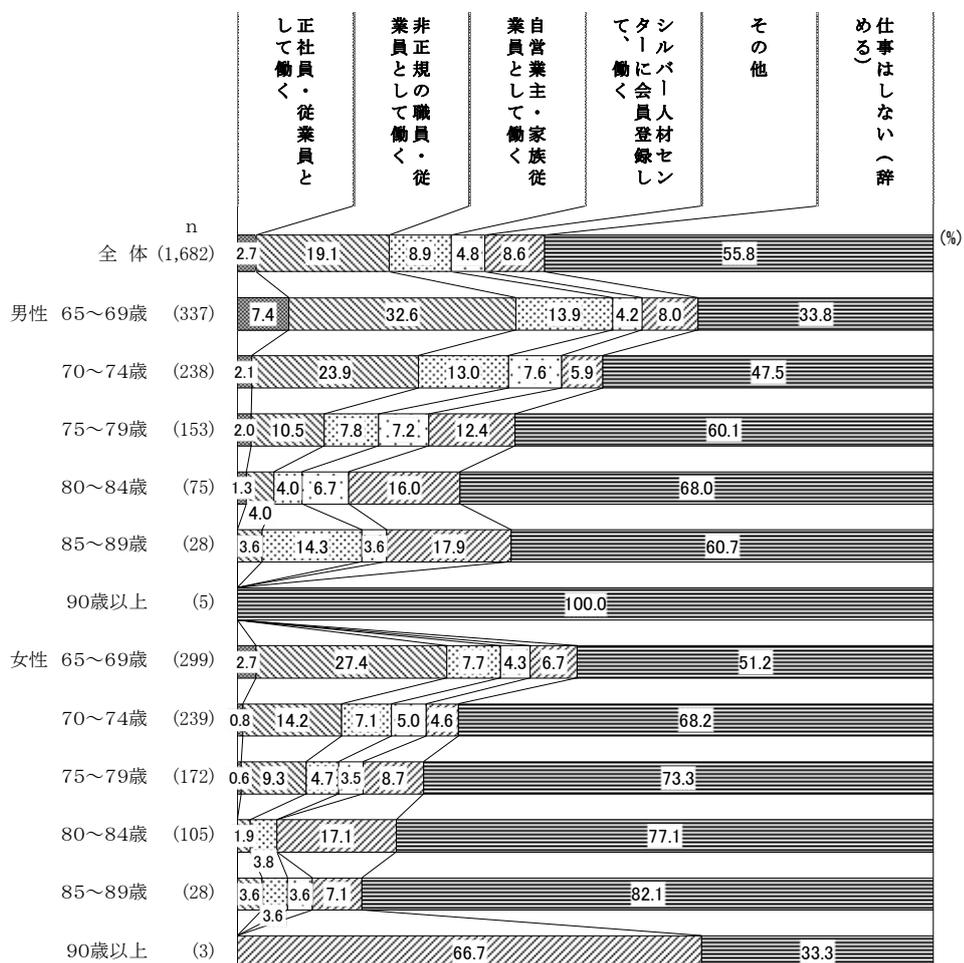
問19 今後の働き方について、どのように考えていますか。(1つに〇)

「仕事はしない(辞める)」が5割台半ば



今後の働き方は、「仕事はしない(辞める)」が55.9%で最も多く、以下「非正規の職員・従業員として働く」(19.1%)、「自営業主・家族従業員として働く」(9.1%)と続いている。

今後の働き方 (性・年代別)

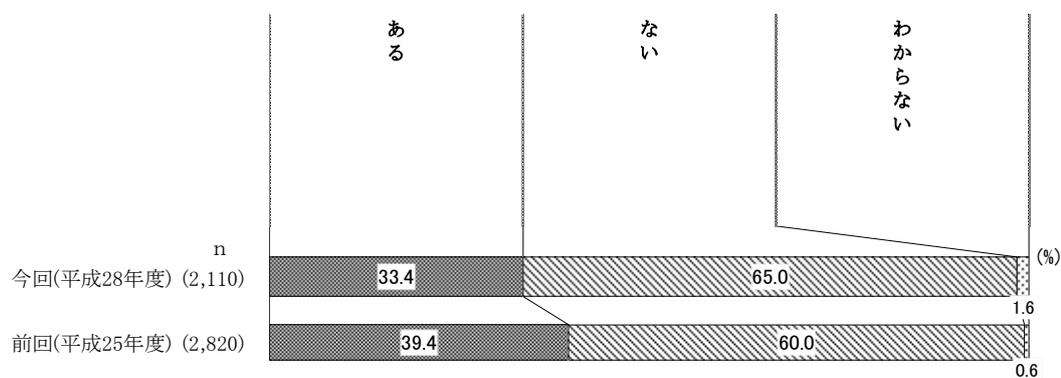


## 9. 地域で参加している活動について

## (1) 地域で参加している活動の有無

問20 現在、地域で参加している活動がありますか。(1つに○)

参加している活動がある方は3割強

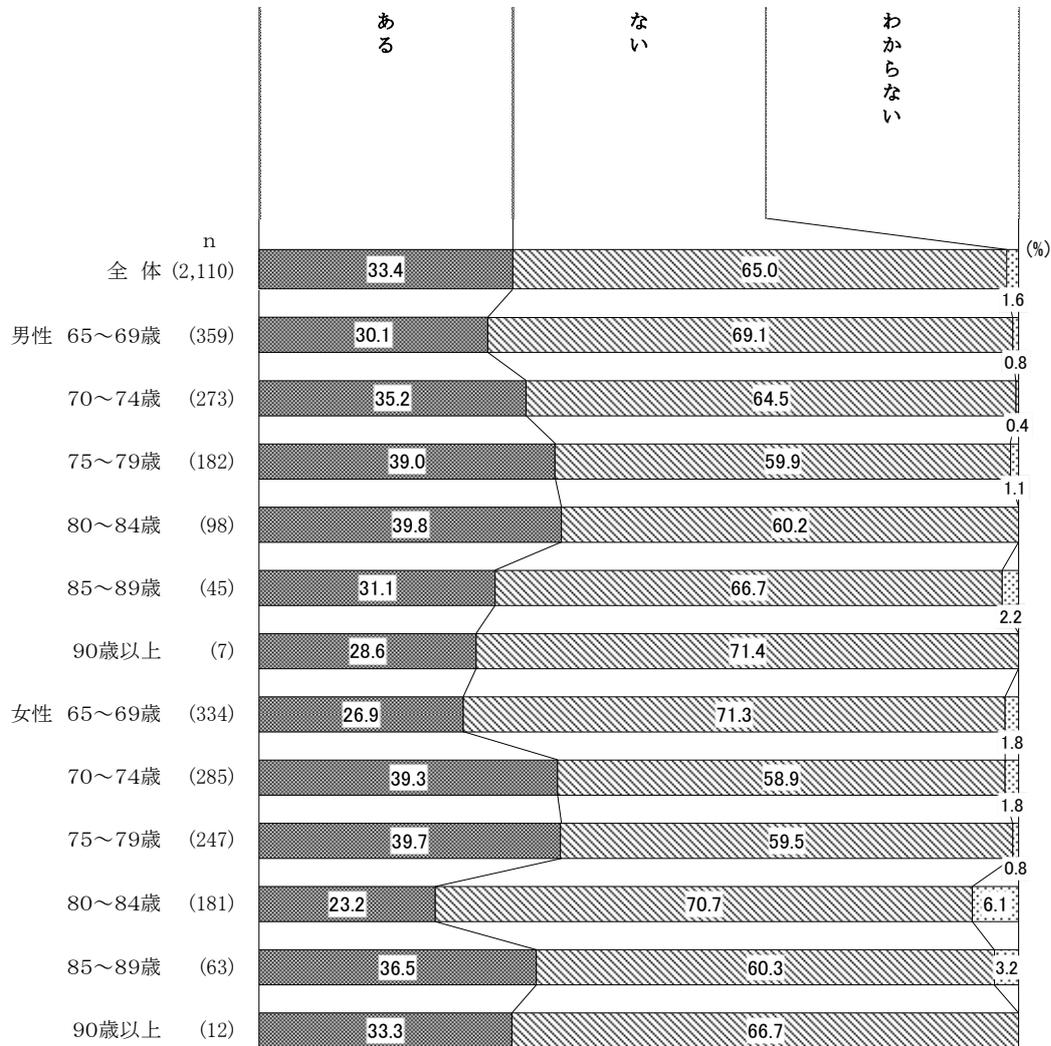


地域で参加している活動の有無は、「ある」が33.4%、「ない」が65.0%となっている。前回調査と比較すると、「ある」は前回(39.4%)より6.0ポイント減少した。

## 第2章 調査結果の詳細

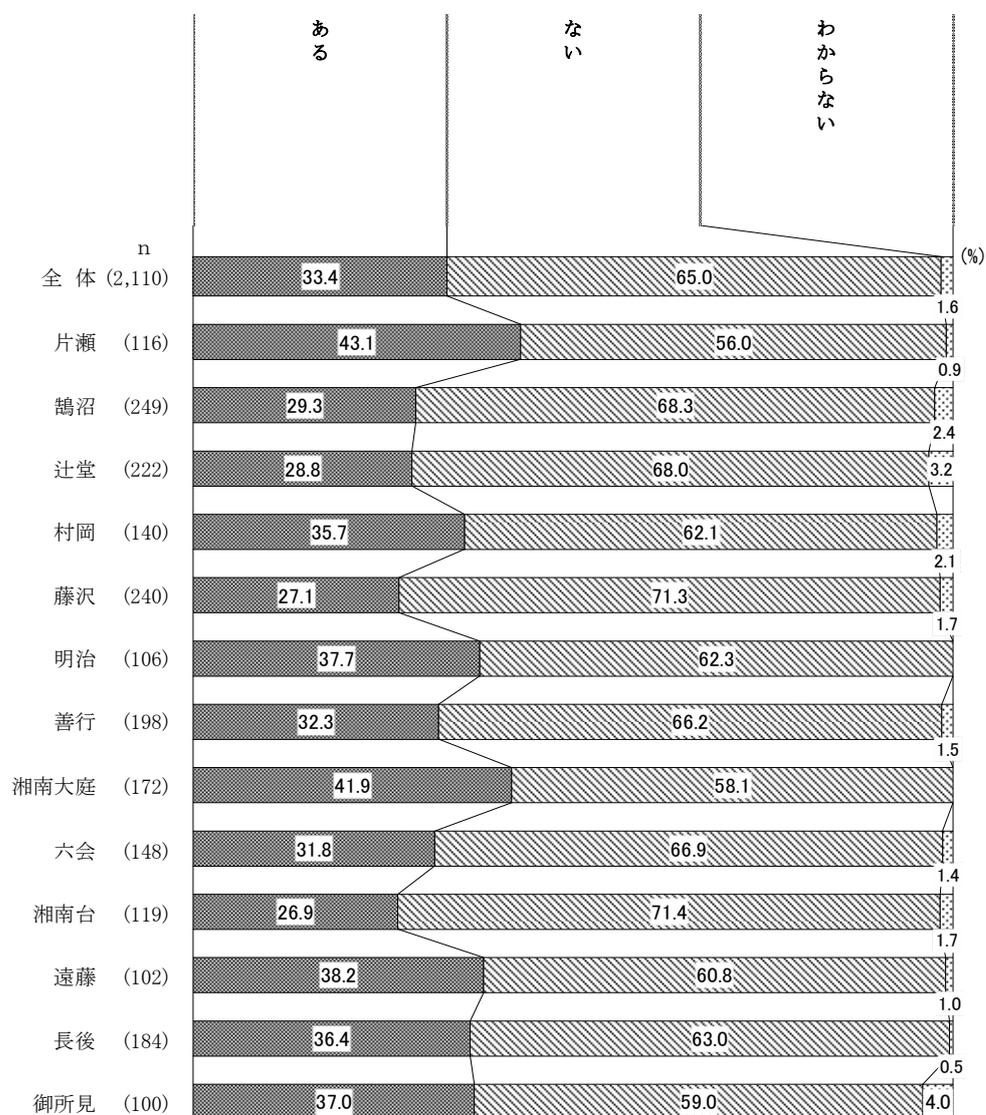
性・年齢別にみると、「ある」は男性80～84歳で39.8%と最も多く、また、65～69歳と80～84歳を除き、各年齢とも女性のほうが男性を上回っている。

地域で参加している活動の有無（性・年齢別）



地域別にみると、「ある」は片瀬で43.1%と最も多くなっている。

地域で参加している活動の有無（地域別）

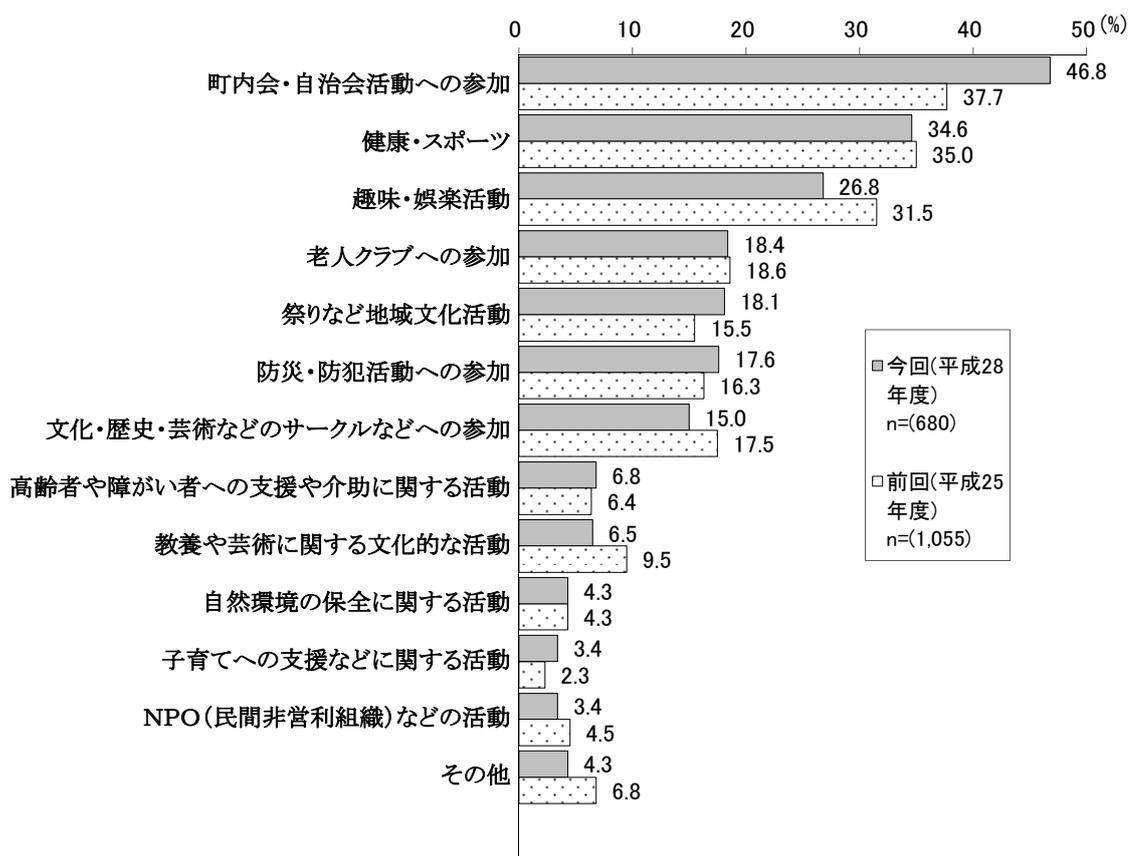


(2) 地域で参加している活動

《地域で参加している活動がある方のみ（問20で「参加している活動がある」と回答した方）お答えください。》

問20-1 現在、地域で参加している活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「町内会・自治会活動への参加」が4割台半ばで最多



現在、地域で参加している活動は、「町内会・自治会活動への参加」が46.8%で最も多く、以下「健康・スポーツ」(34.6%)、「趣味・娯楽活動」(26.8%)と続いている。

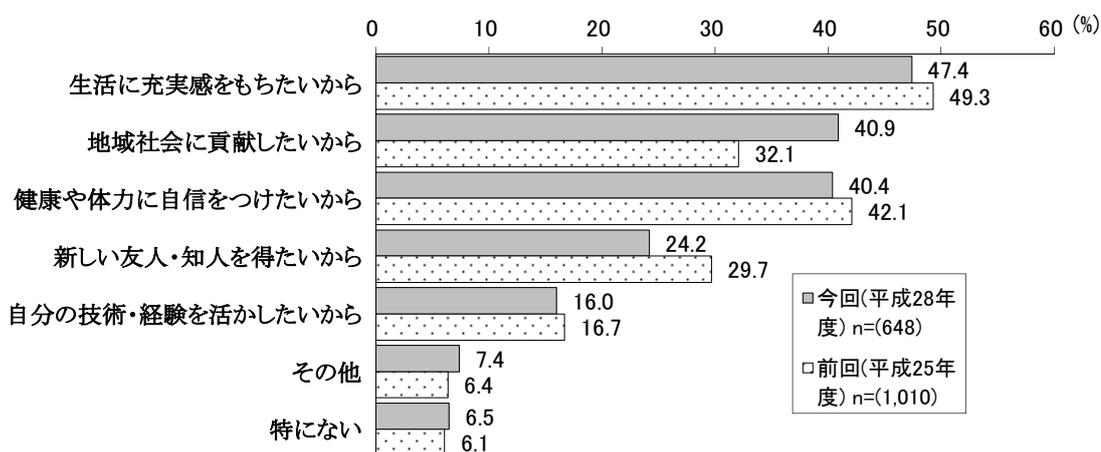
前回調査と比較すると、「町内会・自治会活動への参加」は前回(37.7%)より9.1ポイント増加した。

## (3) 地域の活動に参加した理由

《地域で参加している活動がある方のみ（問20で「参加している活動がある」と回答した方）お答えください。》

問20-2 地域の活動に参加した理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「生活に充実感をもちたいから」が5割弱で最多



地域の活動に参加した理由は、「生活に充実感をもちたいから」が47.4%で最も多く、以下「地域社会に貢献したいから」(40.9%)、「健康や体力に自信をつけたいから」(40.4%)と続いている。

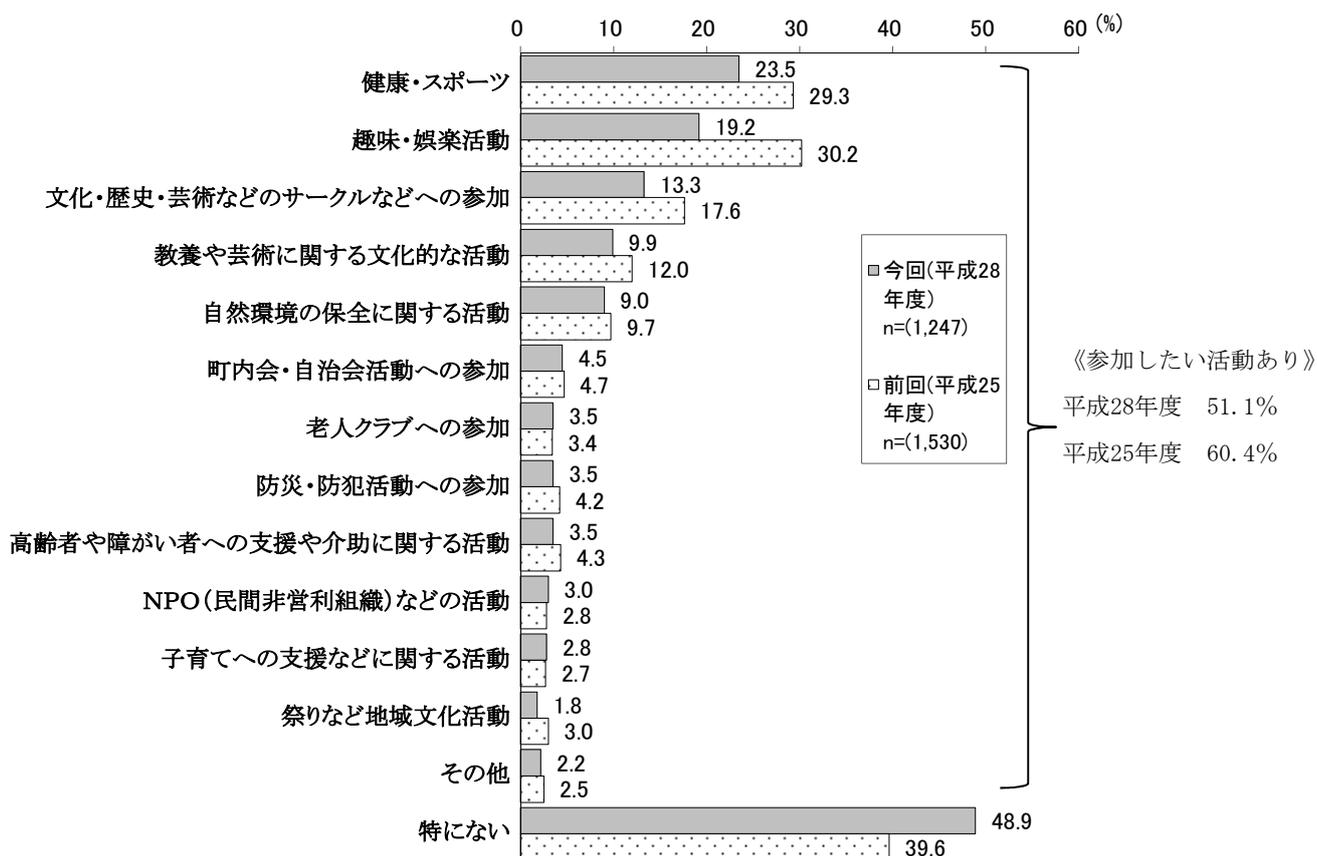
前回調査と比較すると、「地域社会に貢献したいから」は前回(32.1%)より8.8ポイント増加した。

(4) 今後、地域で参加したい活動

《地域で参加している活動がない方のみ（問20で地域で参加している活動が「ない」または「わからない」と回答した方）お答えください。》

問20-3 今後、地域で参加したい活動がありますか(あてはまるものすべてに○)

今後、地域で参加したい活動は「健康・スポーツ」が2割強で最多



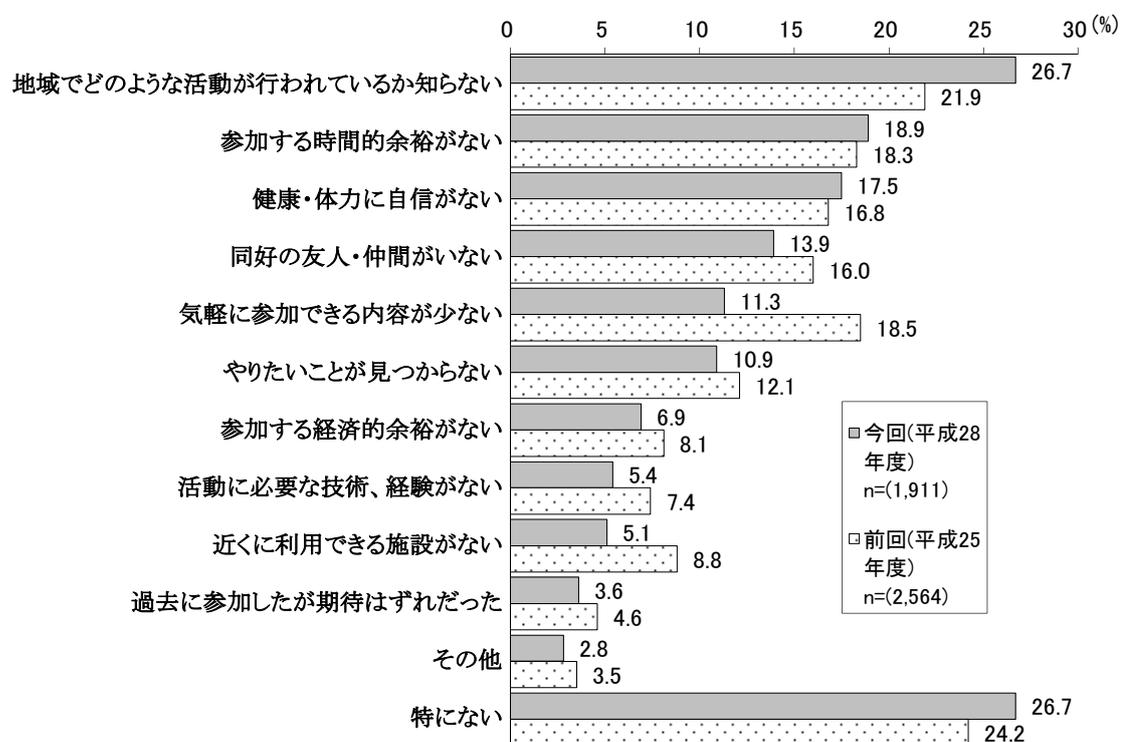
今後、地域で参加したい活動は、「健康・スポーツ」が23.5%で最も多く、以下「趣味・娯楽活動」(19.2%)、「文化・歴史・芸術などのサークルなどへの参加」(13.3%)と続いている。一方、「特にない」は48.9%となっている。

前回調査と比較すると、「特にない」は前回(39.6%)より9.3ポイント増加した。

## (5) 地域の活動に参加する上で支障となることや問題点

問21 地域の活動に参加する上で支障となることや問題点として感じているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

地域の活動に参加する上での問題点としては、周知不足、時間的余裕、健康・体力面の順



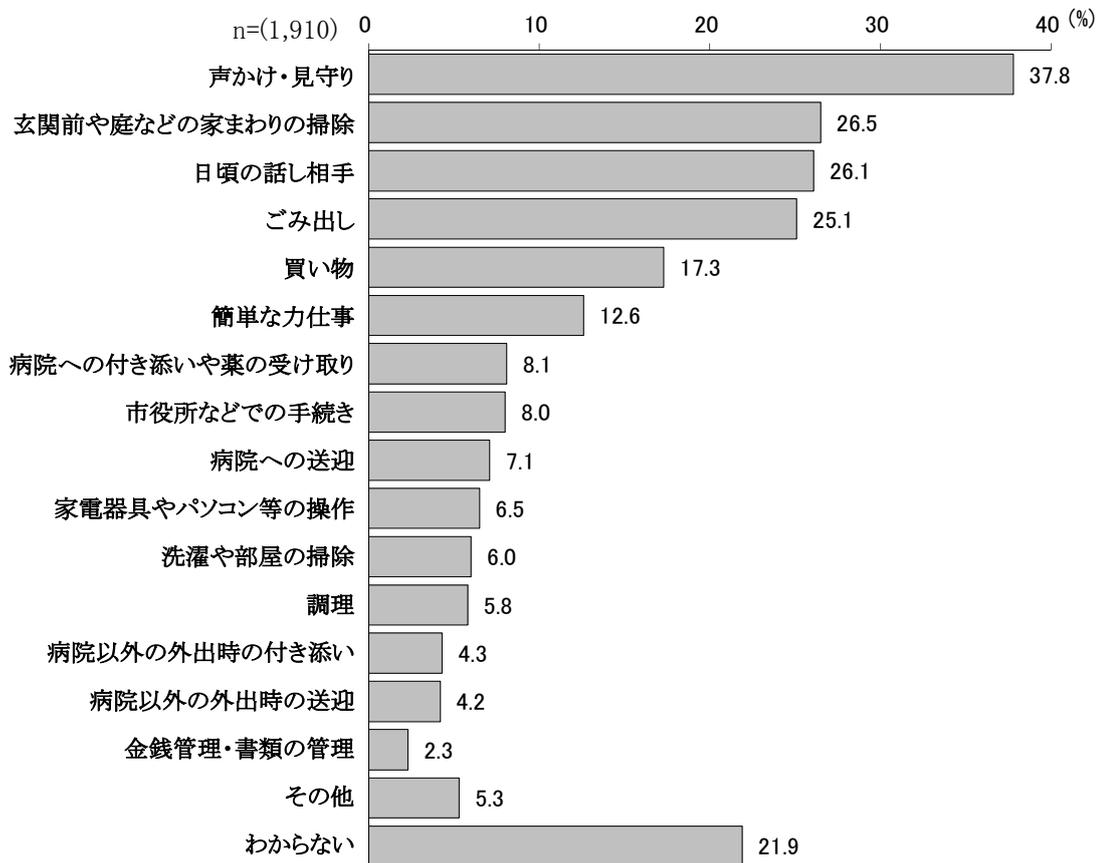
地域の活動に参加する上で支障となることや問題点は、「地域でどのような活動が行われているか知らない」が26.7%で最も多く、以下「参加する時間的余裕がない」(18.9%)、「健康・体力に自信がない」(17.5%)と続いている。一方、「特になし」は26.7%となっている。

前回調査と比較すると、「気軽に参加できる内容が少ない」は前回(18.5%)より7.2ポイント減少した。

(6) 手助け出来ること

問22 お住まいの地域で何か他の人の手助けをするとしたら、どのようなことなら可能だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「声かけ・見守り」が4割弱で最多



手助けできることは、「声かけ・見守り」が37.8%で最も多く、以下「玄関前や庭などの家まわりの掃除」(26.5%)、「日頃の話し相手」(25.1%)と続いている。

## (7) 町会会・自治会活動を活性化するための意見

問23 町内会・自治会活動を活性化するために、ご経験やご意見などがありましたら、ご自由にご記入ください。

自由記入は248人の回答があった。「活動内容について」に関する意見が69件と最も多く、次いで「交流・コミュニケーションについて」(57件)、「役員について」(46件)と続いている。

記載分野別(その他を除く)にいくつか意見を抽出し、以下に示す。

項目	件数
活動内容について	69
交流・コミュニケーションについて	57
役員について	46
高齢化について	42
若年層・新しい担い手の参加について	36
参加しない・できない理由について	28
活動への意識について	28
情報・広報について	20
行政への要望・意見	17
防犯・防災について	15
今後の活動参加意向について	15
活動参加のインセンティブについて	11
プライバシー・個人情報について	10
会計・費用等について	7
その他	15

※記載内容で重複している意見があるため、件数の合計とは一致しない。

## 【活動内容について】

- 昔の様に町内会でまとまった遠足があったら、良いと思います。
- 現在の活動範囲は、非常に狭い範囲の活動で、あまり興味が湧きません。バラエティが、豊富にあると、非常に興味が湧くので、市側では是非、我々でも活動出来るようシステムの構築をして載けると我々も、やりがいを感じられます。
- 何回も当番が回ってきたが、当番の時は一年それに関わらねばならず、月に1回以上集まりがあります。そういうのが苦手なので、専門の(やる気のある)人に委ねて(その人達に金銭を支払ってでも)、やっていくのを希望しています。
- 皆さん、健康には関心があるので、町内会で健康相談や健康チェックを行うと、コミュニケーションが図られ、地域のコミュニティが形成されるのではないのでしょうか。

## 【交流・コミュニケーションについて】

- 近所とのつき合いがほとんどないため、町内会、自治会活動に関わる機会がありません。

## 第2章 調査結果の詳細

- 今は、時代の変化により、気軽に挨拶をすることもできなくなってしまったような気がします。同じマンションにどのような方が住んでいるのかも分からないような現状です。せめて、町内エリアで安心して挨拶しあえるようなコミュニケーションを作っていきたいです。
- 年に一度くらいは、近所の方が一同に集まる事（顔みせ、話合い）が大切と思います。企画を願いたいです。
- マンション暮らしのせいか、気軽に話し合う人がいない、挨拶もない、したがって顔も名前も分からないというのが現状です。
- 御近所同士、日頃の会話、挨拶、お付き合いが出来る状態が必要不可欠だと思います。

### 【役員について】

- 町内会役員が10年以上変わっていません。同じ人達が担当しています。良い面も多いが、町内会の役員になって地域の人と交流したいと思っても役員が回ってきません。数年で交替制にすると役員になる機会が増えていいのではないかと思います。
- 役員は出来ないが、サポートならと考えている人は多いと思います。気軽にサポートが出来ようなシステムを考えたら良いと思います。
- 毎年役員のなり手が無くて困っている様です。私のマンションも高齢化が進んでいて、皆役員をやりたがりません。負担が住人に多くかかり過ぎていると思います。
- 役員は、役員だけかたまっていてグループになっていて、以外の方は町内及び自治会に参加しづらいです。役員以外の人を入れ込む、巻き込むように心掛け行動した方が良いと思います。
- 毎年、町内会の役員、担当が変わる為、継続する意識が不足しています。

### 【高齢化について】

- 年配者の考えが古く、若者の考えを聞きません。従って若者が参加しにくくなっています。
- 歳を取るにつれて個人差が広がる傾向にあります。”年寄り”と十把一絡げに捉えないで、なるべく多様に個人や個人の希望に合わせて行って欲しいです。
- 町内会長・自治会長等活動の中心にいる人が高齢化しています。若い世代への継承をはかり、高齢者は補佐役に回れば良いと思います。
- 自治会の役員は、高齢者が多いが、結構事務処理や役所等の折衝が多いので、40才～50才代の参加を望みます。

### 【若年層・新しい担い手の参加について】

- 新人として入った人を暖かく見守る、分からない事を教える等の手助けが必要です。
- 若い人が積極的に参加出来るようにすること。子供中心の話題性の有る催し等を開催して、親の参加を多く出て来て貰います。その中で、親の参加意識を向上させていき最終的には、自分達が主体となって行動するようにもっていきます。
- 高齢者を前提とした活動がほとんど。若い人々と一諸に楽しめるサークル活動等有れば、参加も考えます。
- 町内会活動に関心を持っている人が町内に多くいると思うが、なかなかその方々を見い出せません。1人ひとりに言っていますが、もっといい方法はないものかと思います。

【参加しない・できない理由について】

- 高齢になったら、役員などできなくなります。自治会活動の負担がおもいです。
- 古くから住んでいる人の新しく越してきた人に対する、態度が悪く、なじみません。参加してこないメンバーが多いです。
- 仲間意識が強すぎて新入は入りにくいです。
- 家族に介護1がおりますので、私自身は時間的余裕がありません。

【活動への意識について】

- 名誉欲、金銭欲に縛られた人々が先頭に立って活動するような環境にしてはなりません。行政機関も彼らと安易に協力すべきではありません。
- 現在活動中ですが、活動そのものが楽しい。生きがいを感じるという”しくみ”づくりをすることがとても大切と考えます。
- 一人一人がすべてにプラス思考で、奉仕精神をもって活動し、明るく楽しい人間の触れ合いをする事に努力する事が大切だと思います。

【情報・広報について】

- まずは、どういう活動をしているかの印刷物やネットでのお知らせを充実させ内容を知りたいです。
- 日常、情報交換の出来る場が近くにあると活性化に繋がるのではないのでしょうか。

【行政への要望・意見】

- 現在は行政の下請け機関のように覚えます。会員からの会費だけでは資金面で活動が難しいです。行政からの資金援助が欲しいが自主的な動きが制約されそうです。
- 市側と町内会とのミーティングが必要です。市は余りに町内会に依存しすぎています。

【防犯・防災について】

- 防災用品、備品購入の資金援助が不足しています。戸建住宅とマンション住民との防災意識と協力意識の欠如が防災訓練等を無意味なものにしています。マンション管理組合には、強制的に地域協力を義務付けるべきです。建設時に協定を結ばせるべきです。
- 自治会規約には、防犯活動への参加、協力を明記すること。現状明記されていない自治会がほとんどだと思います。

【今後の活動参加意向について】

- 仕事（勤め）に出ておりますので退職したら参加したいと思っております。
- 80才を越えると参加はできません。身体が無理です。

【活動参加のインセンティブについて】

- 参加した時のポイント付加制度を導入したら良いと思います。
- 住民同士の絆を深められるような行事の開催。例えば、「辻堂諏訪神社例大祭」のような祭。住民同士で長期間準備（子供達など後継者への指導を含む）をし、住民全員が参加して全員が楽しめるような行事。その行事を毎年開催し、未永く継続する。

## 第2章 調査結果の詳細

### 【プライバシー・個人情報について】

- 地域活動と私生活に踏み込む活動とは別枠で考えることだと思います。地域内で個人の生活に立ち入る活動は、公的な責任や社会的責任を伴う資格のコーディネートの中で行う仕組みづくりがしっかりしないと混乱を招くと考えます。
- 町内会、自治会役員を受けた時感じた事は、個人情報の管理があまりにも強く、仕事を受けても出来ず、町内会、自治会の連携はどうやって保てるのか大いに悩みました。

### 【会計・費用等について】

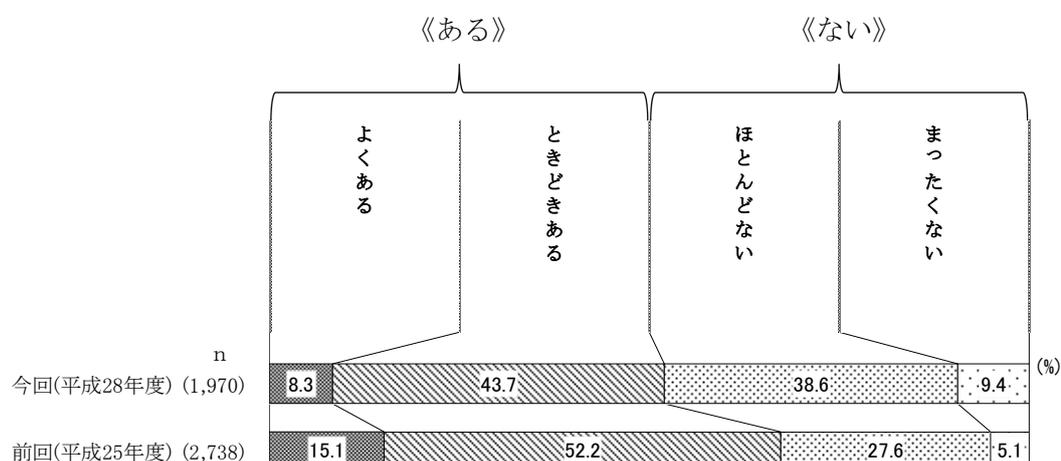
- 会計報告が雑で不明瞭。不信感が発生しています
- 町内会費で集まった時飲食が目立ちすぎます。無駄使いは止めて欲しいです。

## 10. 普段の生活の中での不安等について

### (1) 日常生活の中で不安や不自由を感じる程度

問24 日常生活の中で不安や不自由を感じることはありますか。(1つに○)

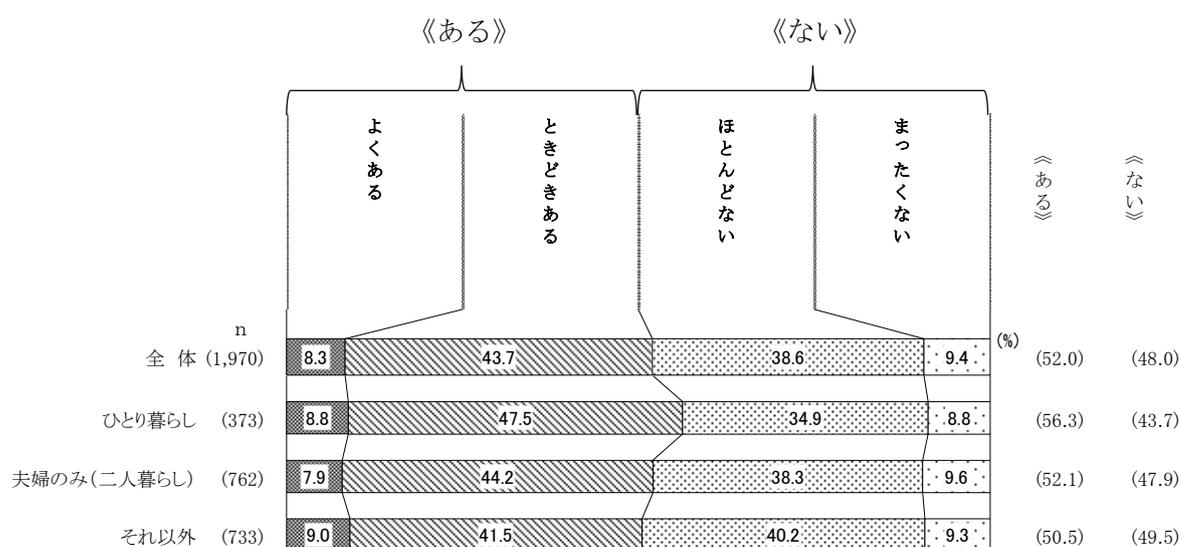
不安や心配が《ある》層は5割強



日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすることは、「ときどきある」が43.7%で最も多く、「よくある」(8.3%)をあわせると、《ある》層が全体の52.0%を占める。前回調査と比較すると、《ある》層は前回(67.3%)より15.3ポイント減少した。

家族構成別にみると、《ある》層はひとり暮らしで56.3%と最も多くなっている。

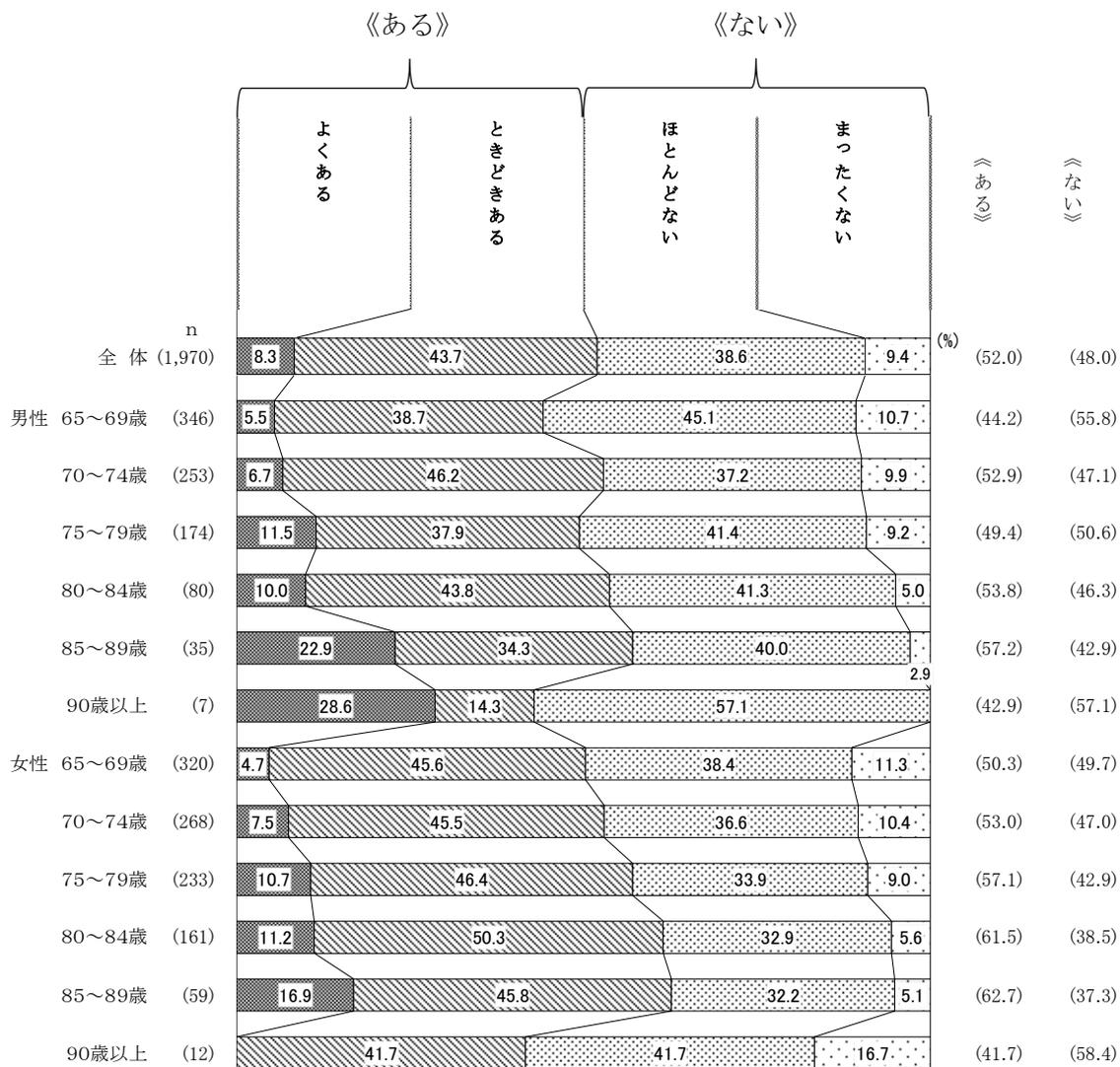
### 日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすること (家族構成別)



第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、《ある》層は、女性85～89歳で62.7%と最も多くなっている。

日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすること（性・年齢別）

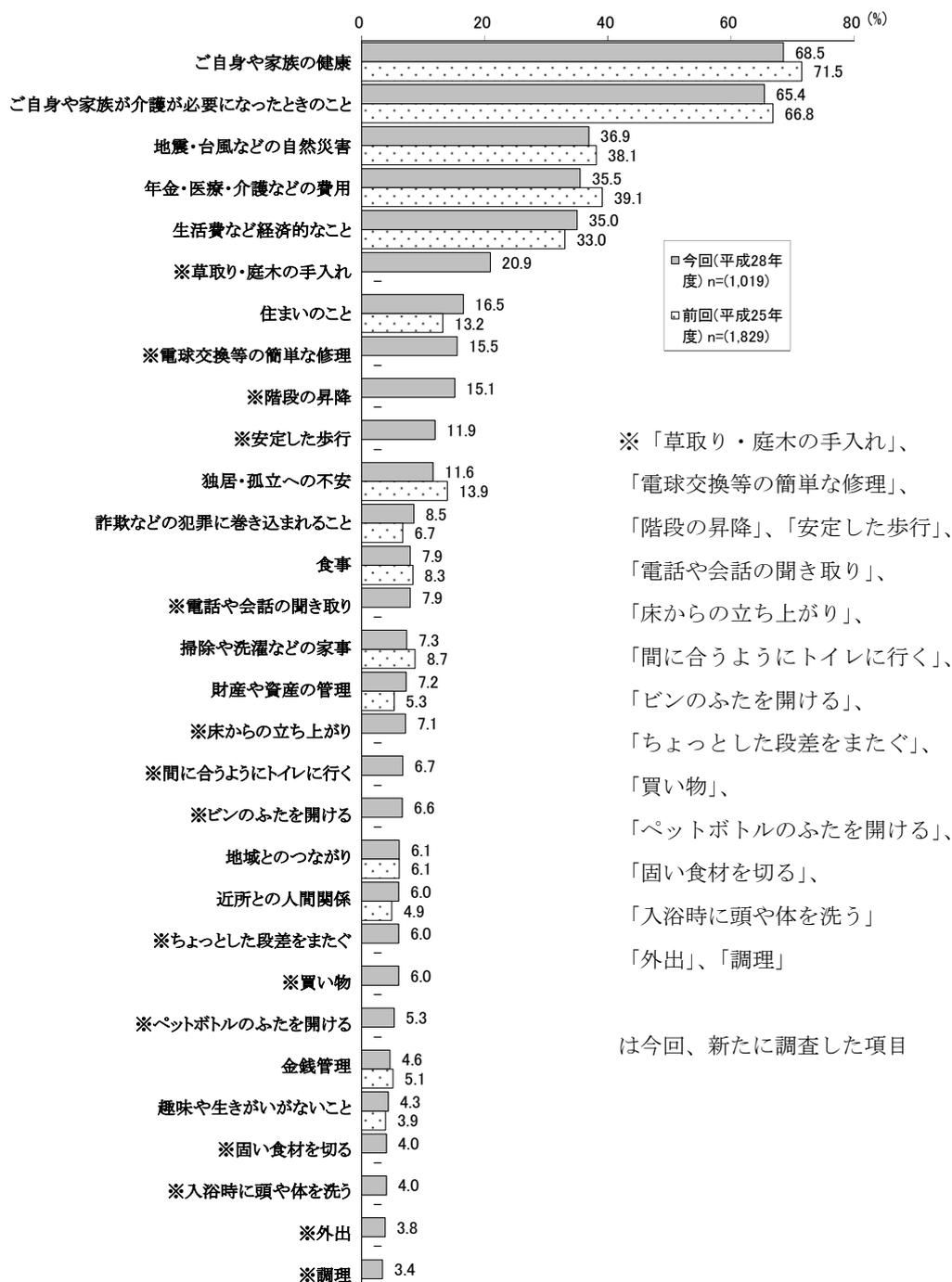


(2) 不安や不自由を感じていること

《不安や不自由を感じる方がいる方のみ（問24で不安や不自由を感じるものが「よくある」または「ときどきある」と回答した方）お答えください。》

問24-1 不安や不自由を感じているものは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「ご自身や家族の健康」が7割弱で最多



※「草取り・庭木の手入れ」、  
「電球交換等の簡単な修理」、  
「階段の昇降」、「安定した歩行」、  
「電話や会話の聞き取り」、  
「床からの立ち上がり」、  
「間に合うようにトイレに行く」、  
「ビンのふたを開ける」、  
「ちょっとした段差をまたぐ」、  
「買い物」、  
「ペットボトルのふたを開ける」、  
「固い食材を切る」、  
「入浴時に頭や体を洗う」  
「外出」、「調理」

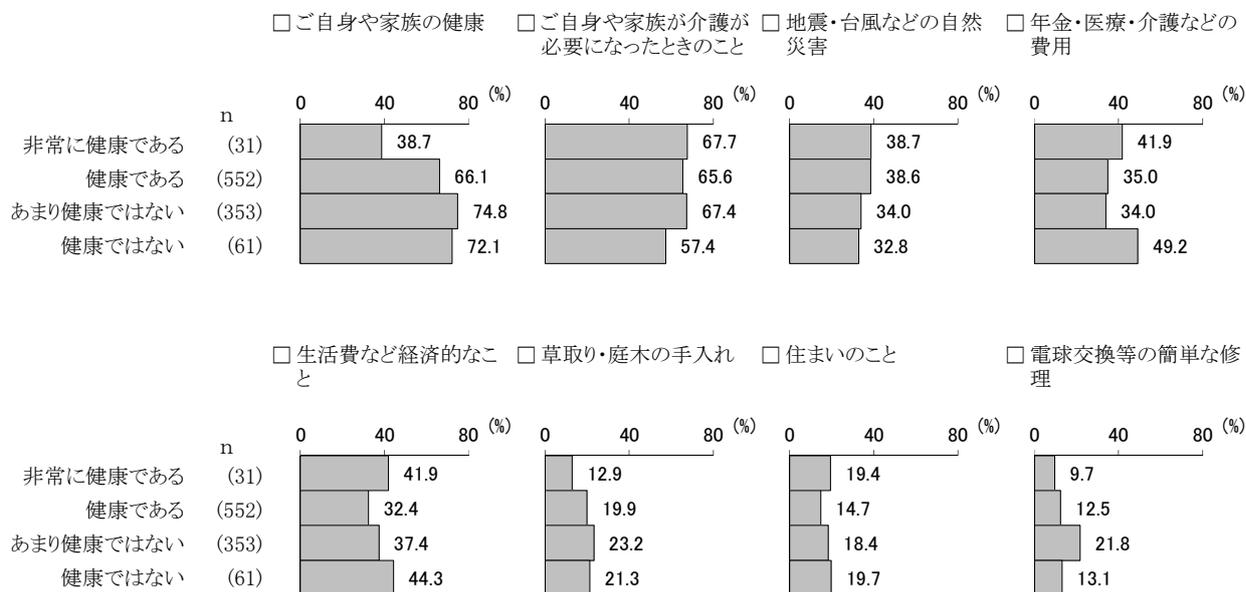
は今回、新たに調査した項目

不安や不自由を感じていることは、「ご自身や家族の健康」が68.5%で最も多く、以下「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」(65.4%)、「地震・台風などの自然災害」(36.9%)と続いている。前回調査と比較すると、大きな変化はみられない。

## 第2章 調査結果の詳細

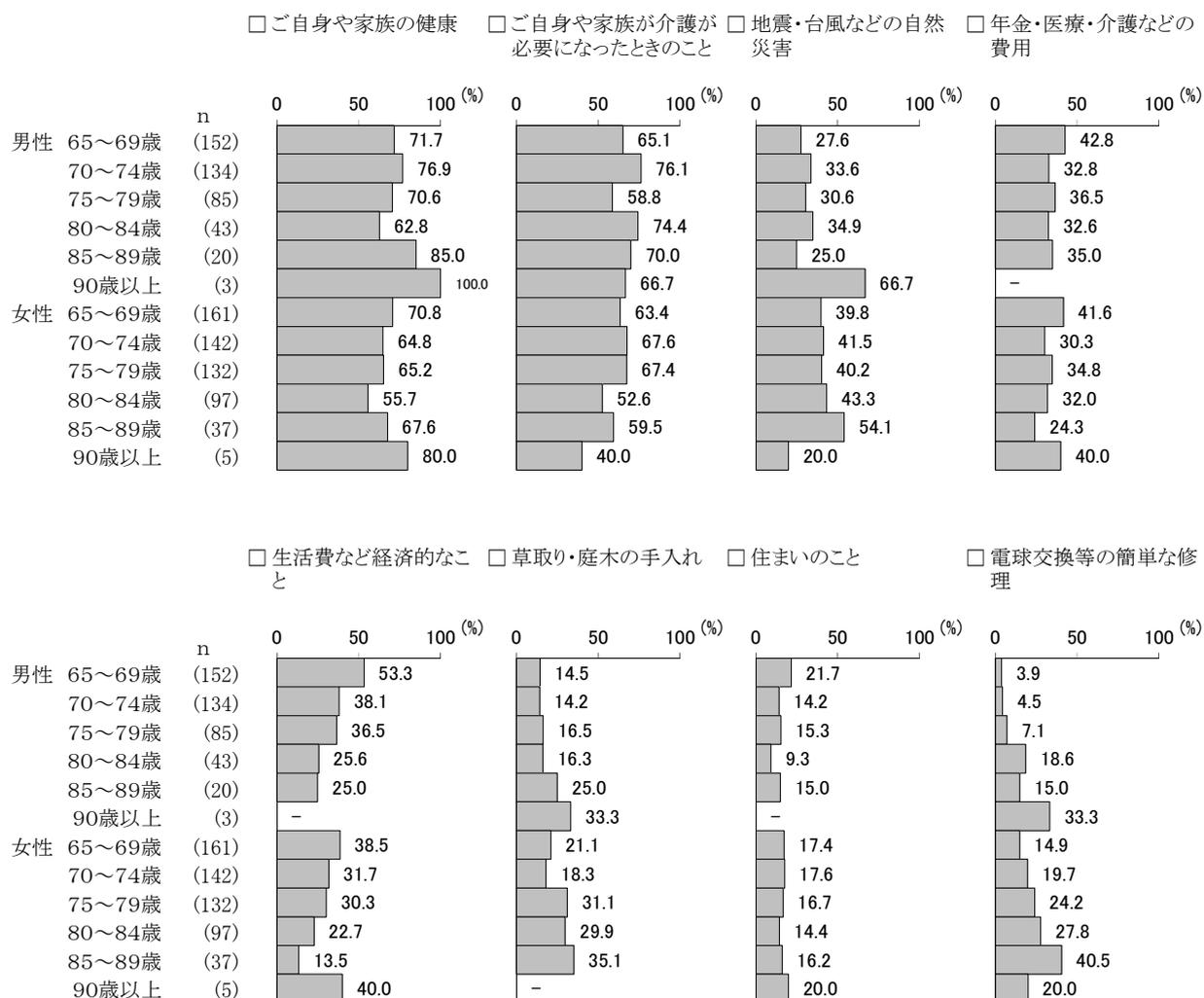
主体的健康感別にみると、「ご自身や家族の健康」は主体的健康感が悪くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

### 不安を感じているもの（主体的健康感別（上位8項目））



性・年齢別にみると、「ご自身や家族が介護が必要になったときのこと」は男性70～74歳で76.1%と最も多い。

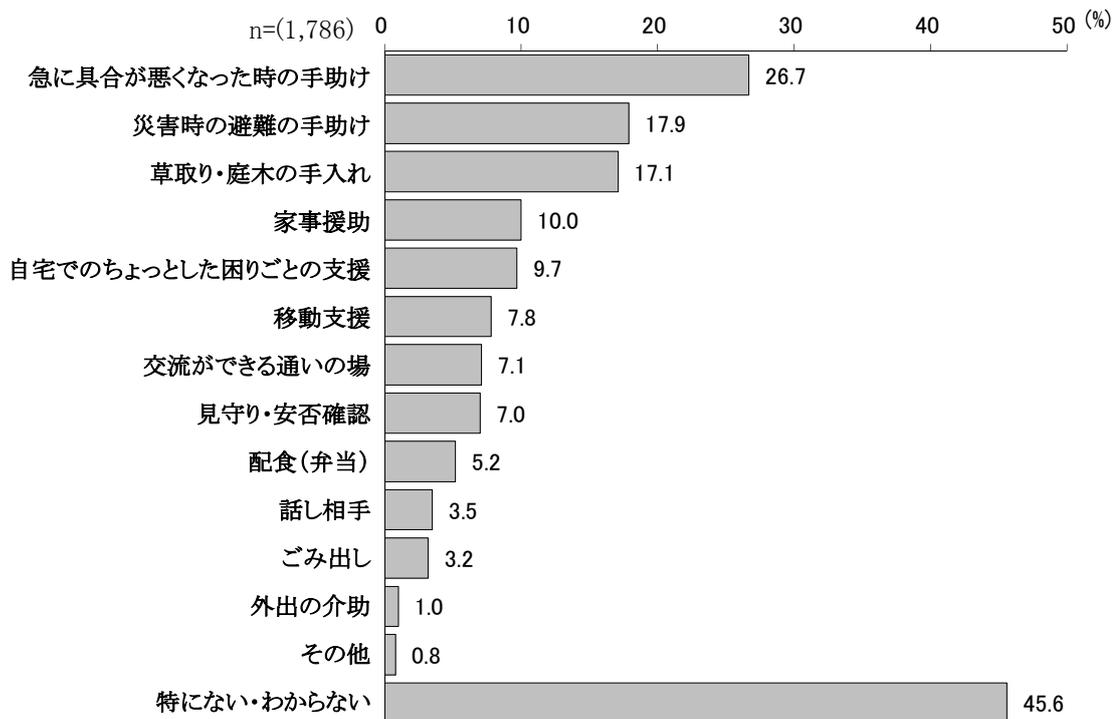
不安を感じているもの（性・年齢別（上位8項目））



(3) 現在のお住まいで生活を続けていく上で、あれば助かる地域の手助け

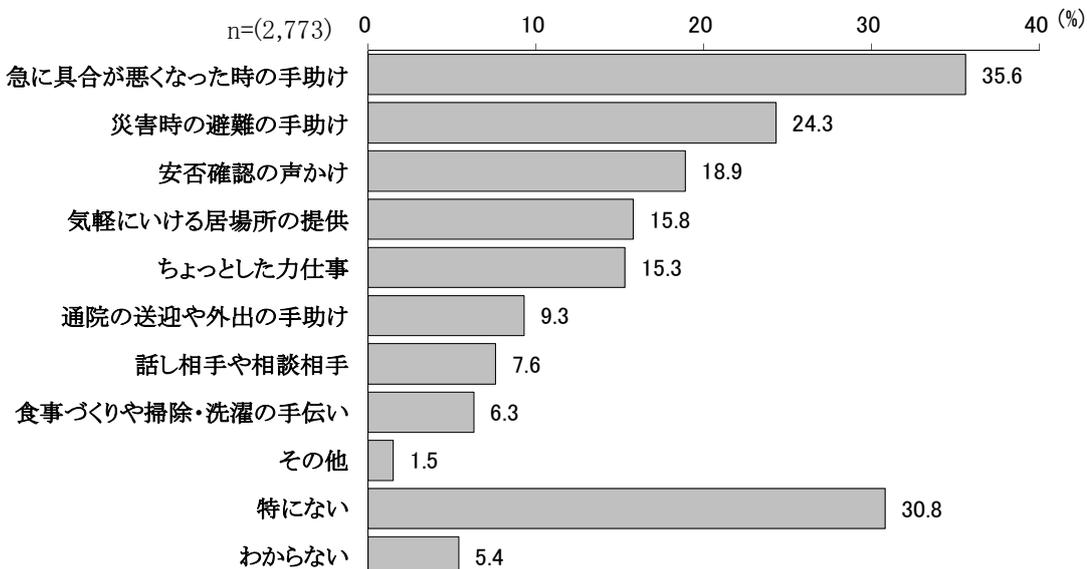
問25 現在のお住まいで生活を続けていく上で、地域のどのような手助けがあれば助かると思いますか。「家事援助」または「移動支援」と回答した方は、右の具体的内容にもお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「急に具合が悪くなった時の手助け」が2割台半ば



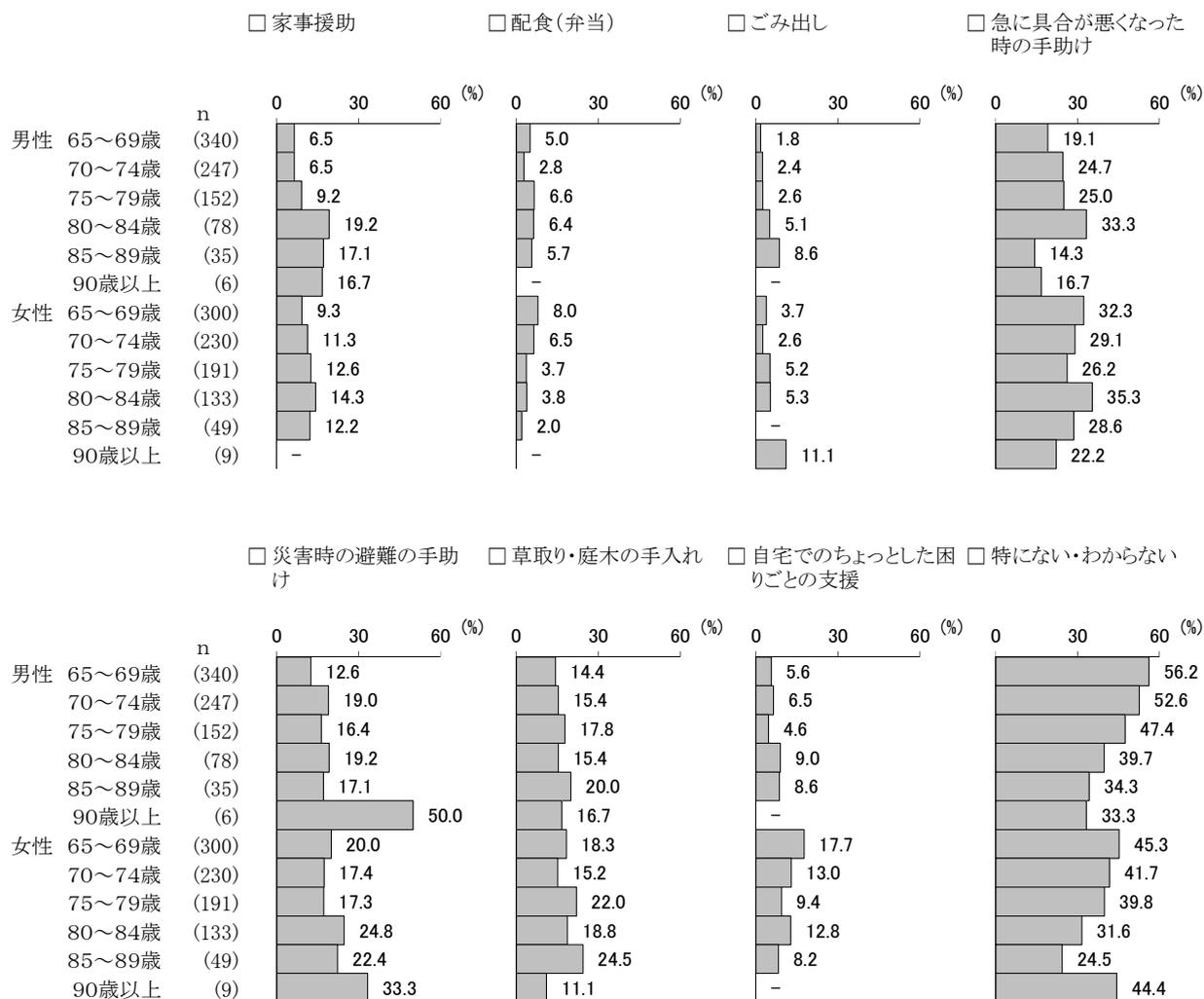
現在の住まいで生活を続けていく上で、あれば助かる地域の手助けは、「急に具合が悪くなった時の手助け」が26.7%で最も多く、以下「災害時の避難の手助け」(17.9%)、「草取り・庭木の手入れ」(17.1%)と続いている。一方、「特にない・わからない」は45.6%となっている。

【参考 前回(平成25年度)】



性・年齢別にみると、「急に具合が悪くなった時の手助け」は男性80～84歳、女性65～69歳、80～84歳で3割台と多くなっている。

現在のお住まいで生活を続けていく上で、あれば助かる地域の手助け  
(性・年齢別(上位7項目+「特にない」))

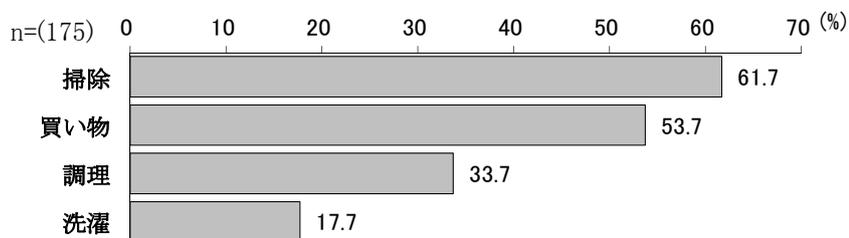


(4) 家事援助の具体的な内容

《問25で「家事援助」と回答した方のみ》

問25-1 具体的な援助内容は(あてはまるものすべてに○)

「掃除」が6割強で最多



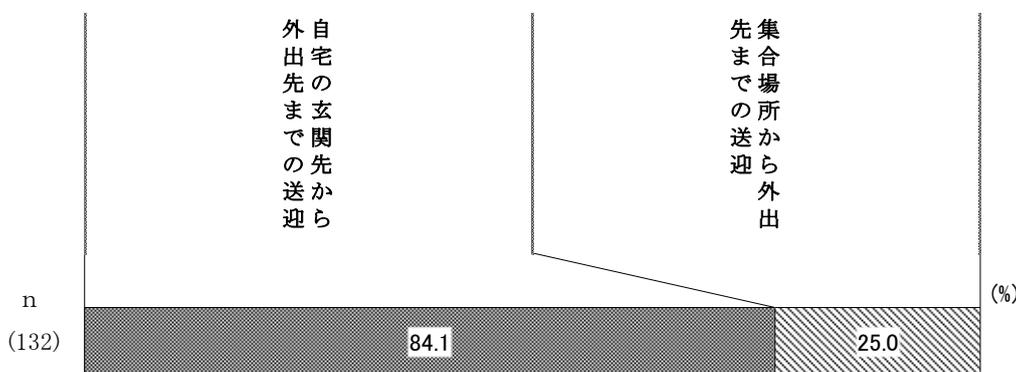
家事援助の具体的な内容は、「掃除」が61.7%で最も多く、以下「買い物」(53.7%)、「調理」(33.7%)と続いている。

(5) 移動支援の具体的な内容

《問25で「移動支援」と回答した方のみ》

問25-2 具体的な援助内容は(1つに○)

「自宅の玄関先から外出先までの送迎」が8割強



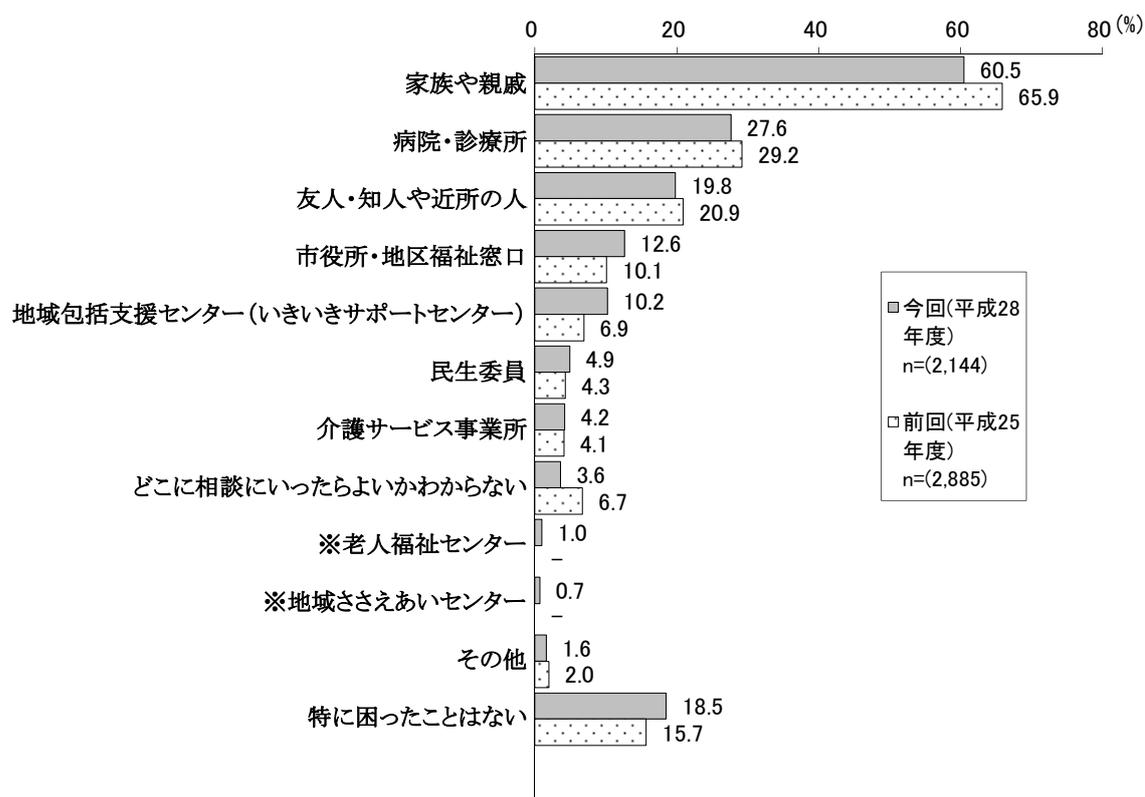
移動支援の具体的な内容は、「自宅の玄関先から外出先までの送迎」が84.1%、「集合場所から外出先までの送迎」が25.0%となっている。

## 1.1. 相談先について

## (1) 健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先

問26 健康や福祉、介護のことなどで困った時は、どなたに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や親戚」が6割強で最多



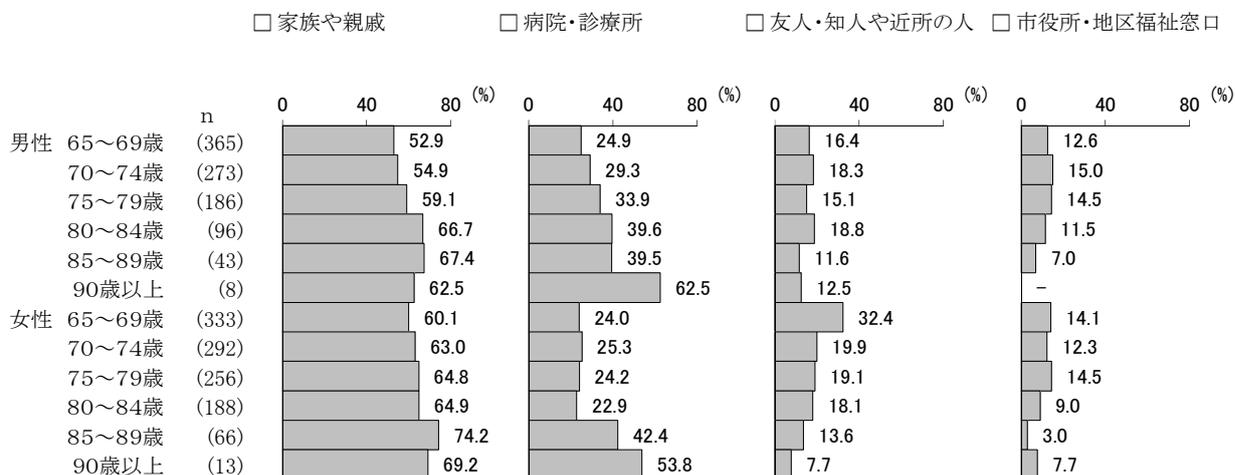
※「老人福祉センター」「地域ささえあいセンター」は今回、新たに調査した項目  
健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先は、「家族や親戚」が60.5%で最も多く、以下「病院・診療所」(27.6%)、「友人・知人や近所の人」(19.8%)と続いている。一方、「特に困ったことはない」は18.5%となっている。

前回調査と比較すると、「家族や親戚」は前回(65.9%)より5.4ポイント減少した。

## 第2章 調査結果の詳細

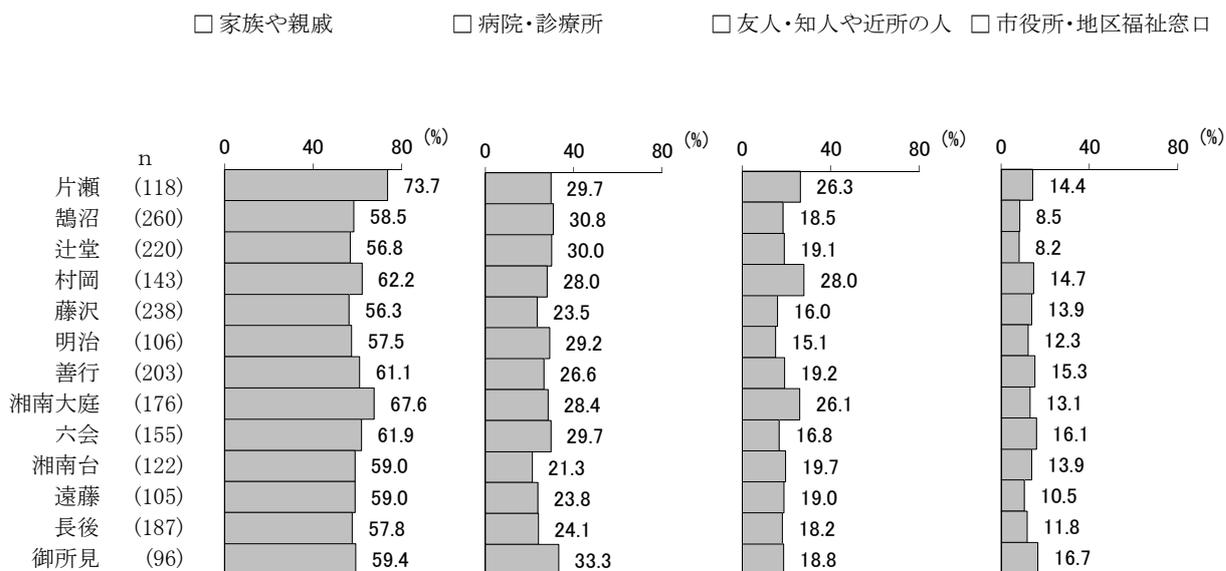
性・年齢別にみると、「家族や親戚」は男女ともいずれの年齢でも5割以上となっており、特に女性の85～89歳で7割半ばと多くなっている。「友人・知人や近所の人」は女性の場合、年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。

健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先（性・年齢別（上位4項目））



地域別にみると、「家族や親戚」は片瀬が73.7%で最も多く、以下、湘南大庭（67.6%）、村岡（62.2%）、善行（61.1%）と続いている。「友人・知人や近所の人」は片瀬、村岡、湘南大庭で2割台となっている。

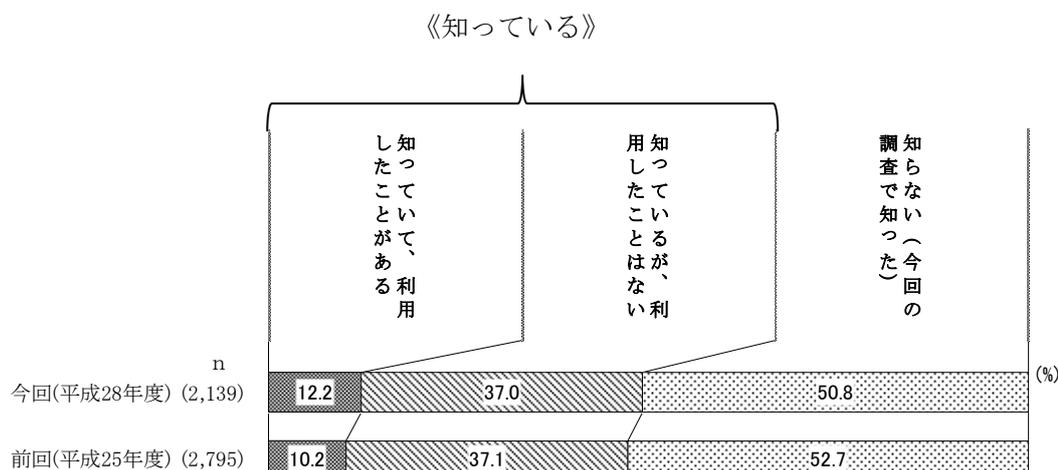
健康や福祉、介護のことなどで困った時の相談先（地域別（上位4項目））



(2) 地域包括支援センターの認知度

問27 市内13地区にを基本として16か所(高齢者人口の多い鶴沼・辻堂・藤沢地区にはそれぞれ2か所)に設置している地域包括支援センター(いきいきサポートセンター)をご存じですか。(1つに○)

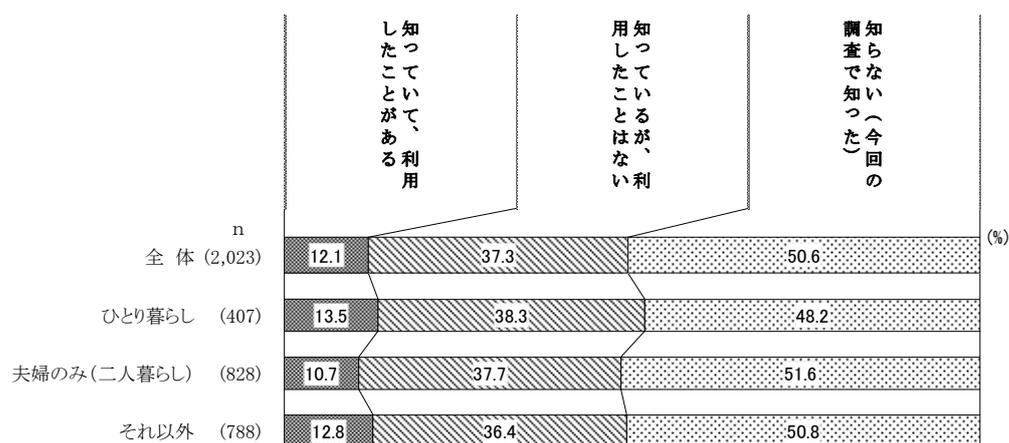
「知らない」が5割強



地域包括支援センターの認知度は、「知っていて、利用したことがある」(12.2%)、「知っているが、利用したことはない」(37.0%)を合わせると《知っている》層は49.2%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

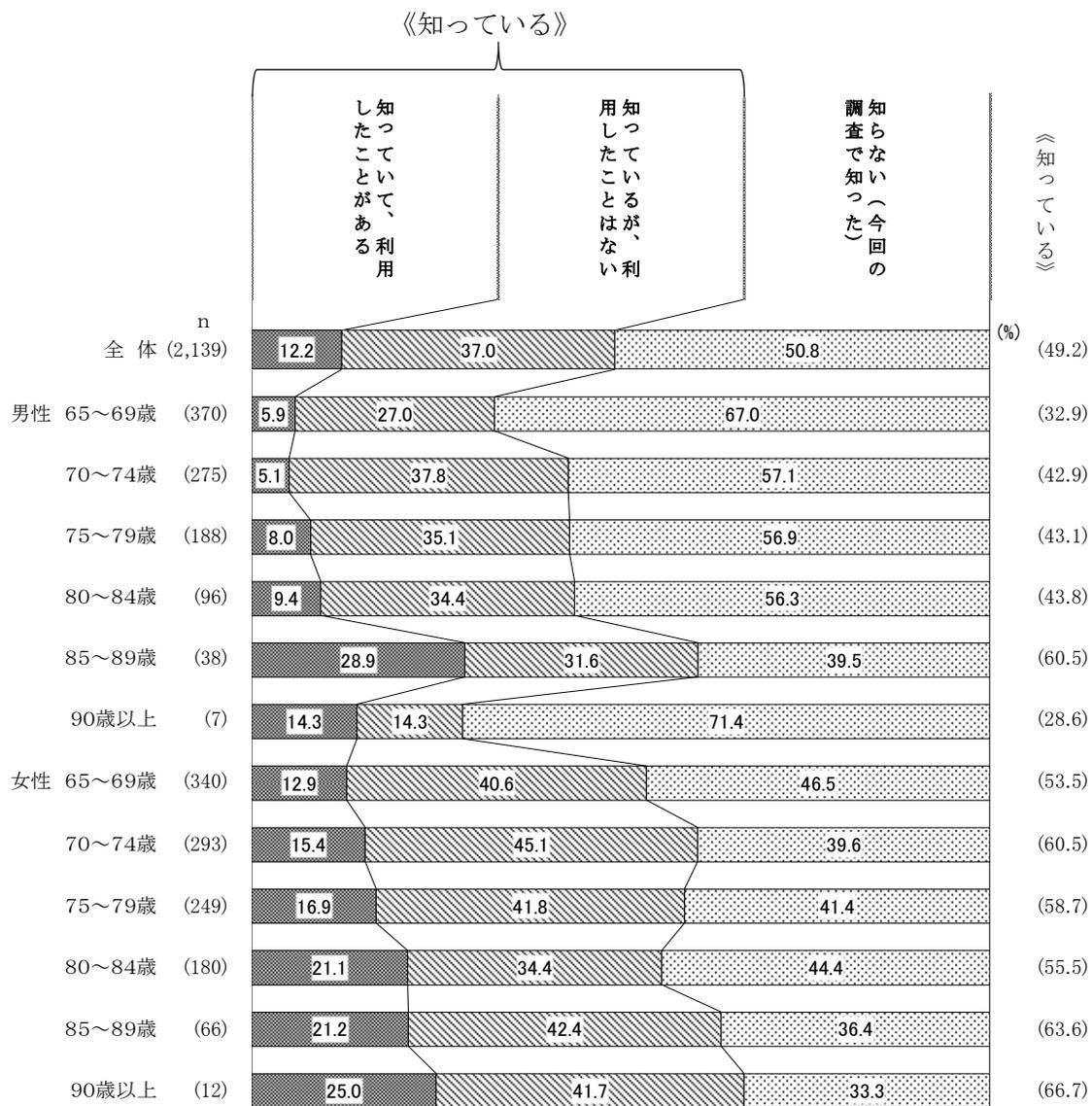
地域包括支援センターの認知度(家族構成別)



第2章 調査結果の詳細

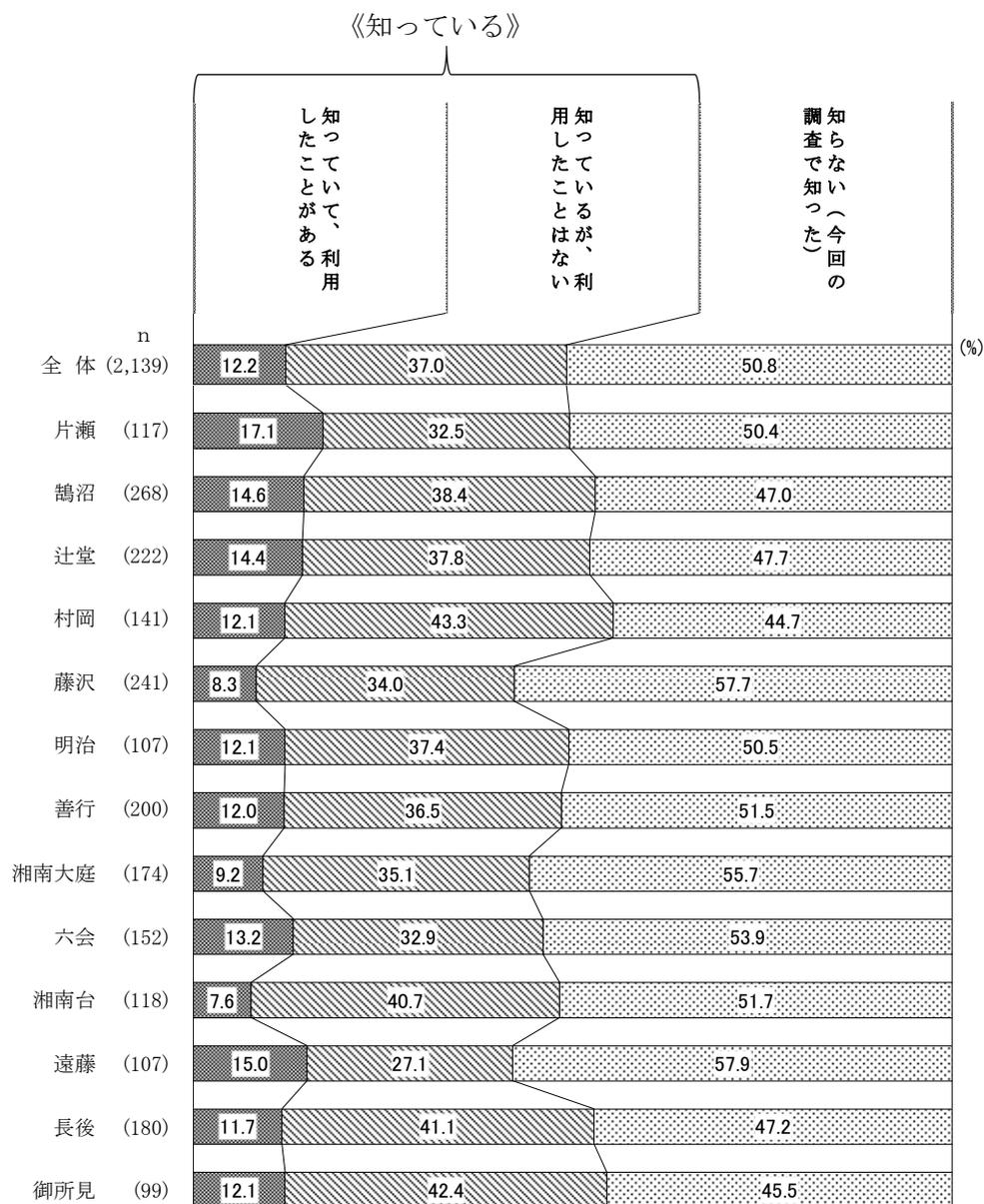
性・年齢別にみると、《知っている》は男性の場合、85～89歳で最も多い。また、女性の場合では年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

地域包括支援センターの認知度（性・年齢別）



地域別にみると、「知っているが、利用したことはない」は村岡、湘南台、長後、御所見で4割台となっている。一方、「知らない(今回の調査で知った)」は藤沢と遠藤で6割弱と多くなっている。

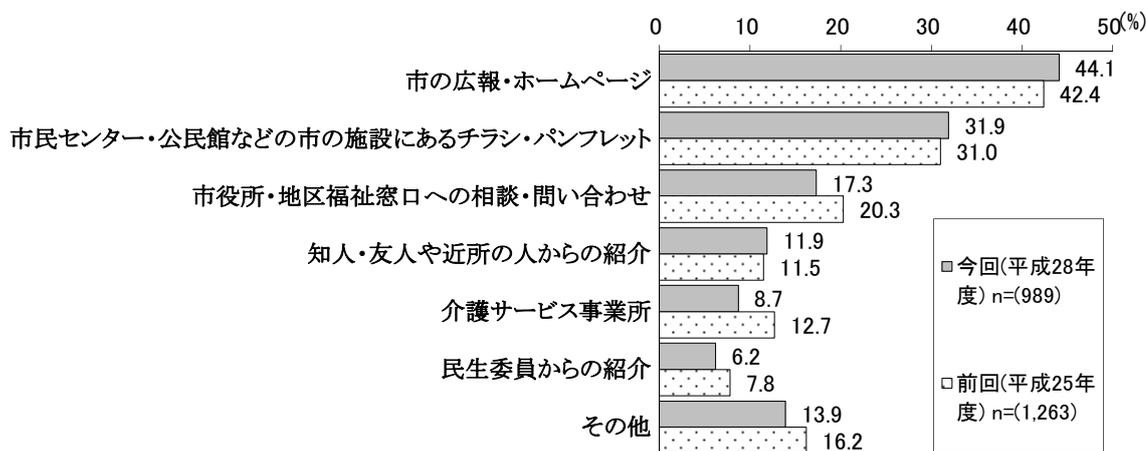
地域包括支援センターの認知度（地区別）



(3) 地域包括支援センターを知ったきっかけ

《地域包括支援センターを知っている方のみ（問27で「知っていて、利用したことがある」または「知っているが、利用したことはない」と回答した方）お答えください。》  
 問27-1 地域包括支援センターを何で知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

「市の広報・ホームページ」が4割台半ばで最多



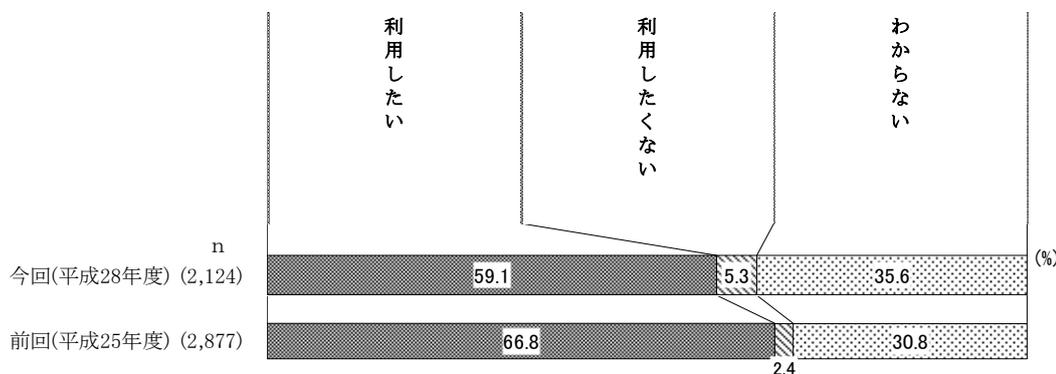
地域包括支援センターを知ったきっかけは、「市の広報・ホームページ」が44.1%で最も多く、以下「市民センター・公民館などの市の施設にあるチラシ・パンフレット」(31.9%)、「市役所・地区福祉窓口への相談・問い合わせ」(17.3%)と続いている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

(4) 地域包括支援センターの利用意向

問28 今後、日常生活における相談や支援が必要になった時、地域包括支援センターを利用したいと思いますか。（1つに○）

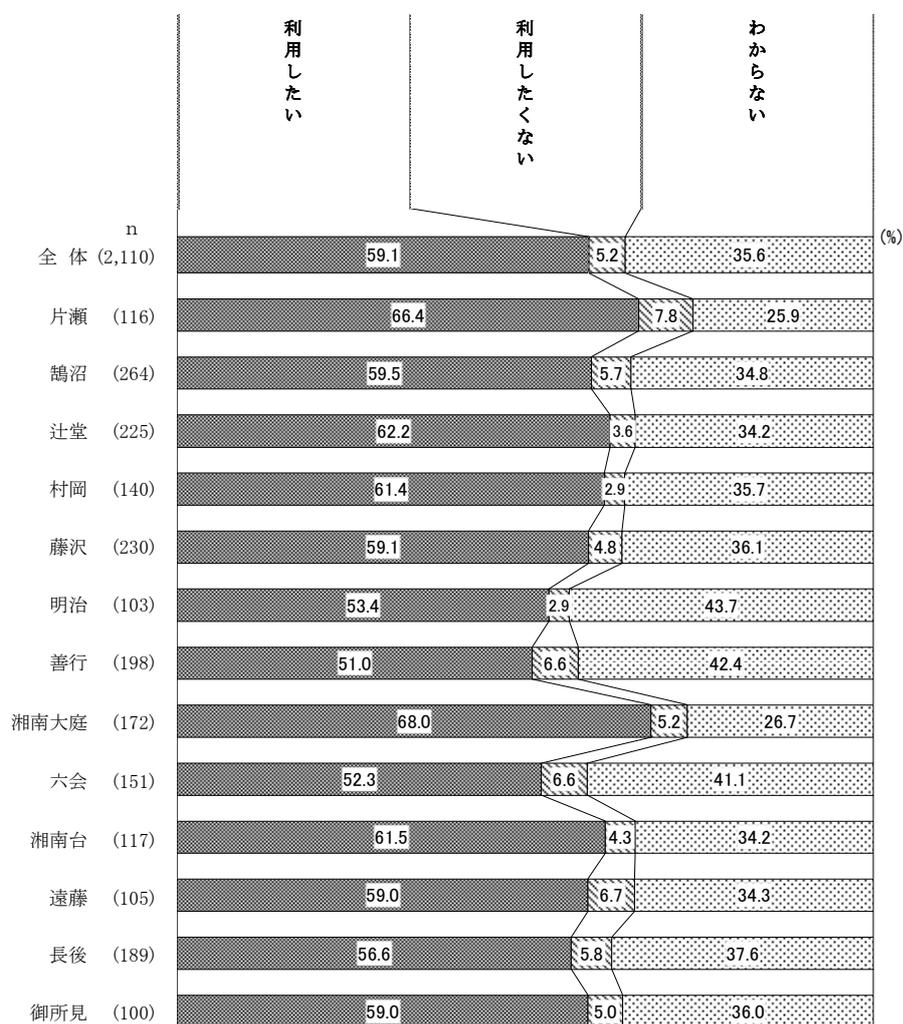
「利用したい」が6割弱



地域包括支援センターの利用意向は、「利用したい」が59.1%、「利用したくない」が5.3%、「わからない」が35.6%となっている。

前回調査と比較すると、「利用したい」は前回(66.8%)より7.7ポイント減少している。

地域包括支援センターの利用意向（地区別）

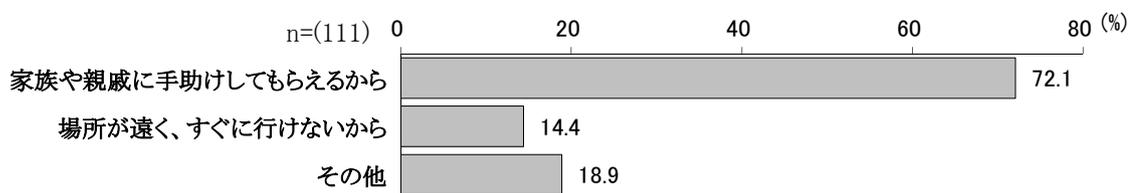


(5) 地域包括支援センターを利用したくない理由

《問28で「利用したくない」と回答した方にうかがいます。》

問28-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や親戚に手助けしてもらえるから」が7割強で最多



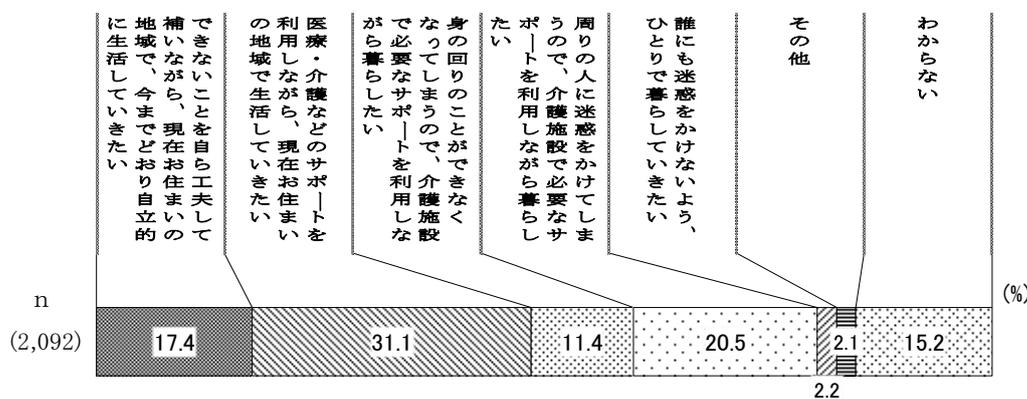
地域包括支援センターを利用したくない理由は、「家族や親戚に手助けしてもらえるから」が72.1%で最も多く、以下「場所が遠く、すぐに行けないから」(14.4%)、「その他」(18.9%)と続いている。

## 12. 認知症について

### (1) 認知症になった場合の暮らし方

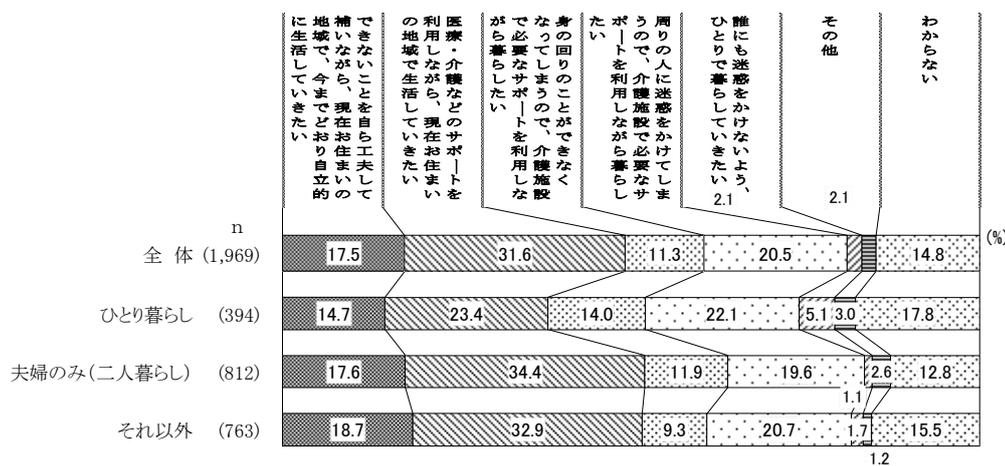
問29 もし、認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか。(1つに○)

「医療・介護などのサポートを利用しながら、現在お住まいの地域で生活したい」が3割強



認知症になった場合の暮らし方は、「医療・介護などのサポートを利用しながら、現在お住まいの地域で生活したい」が31.1%で最も多く、以下「周りの人に迷惑をかけてしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」(20.5%)、「できないことを自ら工夫して補いながら、現在お住まいの地域で、今までどおり自立的に生活していきたい」(17.4%)と続いている。

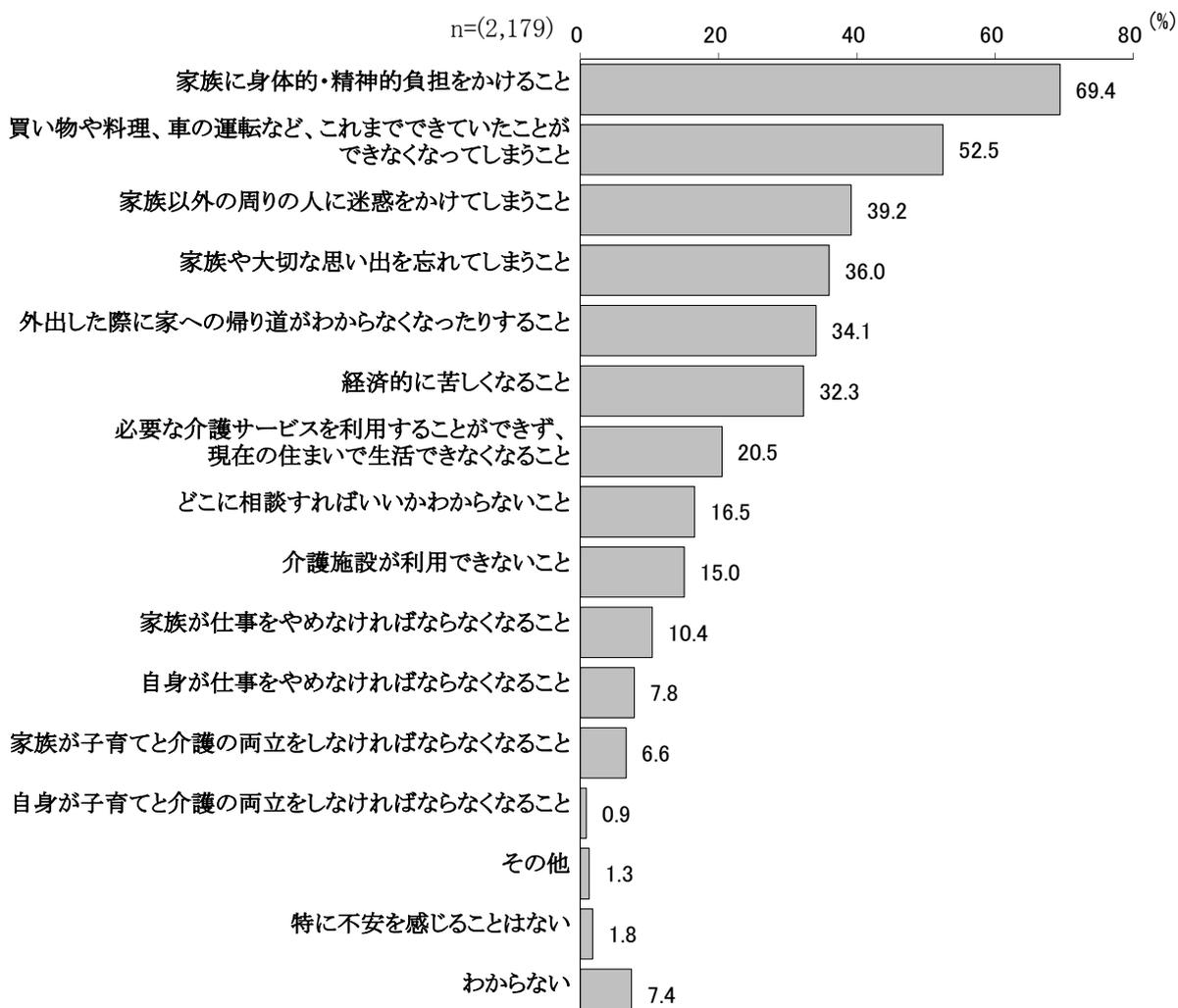
### 認知症になった場合の暮らし方（家族構成別）



(2) ご自身またはご家族が認知症になった場合、不安に感じること

問30 もし、ご自身またはご家族が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じるとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

「家族に身体的・精神的負担をかけること」が7割弱で最多

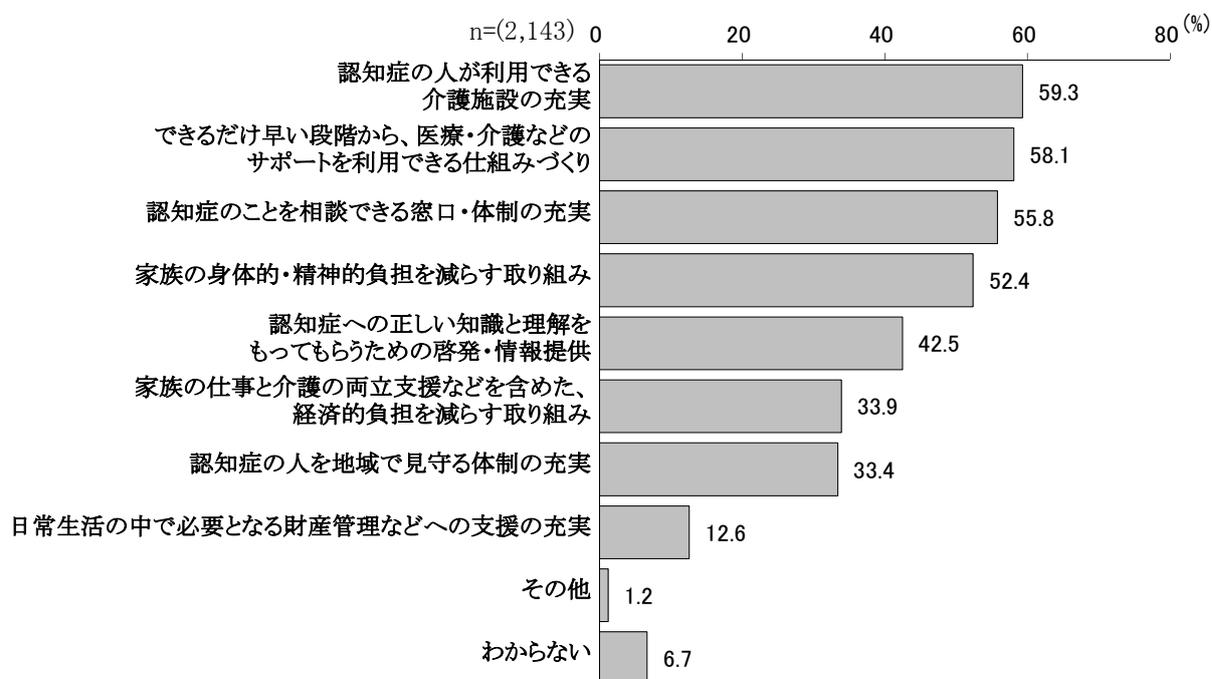


ご自身またはご家族が認知症になった場合、不安に感じることは、「家族に身体的・精神的負担をかけること」が69.4%で最も多く、以下「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうこと」(52.5%)、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうこと」(39.2%)と続いている。

## (3) 市が重点を置くべき認知症施策

問31 今後、増加が予想される認知症の人への取り組みとして、市はどのような施策に重点を置くべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「認知症の人が利用できる介護施設の充実」、「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり」がともに6割弱

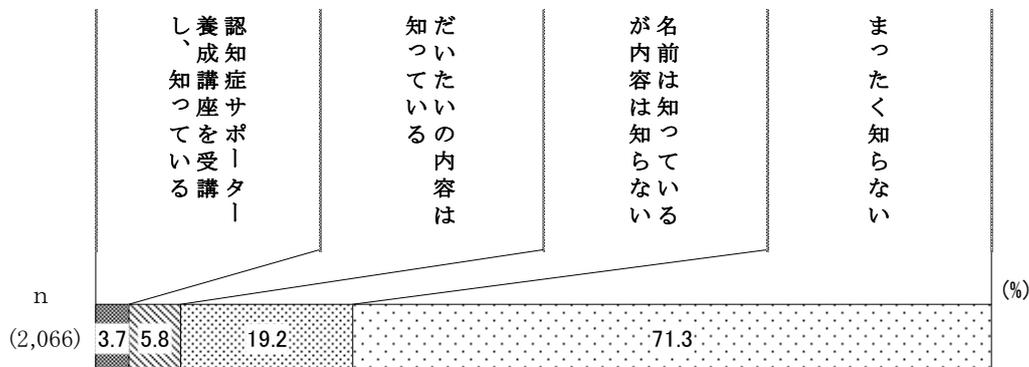


市が重点を置くべき認知症施策は、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」が59.3%で最も多く、以下「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり」(58.1%)、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」(55.8%)と続いている。

(4) 認知症サポーター養成講座の認知度

問32 認知症サポーター養成講座を知っていますか。(1つに○)

「知らない」が7割強



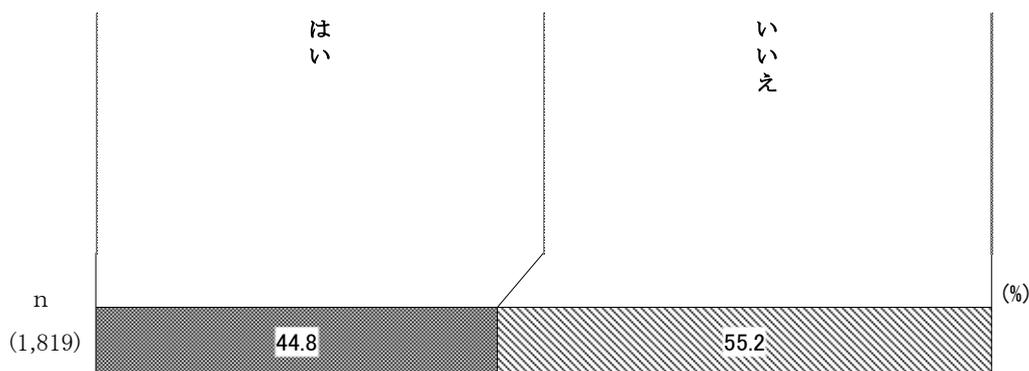
認知症サポーター養成講座の認知度は、「まったく知らない」が71.3%で最も多く、以下「名前を知っているが内容は知らない」(19.2%)、「だいたい知っている」(5.8%)と続いている。

(5) 認知症サポーター養成講座の参加意向

《問32で「だいたい知っている」「名前を知っているが内容は知らない」「まったく知らない」のいずれかを回答した方にうかがいます。》

問32-1 認知症サポーター養成講座に参加したいと思いますか。(1つに○)

認知症サポーター養成講座に参加したい人は4割台半ば



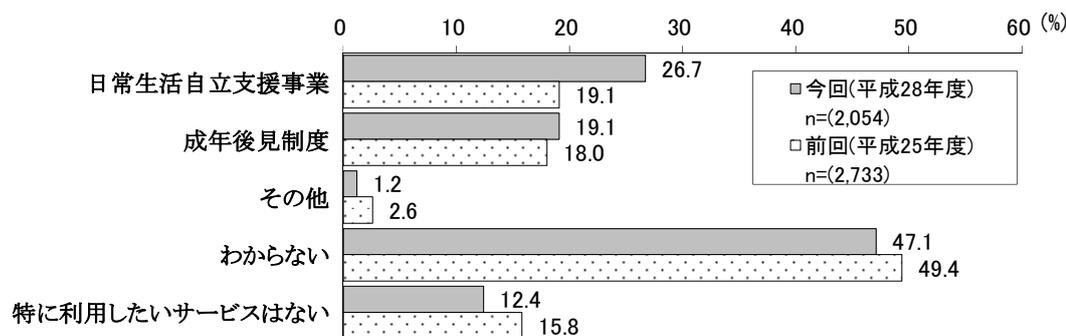
認知症サポーター養成講座の参加意向は、「はい」が44.8%、「いいえ」が55.2%となっている。

### 1.3. 権利擁護について

#### (1) 判断能力が不安になったときに利用したい支援やサービス

問33 今後、認知症など、判断能力が不安になり何らかの支援が必要になった時、利用したい支援やサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

利用したい支援やサービスは「日常生活自立支援事業」が2割台半ばで最多



判断能力が不安になったときに利用したい支援やサービスは、「日常生活自立支援事業」が26.7%で最も多く、以下「成年後見制度」(19.1%)と続いている。一方、「わからない」は47.1%、「特に利用したいサービスはない」は12.4%となっている。

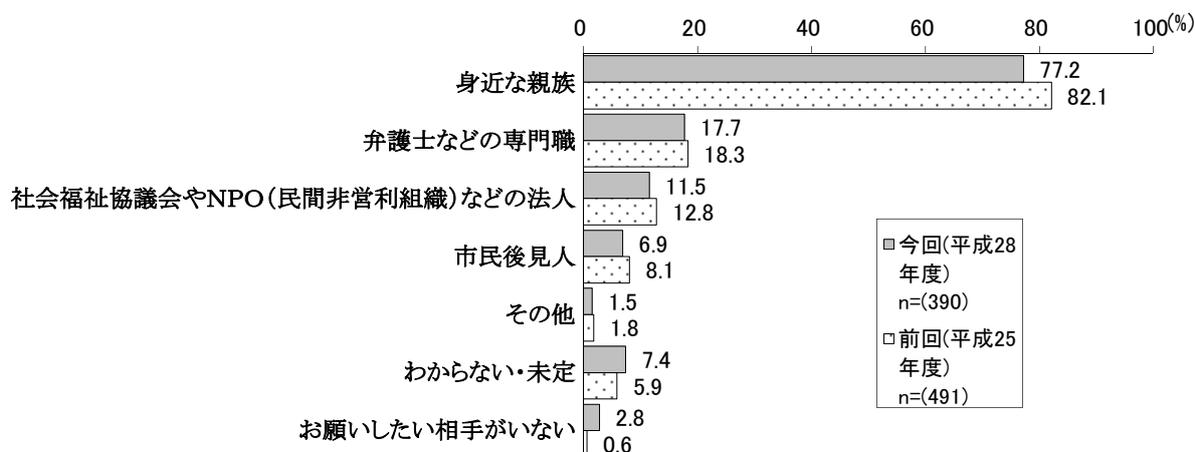
前回調査と比較すると、「日常生活自立支援事業」は前回(19.1%)より7.6ポイント増加した。

#### (2) 成年後見人の希望

《成年後見制度を利用したい方のみ(問33で「成年後見制度」と回答した方)お答えください》

問33-1 成年後見制度を利用する場合、どなたに成年後見人をお願いしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

成年後見人をお願いしたい相手は「身近な親族」が8割弱で最多



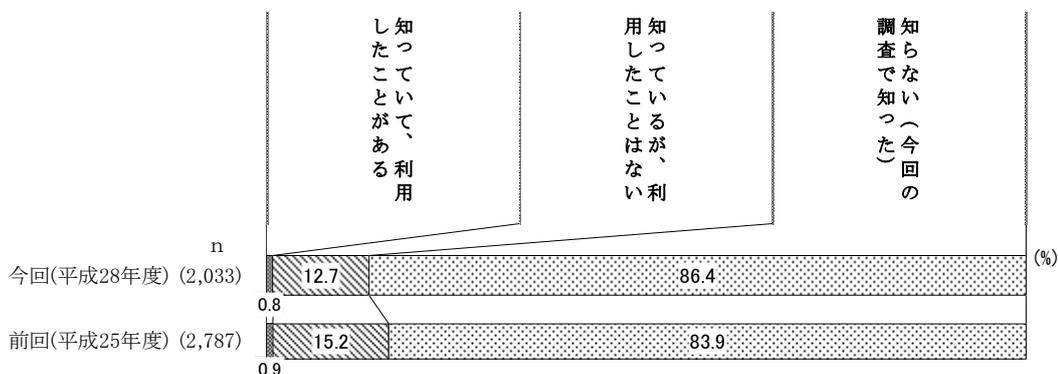
成年後見人の希望は、「身近な親族」が77.2%で最も多く、以下「弁護士などの専門職」(17.7%)、「社会福祉協議会やNPO(民間非営利組織)などの法人」(11.5%)と続いている。

前回調査と比較すると、「身近な親族」は前回(82.1%)より4.9ポイント減少した。

(3) 「ふじさわあんしんセンター」の認知度

問34 成年後見制度や権利擁護に関する相談支援機関である「ふじさわ あんしんセンター」をご存じですか。(1つに○)

「ふじさわ あんしんセンター」を「知らない(今回の調査で知った)」が8割台半ば



「ふじさわあんしんセンター」の認知度は、「知らない(今回の調査で知った)」が86.4%で最も多く、以下「知っているが、利用したことはない」(12.7%)、「知っていて、利用したことがある」(0.8%)と続いている。

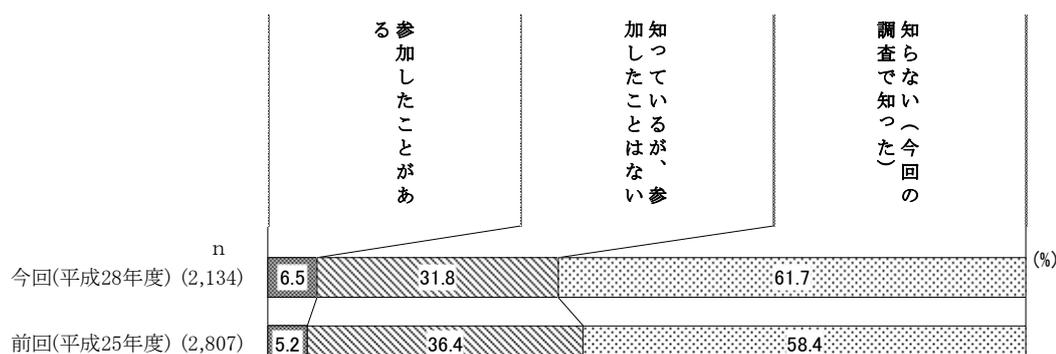
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

## 14. 65歳からの健康づくり事業(介護予防事業)等について

### (1) 介護予防実施の場の参加経験

問35 市で実施している介護予防に関する講演会・講座や地域での住民主体の介護予防実施の場に参加したことがありますか。(1つに○)

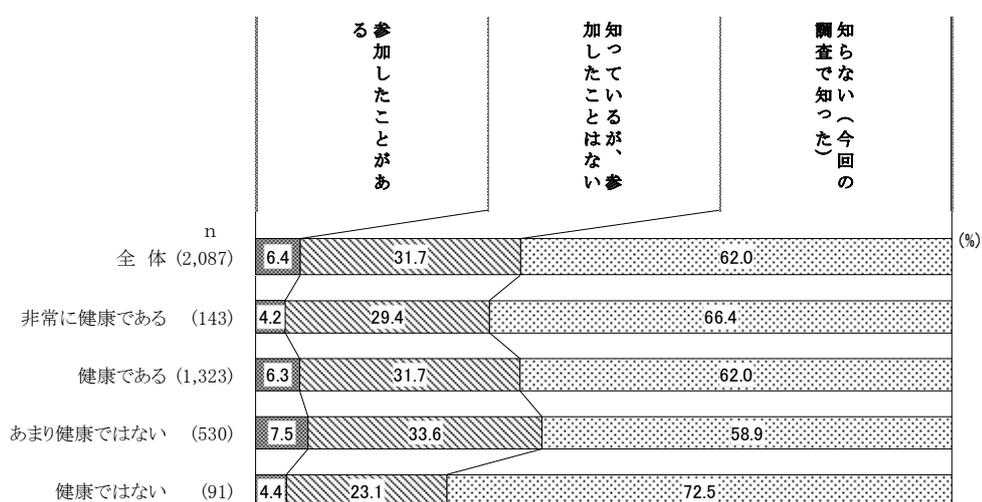
介護予防実施の場を「知らない(今回の調査で知った)」が6割強



介護予防実施の場の参加経験は、「知らない(今回の調査で知った)」が61.7%で最も多く、以下「知っているが、利用したことはない」(31.8%)、「参加したことがある」(6.5%)と続いている。

前回調査と比較すると、「知っているが、参加したことはない」は前回(36.4%)より4.6ポイント減少している。

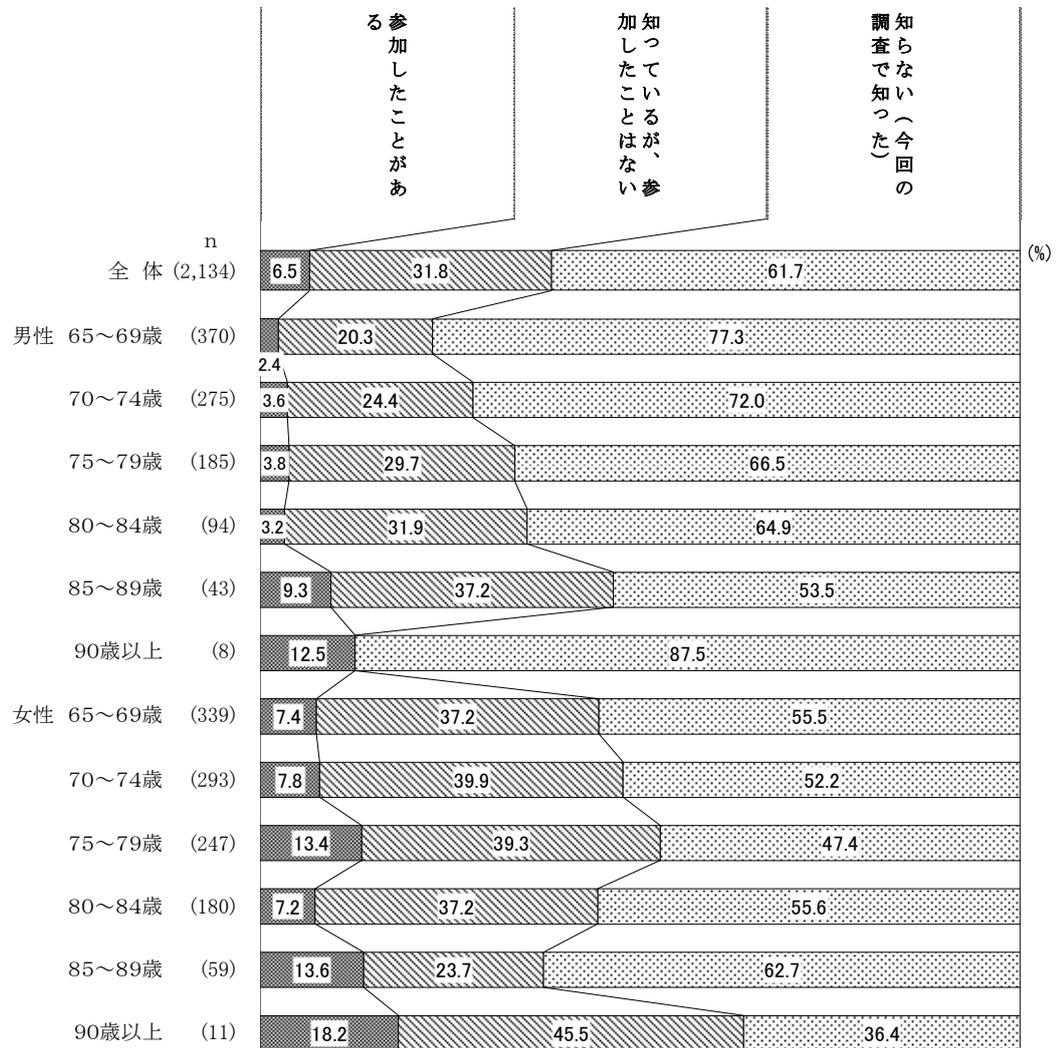
### 介護予防実施の場の参加経験(主観的健康感別)



## 第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、「知らない(今回の調査で知った)」は男性65～69歳、70～74歳で7割台と多い。

介護予防に関する講演会や講座に参加した経験（性・年齢別）

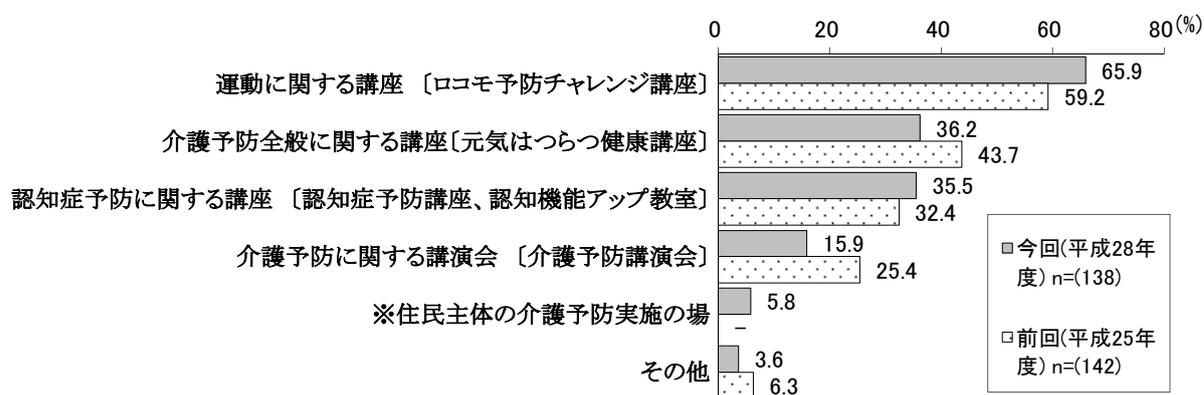


## (2) 参加したことがある介護予防に関する講座や講演会、事業

《参加したことがある方のみ（問35で「参加したことがある」と回答した方）お答えください。》

問35-1 次のうち、参加したことがある講座や講演会、事業は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「運動に関する講座〔ロコモ予防チャレンジ講座〕」が6割台半ば



※「住民主体の介護予防実施の場」は今回、新たに調査した項目

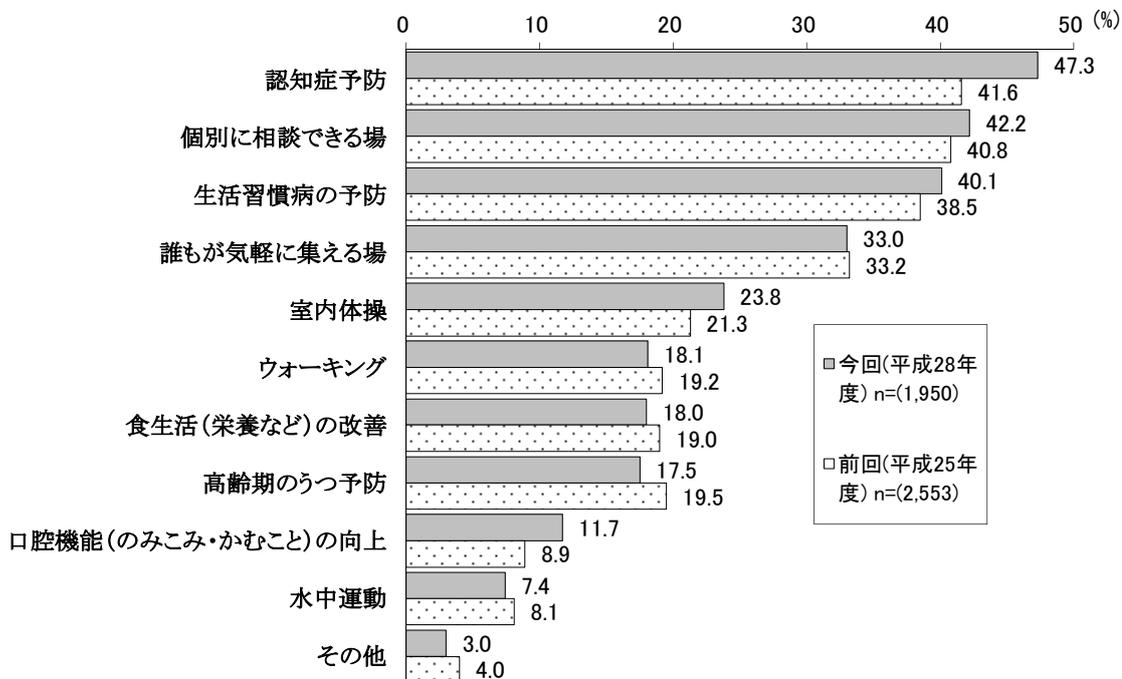
参加したことがある介護予防に関する講座や講演会、事業は、「運動に関する講座〔ロコモ予防チャレンジ講座〕」が65.9%で最も多く、以下「介護予防全般に関する講座〔元気はつらつ健康講座〕」(36.2%)、「認知症予防に関する講座〔認知症予防講座、認知機能アップ教室〕」(35.5%)と続いている。

前回調査と比較すると、「介護予防全般に関する講座〔元気はつらつ健康講座〕」は前回(43.7%)より7.5ポイント減少した。

(3) 介護予防に関して、力を入れてほしいこと

問36 介護予防に関して、今後、市に力を入れてほしいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「認知症予防」が5割弱で最多



介護予防に関して力を入れてほしいことは、「認知症予防」が47.3%で最も多く、以下「個別に相談できる場」(42.2%)、「生活習慣病の予防」(40.1%)、「誰もが気軽に集える場」(33.0%)と続いている。

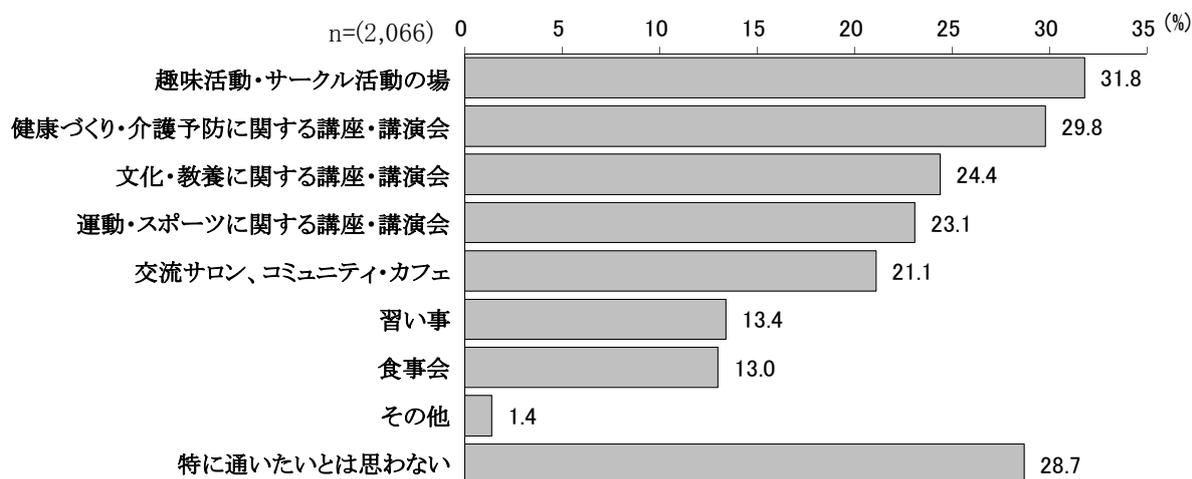
前回調査と比較すると、「認知症予防」は前回(41.6%)より5.7ポイント増加した。

## 15. 介護予防・日常生活支援総合事業の検討について

### (1) 交流できる通いの場として通いたいもの

問37 交流できる通いの場として、どのようなものがあれば通いたいと思いますか。現在通っているものも含めてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「趣味活動・サークル活動の場」が3割強で最多



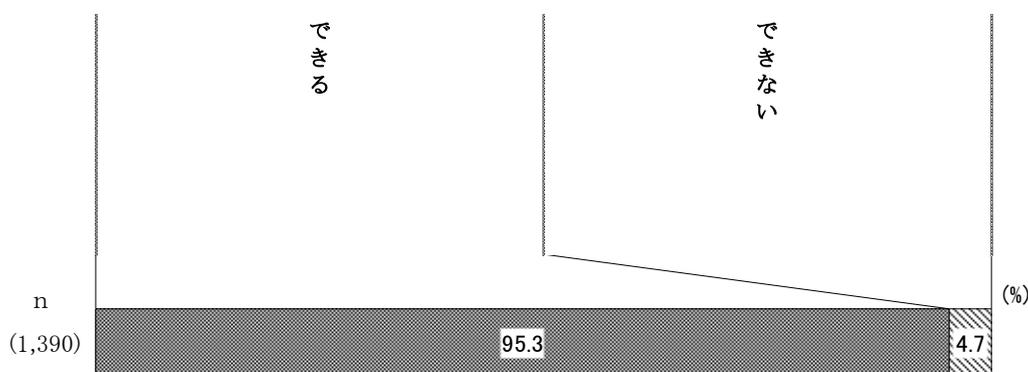
交流できる通いの場として通いたいものは、「趣味活動・サークル活動の場」が31.8%で最も多く、以下「健康づくり・介護予防に関する講座・講演会」(29.8%)、「文化・教養に関する講座・講演会」(24.4%)と続いている。一方、「特に通いたいとは思わない」は28.7%となっている。

### (2) 自宅から通いの場へ通うことができるか

《問37で「交流サロン、コミュニティ・カフェ」～「その他」のいずれかを1つ以上選択した方にうかがいます。》

問37-1 上記のような通いの場に、自宅からご自身で通うことはできますか。(1つに○)

自宅から通うことのできる人は9割台半ば



自宅から通いの場へ通うことが「できる」が95.3%、「できない」が4.7%となっている。

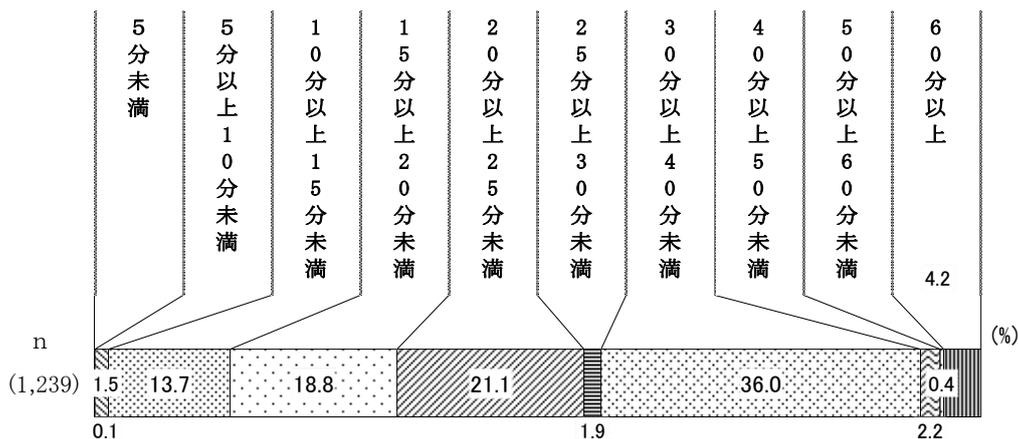
(3) 通いの場への移動時間・移動手段の希望

《問37-1で自宅から通うことが「できる」と回答した方》

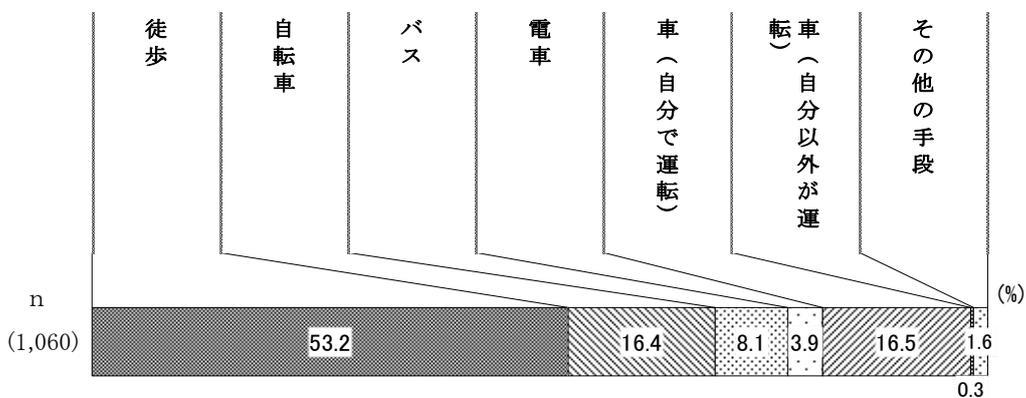
問37-1-1 自宅から通いの場まで、どのくらいの移動時間なら通いたいと思いますか。また、その際の主な移動手段もお答えください(1つに○)

移動時間は「30分以上40分未満」が最多、移動手段は「徒歩」が半数以上

【移動時間】



【移動手段】



自宅から通いの場までの移動時間の希望は、「30分以上40分未満」が36.0%で最も多く、以下「20分以上25分未満」(21.1%)、「15分以上20分未満」(18.8%)と続いている。

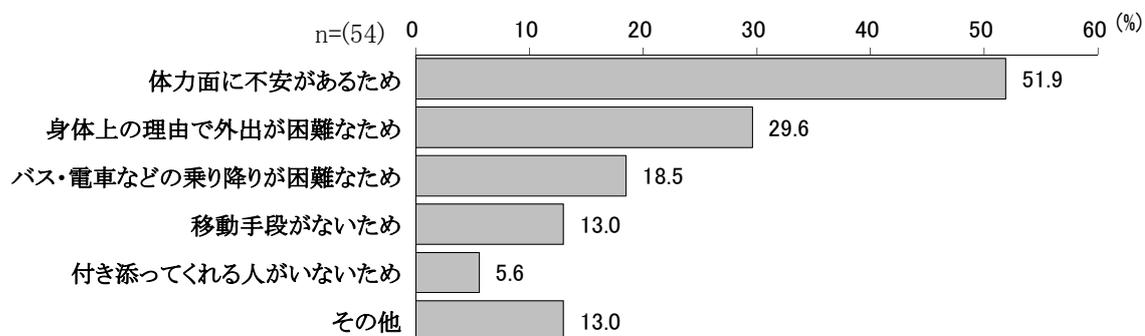
また、その際の主な移動手段は、「徒歩」が53.2%で最も多く、以下「車(自分で運転)」(16.5%)、「自転車」(16.4%)と続いている。

## (4) ご自身で通いの場へ通えない理由

《問37-1で自宅から通うことが「できない」と回答した方》

問37-2 ご自身で通えない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「体力面に不安があるため」が5割強で最多



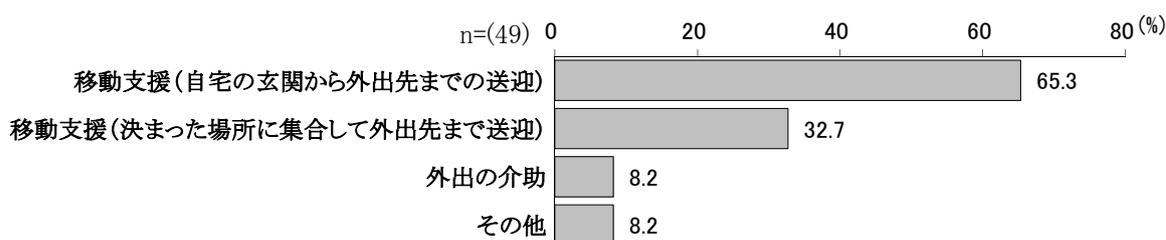
ご自身で通いの場へ通えない理由は、「体力面に不安があるため」が51.9%で最も多く、以下「身体上の理由で外出が困難なため」(29.6%)、「バス・電車などの乗り降りが困難なため」(18.5%)と続いている。

## (5) 通いの場に通うための支援

《問37-1で自宅から通うことが「できない」と回答した方》

問37-3 どのような支援があれば通えると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「移動支援(自宅の玄関から外出先までの送迎)」が6割台半ばで最多



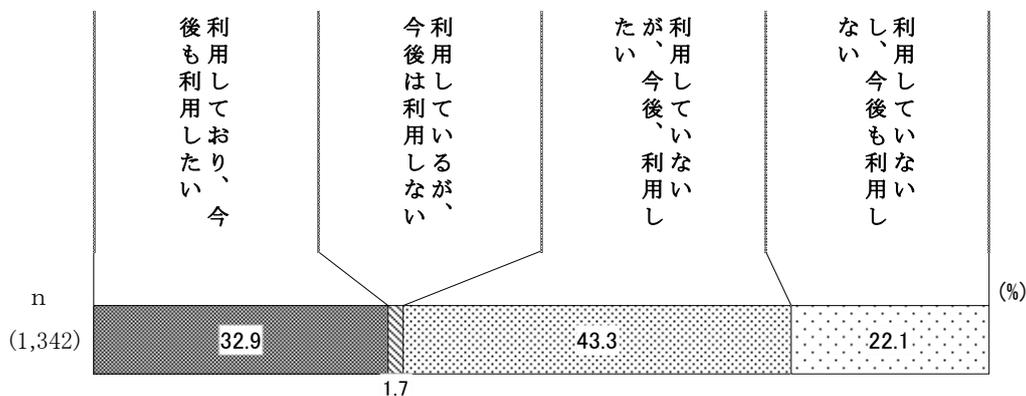
通いの場に通うための支援は、「移動支援(自宅の玄関から外出先までの送迎)」が65.3%で最も多く、以下「移動支援(決まった場所に集合して外出先まで送迎)」(32.7%)、「外出の介助」(8.2%)と続いている。

## 16. 高齢者いきいき交流助成券について

### (1) 高齢者いきいき交流助成券の利用状況

問38 高齢者いきいき交流助成券をご利用になっていますか。(1つに○)

「利用していないが、今後、利用したい」が4割強



高齢者いきいき交流助成券の対象者(70歳以上)の方の高齢者いきいき交流助成券の利用状況は、「利用していないが、今後、利用したい」が43.3%で最も多く、以下「利用しており、今後も利用したい」(32.9%)、「利用していないし、今後もしない」(22.1%)と続いている。

## (2) 高齢者いきいき交流助成券を利用していない理由

《利用していない方（問38で「4」と回答した方）お答えください。》

問38-1 その理由は何ですか。（ご自由にご記載ください。）

自由記入は222人の回答があった。「利用施設への距離・交通について」に関する意見が56件と最も多く、次いで「必要としていないため」（48件）、「利用施設の内容について」（31件）と続いている。

記載分野別（その他を除く）にいくつか意見を抽出し、以下に示す。

項目	件数
利用施設への距離・交通について	56
必要としていないため	48
利用施設の内容について	31
助成券の周知について	29
現在就業中および多忙のため	21
他の施設や方法で利用しているため	20
外出が困難なため	16
従来利用者等について	11
その他	16

※記載内容で重複している意見があるため、件数の合計とは一致しない。

## 【利用施設への距離・交通について】

- 利用する場所までの交通手段が時間的に合いません。
- 利用してみたいが、そこまで行く交通手段が良く分かりません。バス等で近くでの送迎があれば考えたいです。
- 近隣にない為不便。わざわざ行く気はしません。
- 施設が遠方で、利用はしたいが今後も利用は困難です。
- 利用場所までの移動手段（バス等）の補助がありません。
- 利用できると思われる施設はそれぞれ不便な場所にあります。

## 【必要としていないため】

- 現在、健康であるため、必要としません。
- 特に必要でなかったから申請していません。
- 趣味があり、充分満足しているので利用する必要を感じません。

## 【利用施設の内容について】

- 浴場には行ってみたいが、人前で裸になるのが嫌です。（浴場が近所なのでなおさら嫌です。）はり、きゅう、マッサージは、体質的に利用不可です。
- 利用したいと思う施設がありません。
- 自分の趣味、介護度の状態にあったものがありません。

## 第2章 調査結果の詳細

### 【助成券の周知について】

- この「券」の存在を知りませんでしたので、内容が全く分かりません。
- いきいき交流助成券そのものを知りません。
- 利用のやりかたがわかりません。

### 【現在就業中および多忙のため】

- マッサージを受けに行こうと思っていますが、仕事や家のことで忙しくのぼしのぼしになっていません。
- 家族がいるので、なかなか利用する時間が見つかりません。

### 【他の施設や方法で利用しているため】

- 自費の方が気楽でよいです（私立のカルチャーセンター等）。
- 趣味仲間がいる為。ストレッチ体操を自分で行っている為。

### 【外出が困難なため】

- 体調不良（持病）のため出かけられないため。
- シルバーカーを利用しないと歩くことが出来ませんので、自分自身では行動が出来ない為です。

### 【従来利用者等について】

- グループが出来ていて、新しい人がいくととても感じ悪くて二度といきたくない。
- 高齢者ばかりが多く集まる場所にあまり行きたいと思いません。

## (3) 高齢者いきいき交流助成券利用対象施設について

問39 高齢者いきいき交流助成券の利用対象施設等について、どのようなものがあるとよいと思いますか。(ご自由にご記載ください。)

自由記入は421人の回答があった。「交通費・送迎等の補助」に関する意見が144件と最も多く、次いで「飲食・娯楽・生活関連等への助成」(138件)、「利用可能施設の増加・内容の充実」(89件)と続いている。

記載分野別(その他を除く)にいくつか意見を抽出し、以下に示す。

項目	件数
交通費・送迎等の補助	144
飲食・娯楽・生活関連等への助成	138
利用可能施設の増加・内容の充実	89
スポーツ施設の利用	54
現状のままでよい	22
助成内容の周知	14
その他	13

※記載内容で重複している意見があるため、件数の合計とは一致しない。

## 【交通費・送迎等の補助】

- もし出来たらバス、電車で利用することが大変助かります。切望します。バスで市内をまわりたいです。
- 横浜市では、市営バスが、65才になると、年間1万円で乗り降り自由、75才以上では、更に安くなり、高齢者の外出を促進しています。藤沢は、市営バスではないので、むずかしいと思います。バス交通費補助の制度があれば、もっと外出したいです。
- 市内交通機関の無料(割引)化
- いきいき交流助成券で使えるのは自己負担のほんの一部で、有難味も少ないと思います。出来るならば横浜市の様に移動手段に使える交通券の方が助かります。

## 【飲食・娯楽・生活関連等への助成】

- 湿布薬、ドリンク剤、水などの交換券、市民会館の喫茶室の飲み物券等
- 交流できる通いの場での利用を認めてほしいです。
- バッテングセンター・カラオケ・テニス・フットサル・ゴルフなど従来の高齢者のイメージから脱皮してほしいです。
- ファミリーレストランの食事券などいいのでは。友人達とたのしい食事と、オシャベリが出来ると思います。一人暮らしの方が外出する機会が多くなるのではないのでしょうか。
- 文化、芸術的なイベント鑑賞の補助や施設があると嬉しいです。
- 現在は公衆浴場だけが利用可ですが、市内にある日帰り温泉(スーパー銭湯)施設も利用可(回数制限でも良い)として欲しいです。健康増進となります。

## 第2章 調査結果の詳細

○大学の市民講座など生涯学習センターなどでの利用券。

### 【利用可能施設の増加・内容の充実】

- まだ助成券が使えない施設が多いです。使用できる施設を拡大して欲しいです。
- 施設は通う手段や器材の数等でむずかしい人が出てきます。ウォーキングの歩数や講座に参加等でポイントを加算していき、買物券に反映させる方法などの方が生活に密着していて各自が自分の生活パターンに合わせて実践できると思います。
- 一般的に、広報で紹介されている講座で有料なものが、助成券で活用出来れば、最高です。
- はり、灸、マッサージ治療院。
- 個人としての施設利用だけではなく、人的交流を活発にさせるようなおしゃれなサロン、行政が発想するかたいイメージではない（カフェなどをイメージする）場があるといいです。
- 健康を保つために、血液検査、骨密度、血圧等を測定する場所（病院はいつも混雑しているため遠慮してしまいます）。
- 市のスポーツ施設全般を対象とできれば良いと思います。市内の民間の浴場も対象とできれば良いと思います。

### 【スポーツ施設の利用】

- 民間スポーツジム。
- 公設スポーツ施設。
- 秋葉台スポーツ施設。
- スポーツ観戦等見聞をする事に対する助成券。
- 健康器具を使用できる施設。

### 【現状のままでよい】

- 現在の利用法で良いと思います。
- 現状の施設で良いです。

### 【助成内容の周知】

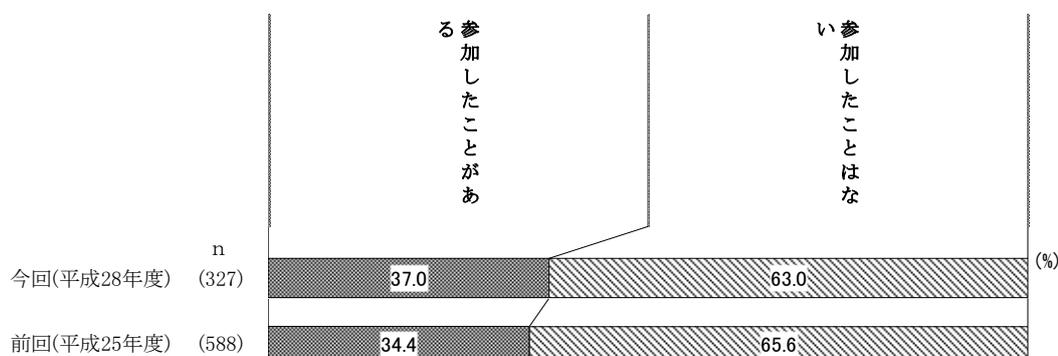
- 70歳未満の為、利用していませんが、70歳以上になった時に、助成券がある事・どう使うか等のお知らせは、個別に通知があるのでしょうか。
- 高齢者いきいき交流助成券の制度があることを知らなかったなので、もっとPRしてほしいです。

## 17. 敬老事業について

### (1) 敬老会に参加した経験

問40 敬老会に参加したことがありますか。(1つに○)

敬老会に参加したことはない人は6割強



敬老会に参加した経験は、「参加したことがある」が37.0%、「参加したことはない」が63.0%となっている。

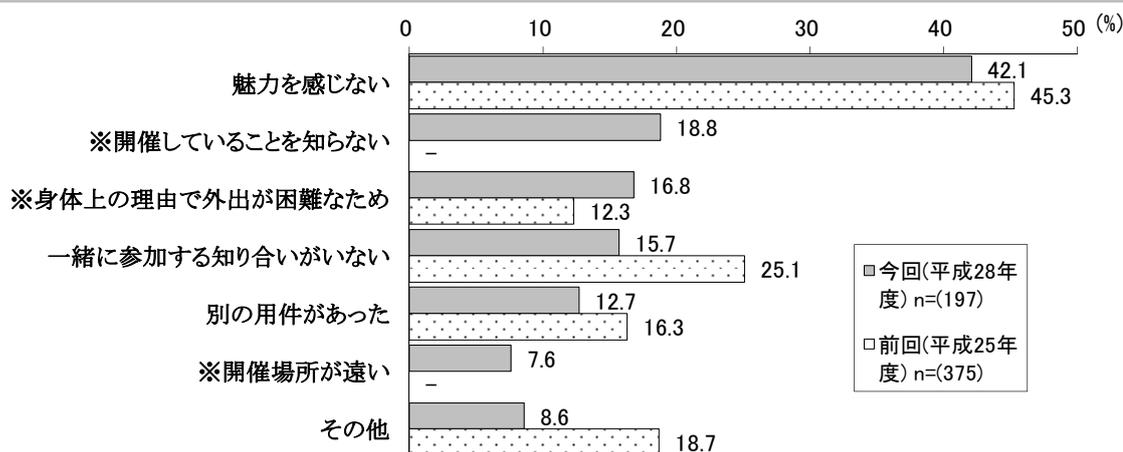
前回調査と比較すると、「参加したことがある」が前回(34.4%)より2.6ポイント増加した。

### (2) 敬老会に参加したことの理由

《参加したことがない方のみ(問40で敬老会に参加したことは「ない」と回答した方)お答えください。》

問40-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

敬老会に「魅力を感じない」が4割強で最多



※「開催していることを知らない」、「開催場所が遠い」は今回、新たに調査した項目

※「身体上の理由で外出が困難なため」は前回調査では「病気やケガで外出できない」

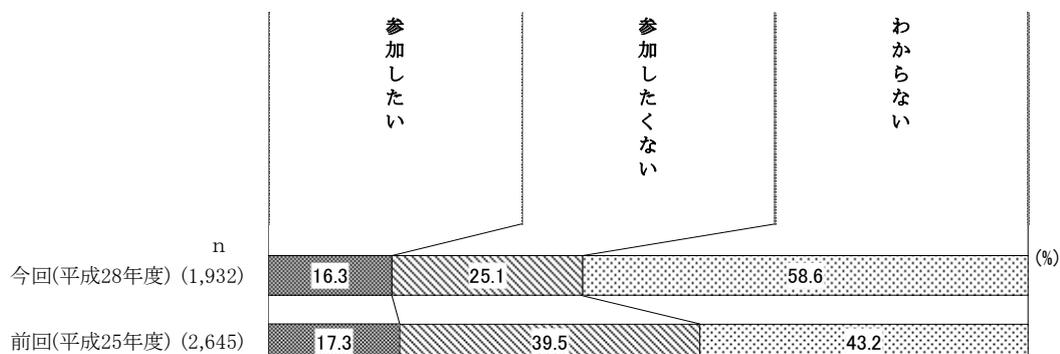
敬老会に参加したことの理由は、「魅力を感じない」が42.1%で最も多く、以下「開催していることを知らない」(18.8%)、「身体上の理由で外出が困難なため」(16.8%)と続いている。

前回調査と比較すると、「一緒に参加する知り合いがいない」は前回(25.1%)より9.4ポイント減少した。

(3) 敬老会の参加意向

問41 今後、敬老会に参加したいと思いますか。(1つに○)

敬老会の参加意向は「わからない」が6割弱



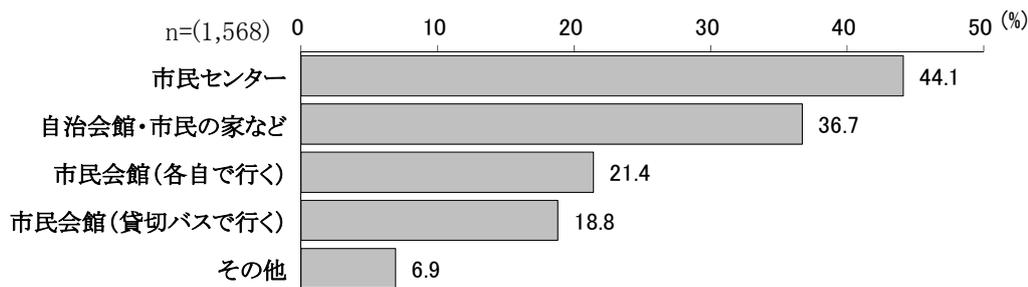
敬老会の参加意向は、「参加したい」が16.3%、「参加したくない」が25.1%、「わからない」が58.6%となっている。

前回調査と比較すると、「参加したくない」が前回(39.5%)より14.4ポイント減少した。

(4) 敬老会開催にふさわしい場所

問42 敬老会の開催場所はどのような場所がふさわしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

敬老会開催にふさわしい場所は「市民センター」が4割台半ばで最多



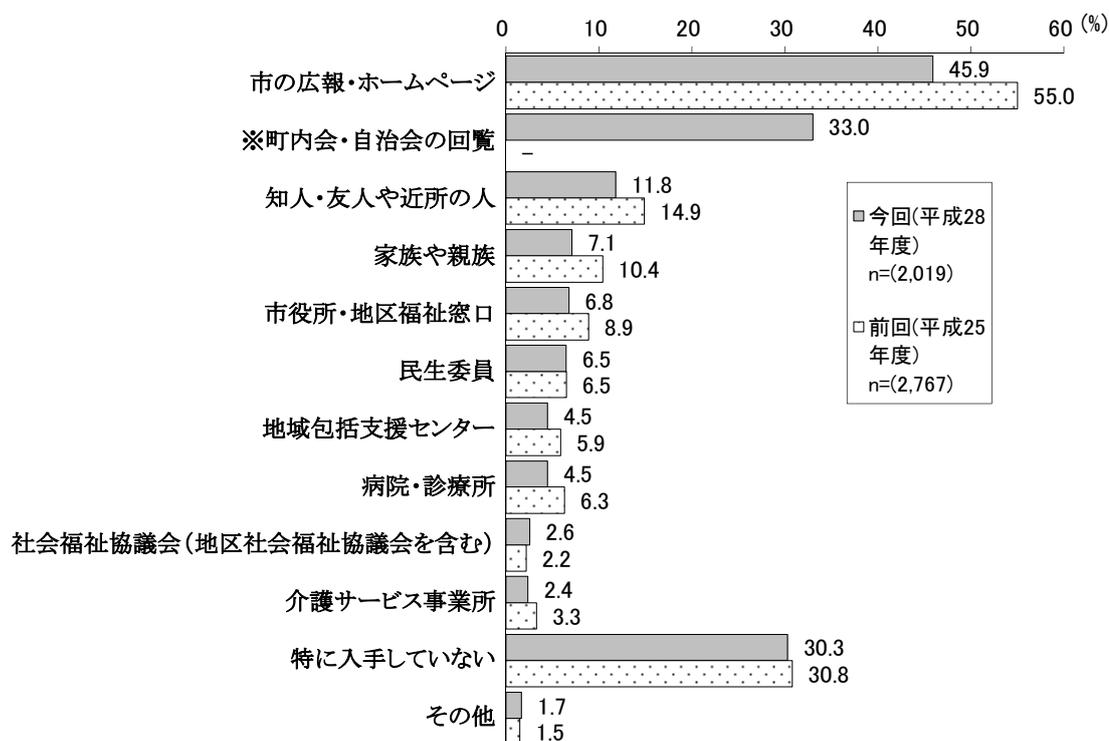
敬老会開催にふさわしい場所は、「市民センター」が44.1%で最も多く、以下「自治会館・市民の家など」(36.7%)、「市民会館(各自で行く)」(21.4%)と続いている。

## 18. 高齢者に対する施策について

## (1) 高齢者に対する施策(サービスや事業など)に関する情報の入手方法

問43 市が実施している高齢者に対する施策(サービスや事業など)に関する情報をどのような方法で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

「市の広報・ホームページ」が4割台半ばで最多



※「町内会・自治会の回覧」は今回、新たに調査した項目

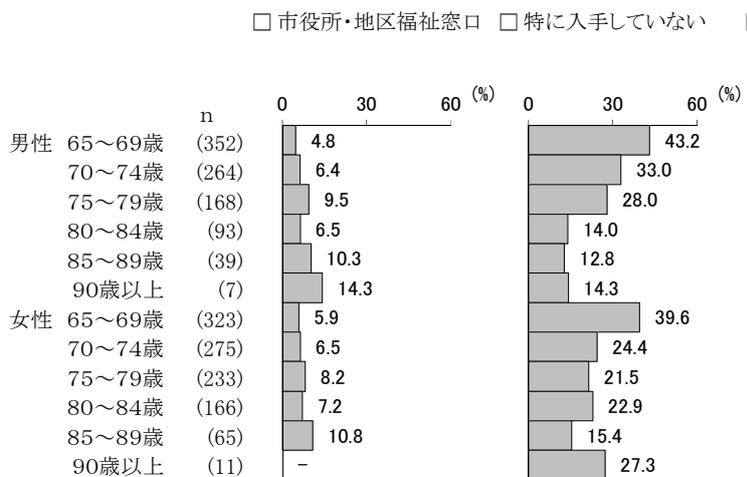
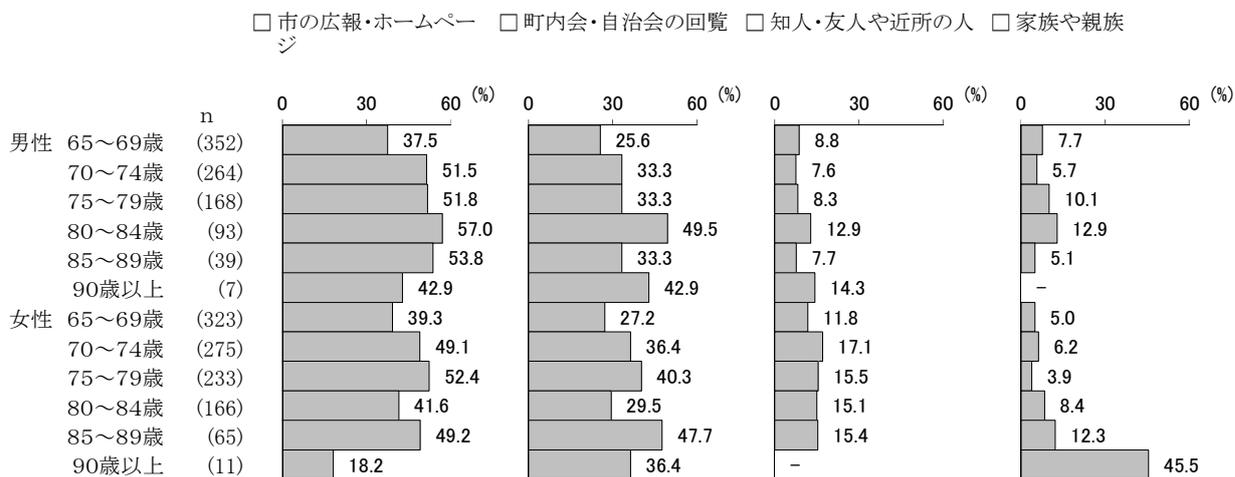
高齢者に対する施策(サービスや事業など)に関する情報の入手方法は、「市の広報・ホームページ」が45.9%で最も多く、以下「町内会・自治会の回覧」(33.0%)、「知人・友人や近所の人」(11.8%)と続いている。一方、「特に入手していない」は30.3%となっている。

前回調査と比較すると、「市の広報・ホームページ」が前回(55.0%)より9.1ポイント減少した。

## 第2章 調査結果の詳細

性・年齢別にみると、「町内会・自治会の回覧」は男性80～84歳、女性85～89歳で5割弱と最も多くあげられている。女性の場合は、「家族や親族」は年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。「特に入手していない」は、男女とも65～69歳で4割前後となっている。

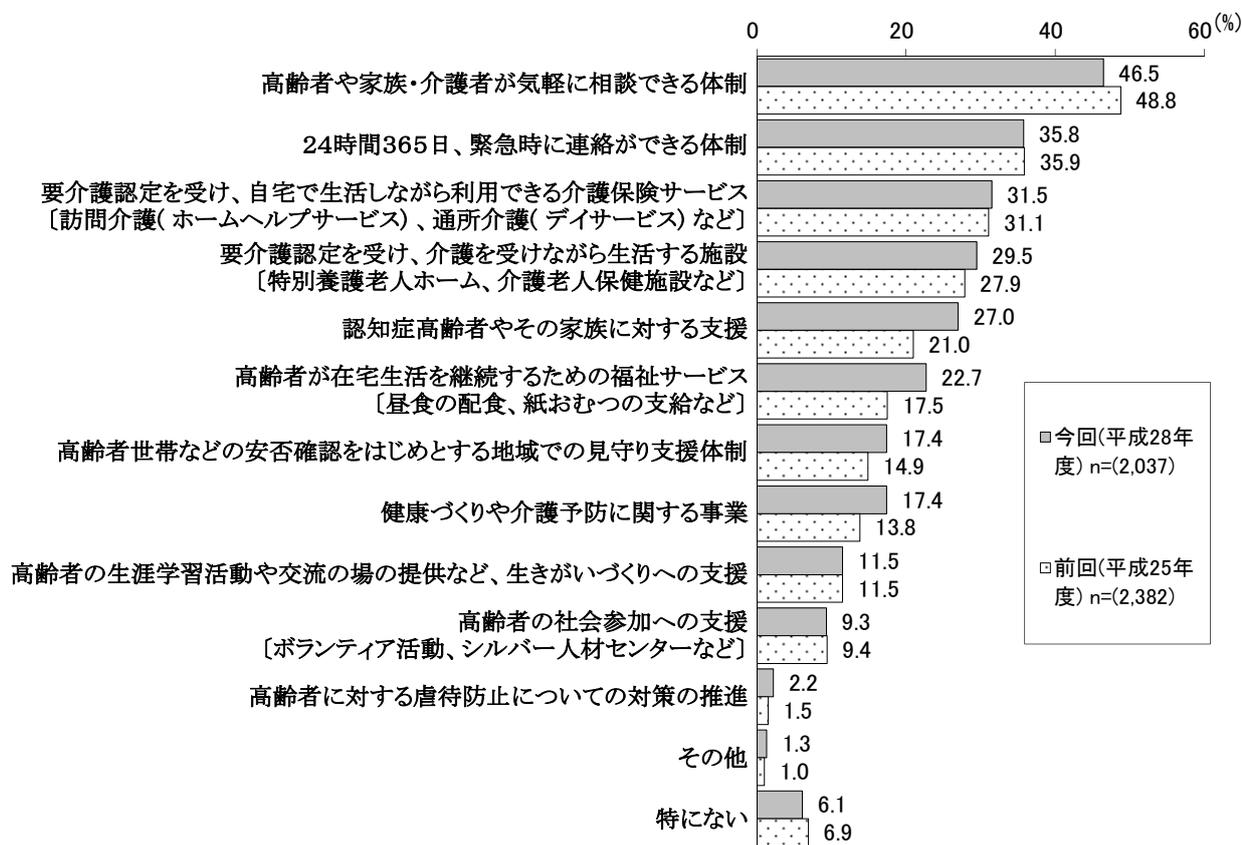
### 高齢者に対するサービスや事業に関する情報の入手方法 (性・年齢別(上位5項目+「特に入手していない」))



## (2) 今後優先すべき施策(サービスや事業など)

問44 今後、高齢者に対する施策は、どのような事業などを優先的に進めていく必要があると考えますか。(3つに〇)

「高齢者や家族・介護者が気軽に相談できる体制」が4割台半ばで最多



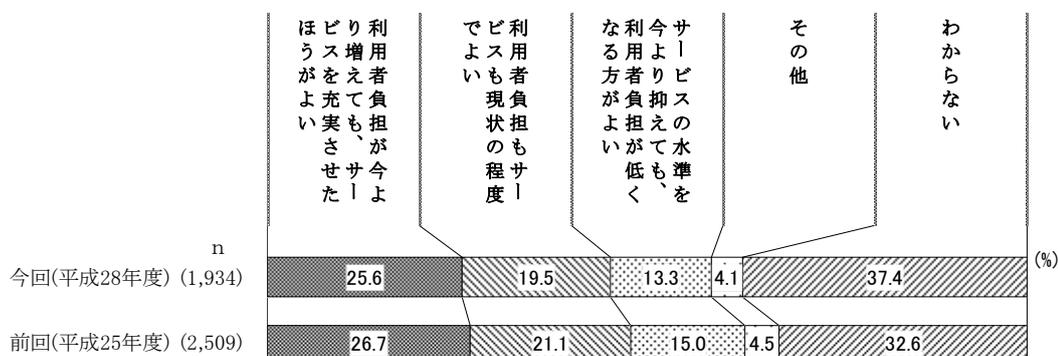
今後、優先すべき施策(サービスや事業など)は、「高齢者や家族・介護者が気軽に相談できる体制」が46.5%で最も多く、以下「24時間365日、緊急時に連絡ができる体制」(35.8%)、「要介護認定を受け、自宅で生活しながら利用できる介護保険サービス」(31.5%)、「要介護認定を受け、介護を受けながら生活する施設」(29.5%)と続いている。

前回調査と比較すると、「認知症高齢者やその家族に対する支援」が前回(21.0%)より6.0ポイント増加した。

(3) 高齢者に対するサービスの利用者負担について

問45 問44にあるようなサービスを利用するにあたって、一定の利用者負担を支払うことについて、どのようにお考えですか。(1つに○)

「わからない」が4割弱

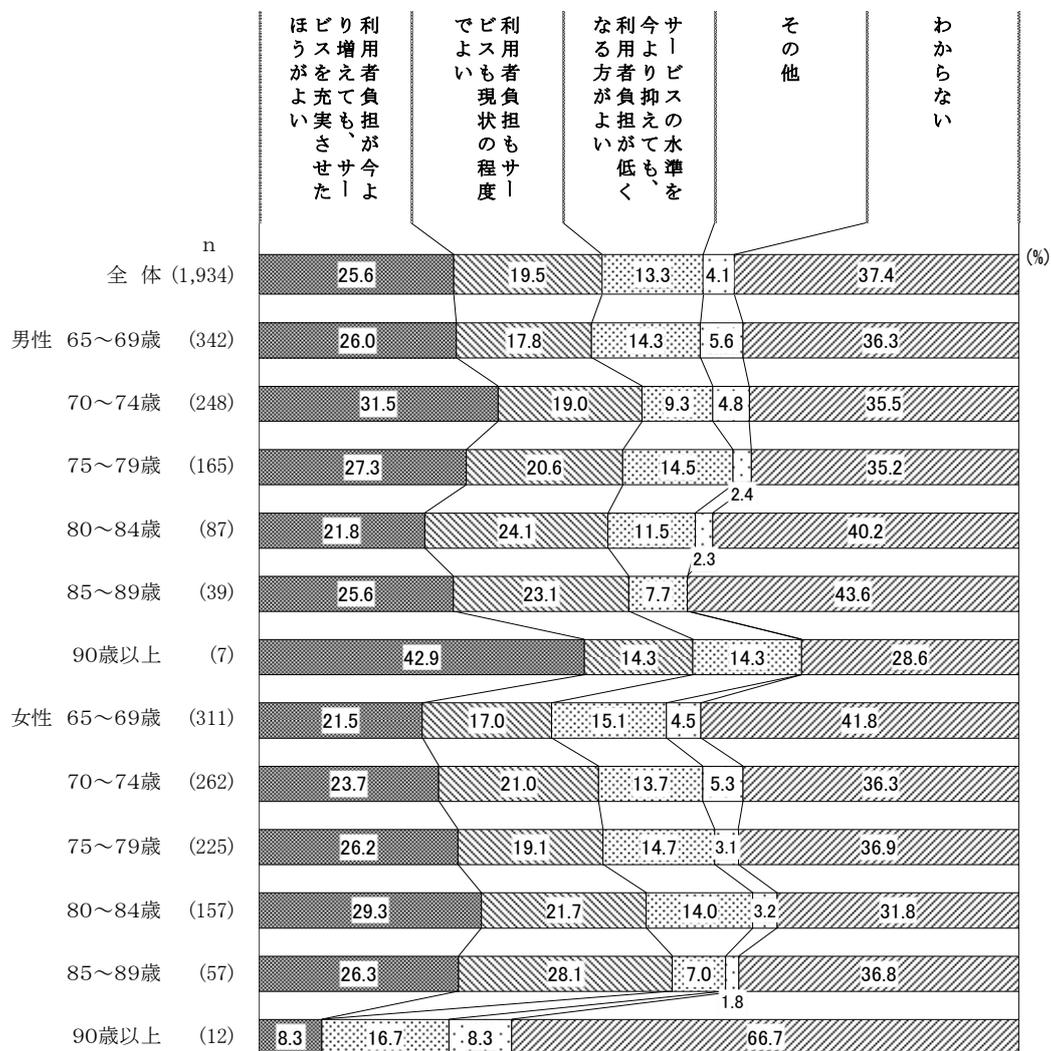


高齢者福祉サービスの利用者負担については、「わからない」が37.4%で最も多く、以下「利用者負担が今より増えても、サービスを充実させたほうがよい」(25.6%)、「利用者負担もサービスも現状の程度でよい」(19.5%)と続いている。

前回調査と比較すると、「わからない」は前回(32.6%)より4.8ポイント増加した。

性・年齢別にみると、「利用者負担もサービスも現状の程度でよい」は男女とも、年齢が高くなるほど、その割合が増加する傾向がみられる。

高齢者福祉サービスの利用者負担について（性・年齢別）

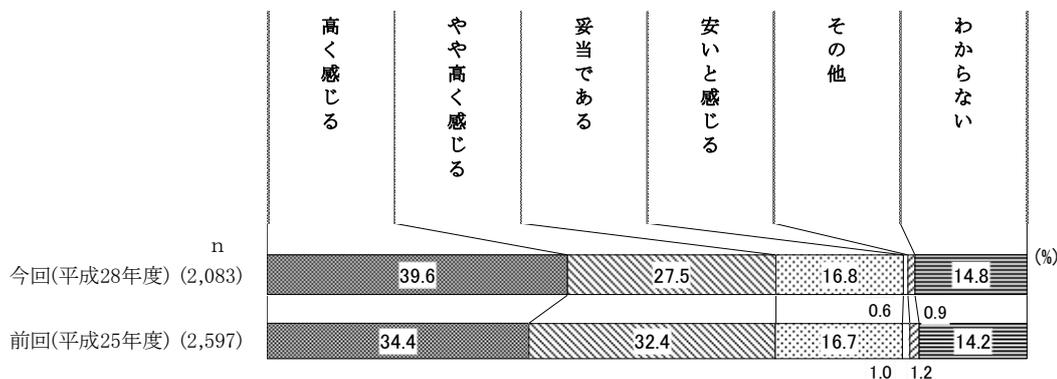


## 19. 介護保険制度について

### (1) 介護保険料について

問46 介護保険料について、どのように感じていますか。(1つに○)

《高い》と感じている方は7割弱



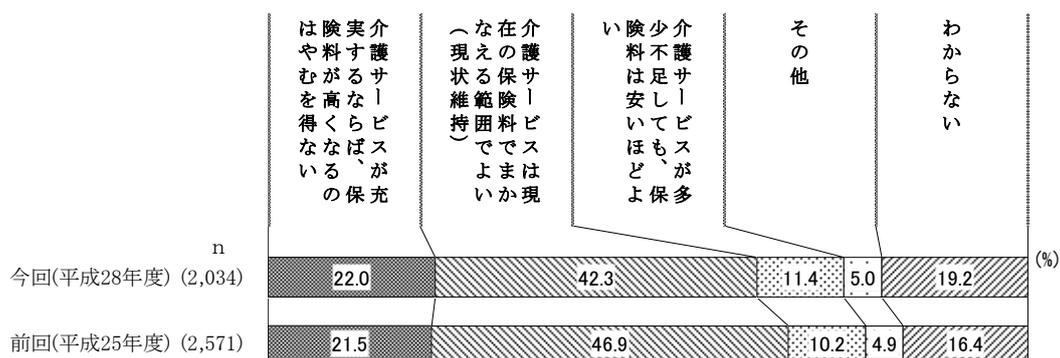
介護保険料について「高く感じる」が39.6%と最も多く、「やや高く感じる」(27.5%)をあわせると、《高い》と感じている方は全体の67.1%を占める。

前回調査と比較すると、《高い》と感じている方の割合に大きな差は見られない。

### (2) 保険料とサービスに対する考え

問47 介護保険料は介護サービスの費用にあてられるため、藤沢市全体のサービスの利用が多くなると保険料も高くなります。このことについて、どのように考えますか。(1つに○)

「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい(現状維持)」が4割強



介護保険料とサービスに対する考えは、「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい(現状維持)」が42.3%で最も多く、次いで「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」が22.0%と続いている。

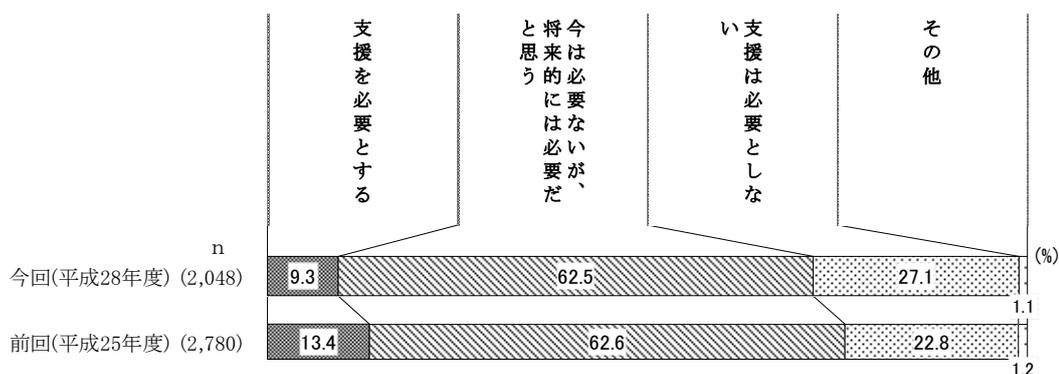
前回調査と比較すると、「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい(現状維持)」は前回(46.9%)より4.6ポイント減少した。

## 20. 災害時の避難支援について

### (1) 災害時の避難支援の必要性

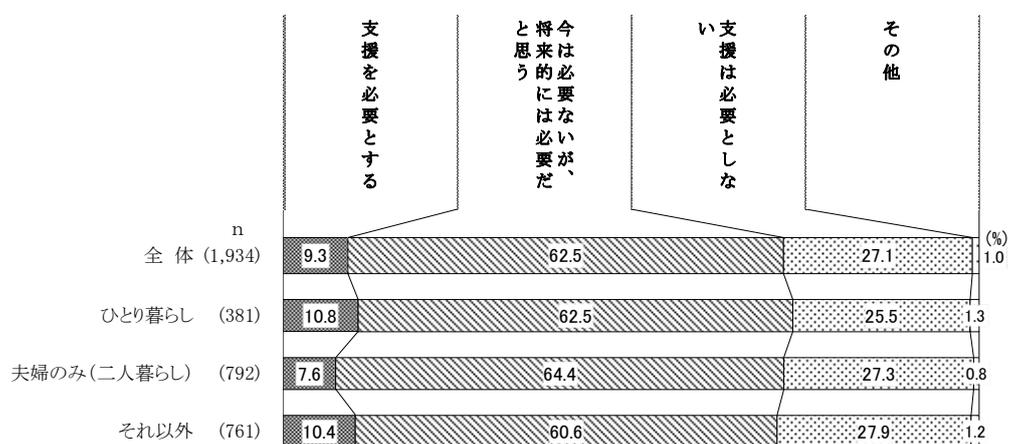
問48 地震などの災害時に避難する際、どなたかの支援を必要としますか。(1つに○)

「今は必要ないが、将来的には必要だと思う」が6割強



災害時の避難支援の必要性は、「今は必要ないが、将来的には必要だと思う」が62.5%で最も多く、「支援を必要とする」(9.3%)とあわせると、《支援が必要》な層は全体の71.8%を占める。前回調査と比べて、《支援が必要》な層は4.2ポイント減少した。

### 災害時の避難支援の必要性 (家族構成別)

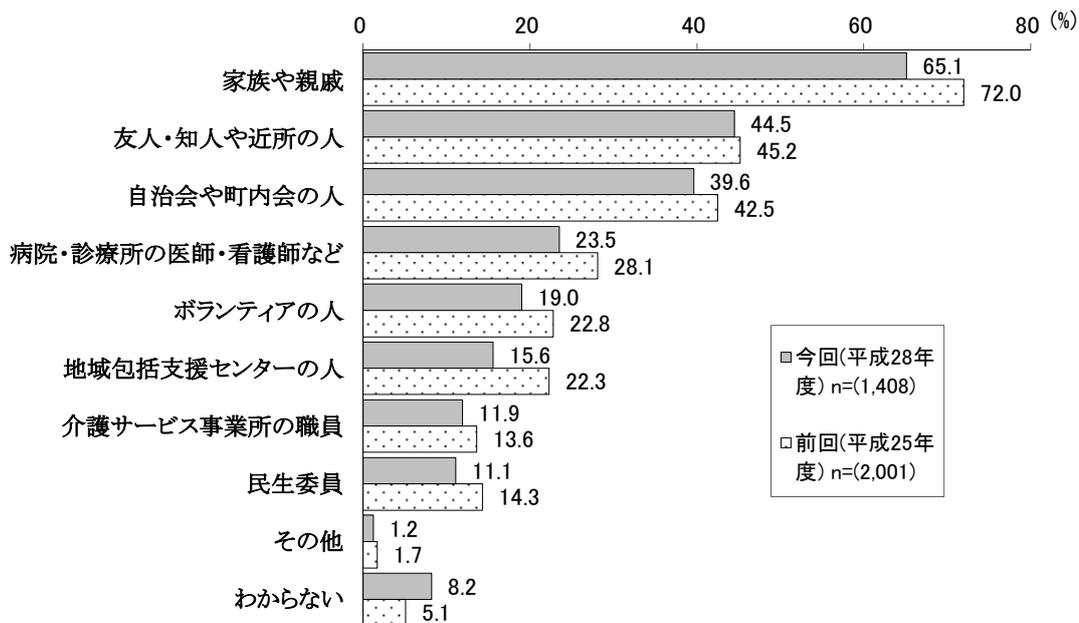


(2) 避難支援してもらいたい相手

《支援を必要とする方(問48で「支援を必要とする」または「今は必要ないが、将来的には必要だと思う」と回答した方)お答えください。》

問48-1 避難する際に支援をしてもらいたい相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

避難する際に支援をしてもらいたい相手は「家族や親戚」が6割台半ば

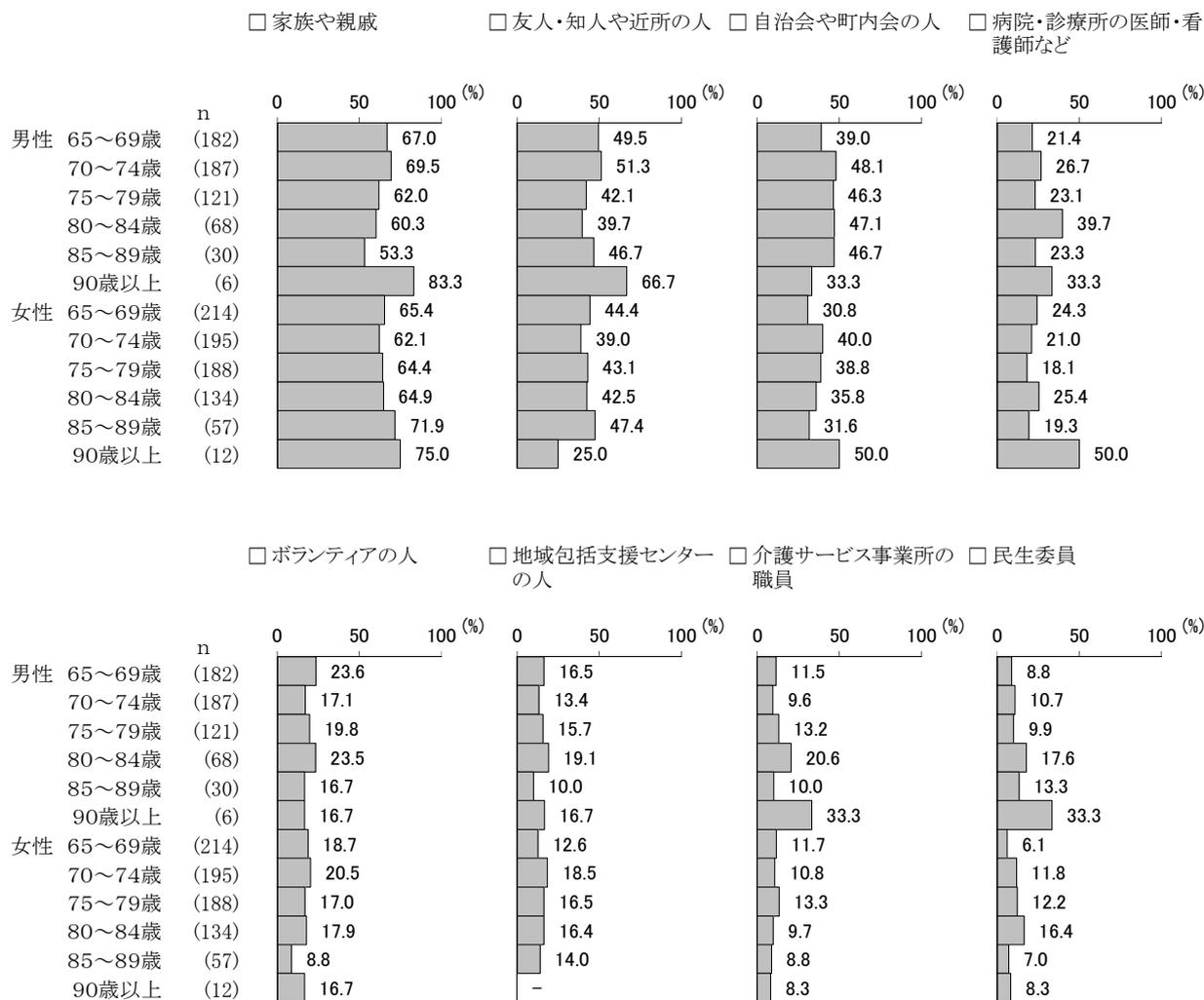


避難支援してもらいたい相手は、「家族や親戚」が65.1%で最も多く、以下「友人・知人や近所の人」(44.5%)、「自治会や町内会の人」(39.6%)、「病院・診療所の医師・看護師など」(23.5%)と続いている。

前回調査と比較すると、「家族や親戚」は前回(72.0%)より6.9ポイント減少した。

性・年齢別にみると、「家族や親戚」は男性は年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。「自治会や町内会の人」は女性は年齢が高くなるほど、その割合が減少する傾向がみられる。

避難支援してもらいたい相手（性・年齢別）



## 2.1. 今後の高齢者保健福祉施策に対するご意見

今後の高齢者保健福祉施策に対して、ご意見があれば、どのようなことでもかまいませんので、ご自由にご記入ください。

自由記入は567人の回答があった。「介護予防・健康づくり」に関する意見が76件と最も多く、次いで「高齢者保健福祉施策」（66件）、「行政に対する期待」（62件）と続いている。

記載分野別（その他を除く）にいくつか意見を抽出し、以下に示す。

項目	件数
介護予防・健康づくりについて	76
高齢者保健福祉施策について	66
行政に対する期待について	62
介護保険施設整備について	61
サービス・生活支援について	60
将来の不安について	50
交通費の補助について	48
街づくりについて	40
広報・PRについて	39
介護保険制度について	36
介護保険料等について	33
相談体制について	30
自治会・町内会・民生委員について	30
アンケートについて	29
医療体制について	28
独居高齢者について	23
ボランティア・社会参加について	17
業者・従業員について	12
住まいについて	7
要介護認定について	5
その他	19

※記載内容で重複している意見があるため、件数の合計とは一致しない。

### 【介護予防・健康づくりについて】

- 介護予防に運動的な事を取り入れる一つの方法としては、有料のスポーツセンターや、スポーツジムに助成金を入れて、利用した方が、保険料が少なくすむのではないのでしょうか。料金を1/3～1/2位に出来たら、行く方も多いと思います。要支援にかかる費用が減額出来るのではないのでしょうか。
- 定期的に日々の食料品等のお買物に行ける様な取りくみをお願いしたい。自分の目で見えて買物をするのはとても楽しくて認知症の予防に効果があるように思います。

- 介護を必要とする人を増やさない為の早めの取組が必要だと思います。横浜市はポケベルで健康チェックが出来たり、外出も70才を過ぎると乗物の負担が軽くなったりで、外出しやすい環境が出来ています。またポイントカード等でボランティアに参加しやすいシステムの町もあると聞きます。もう少し積極的な取組が藤沢市にもあって良いと思います。
- 自宅近くの公園、センター等で週数回のラジオ体操の機会があればと思います。
- 民間のスポーツクラブ費用の一部負担をしてでも体力維持を図った方が良いと思います（介護費用、医療費負担を遅らせる事が出来ます）。65才以上の費用軽減をしてほしいです（スポーツクラブ等）。市内のスポーツクラブを視察してほしいです（ウィークデイは年寄りが多勢います）。

#### 【高齢者保健福祉施策について】

- 高齢化が進む程福祉施策に費用がかかることは防げないと思います。負担が増しても行きとどいたサービスが得られると良いと思います。
- 様々な施策を実施されているようですが、情報が十分に伝わってきません。定期的に個人宛に案内を出していただくと有難いです。もっと、インターネットを使うことも考えられるのではないのでしょうか。
- 65才以上を高齢者と定義していますが、個々人により自分に対する評価にばらつきがあります。緊急的に支援が必要とされる人もいれば、現時点では対象として含む必要のない人もいます。予防に対する施策を重点的に推進する必要があります。
- 高齢者に関する様々な情報（一人暮らし、認知症、要介護等）を一元管理して市の福祉政策を推進して下さい。市の高齢者支援課といきいきサポートセンター、介護保険課、たてわり行政で事業所も町内会も含めて個人情報の保管も大切ですが、どこかで一元的に管理が必要ではないかと思えます。
- 高齢者のみ対象の施策・事業がほとんどです。私は三世同居ですが、核家族（夫婦・二世）が多い為に、個人中心の考え方となり、相手への優しさや知恵の伝承が薄らいでいるように感じます。子供や若者を含めての事業を取り入れて進めて頂きたいです。

#### 【行政に対する期待について】

- 当該のことには基礎的な知識・情報を持ち合わせませんが、漠然と都23区や横浜市などの遅れ感を友人との会話で感じる場合があります。また他町村でも進んでいるところがあるのではないかと感ずるところです。他の地域の事例研究を推し進められんことを願う次第です。
- 利用者の増加、サービスの拡大によって、当然の如く、費用負担が増える、とだけ考えないで、市税等の負担により（特定財源化するなど）、恒久的な財政基盤を将来まで見通して、考えて欲しいです。行政も、税収入や補助金だけに頼るのでは無く、事業収入の見込める施策を積極的に考えて、実行すべきだと思います。
- 政治への期待はあきらかに近いものがありますが、行政単位の小さい藤沢市には、地域の実態に即したフレキシブルな（何か期待できる楽しそうなど）住民意識向上の仕掛けを切望しています。
- 他の市や地域より、藤沢市は充実していると感じますが、介護施設など入れない方、長期で入れる病院がないなど耳にします。市民が平等に安心した老後を思いえがけるように、力を入れていただきたいと思います。
- 今後、高齢者が増加していきますので、高齢者が住み良い、安心できる市にと望みます。

## 第2章 調査結果の詳細

### 【介護保険施設整備について】

- 高齢化社会に向けて、誰でも気軽に入所できる老人ホーム的な施設があればと考えます。現状は希望しても、各施設は満員で順番待ちと聞いています。行政改革の一環として、老人ホーム施設を増設する事を考慮して欲しいです。
- 特別養護老人ホームを増設するべきです。
- 現在の特養ホーム新設は、ユニットが主力ですが、多床室の新設も取り入れてほしいです。年金だけでは、ユニットに申込み出来ません。
- 家で看護が無理の時はすぐ入居出来る施設を増やして欲しいです。
- 介護施設が少なすぎるので申し込みから2~3年かかってしまいます。

### 【サービス・生活支援について】

- 高齢者いきいき交流助成券を頂いても、いつも使いきれません。マッサージもプールも行きませんのでもう少し、他の方法をお教え頂きたいです。
- 昔、母の時代、市で「フレンドサービス」があり助りました。出来れば、今も、週に1~2回、作って頂ければ有りがたいです。
- 高齢者に認定されている方の医療器具の補助金を出してほしいです。
- なぎさ荘の送迎バスの様な、老人専用の市内「くるりんバス」があると、外出などもしやすく、元気な前向き生活の助けになると思います。
- 公的サービスと同様のサービスを民間から受けても公的サービスの場合と同レベルの援助を受けられる仕組が望まれます。

### 【将来の不安について】

- 現住所はエレベーターがありません。4階なので昇り下りが出来なくなったらといつも心配です。
- 現在は健康に普通の生活してますが、障害があった時には考え方が変わってくると思います。夫婦2人で元気のうちは安心してますが、どちらか一人での生活になれば生活内容が変わるので心配事はたくさんあります。
- 今は不自由なく生活しておりますが、介護が必要になった時の事はとても不安に思います。
- 夫婦二人元気な内はいいが、1人が寝たきりや認知症になった時、1人家庭で身体に不自由が発生した時のサポートを充実してほしいです。
- 地震、津波の時、今は自分で避難できるが、将来的に必要だと思えます。隣近所皆高齢で助け合うのは難しいので不安があります。

### 【交通費の補助について】

- 交通費（バス）の割引制度は導入してほしいです。よく出かけるが、交通費が、かなり負担になります。高齢者の免許返上にも役立つと思います。
- 駅~買物施設~こぶし荘~病院~金融機関~文化センター~自宅（又は、停留所）を結ぶコミュニティバスの設置、又は、現状のこぶし荘バスの回数をふやしてほしいです。
- 75才~か80才以上にバスの無料券か交通費の援助があった方が外出の機会が増える気がします。
- 他の市でやっている乗り物の無料パス（一部負担）があったらよいです（小田急、地下鉄など）。高

高齢者の外出も多くなり健康にもよいのではないかと思います。

- 高齢者の運転（自動車、バイク等）が多くなると思います。事故も多発する可能性もあり、運転をしなくても良い社会状況を検討する必要があります。コミュニティーバスの運行について、極めて細かく検討し、運行して頂きたいです。

**【街づくりについて】**

- 河川敷の人、自転車、車椅子、レーンの分別化により安心して外出や散歩のできる町づくり。
- 現在はマイカー運転だが将来は徒歩になります。駅に行くにも、湘南台へ行くにも交通手段として大和市が運営している様なコミュニティバスの運行を検討願いたいです。
- 藤沢駅の小田急からJRの乗り換え階段にぜひエスカレーターがほしいです。
- 気楽に行ける文化施設、例えば映画館や音楽堂などの増設をして頂き、高齢者割引を考えて頂ける事を期待致します。

**【広報・PRについて】**

- 様々な施策を実施されているようですが、情報が十分に伝わってきません。定期的に個人宛に案内を出していただくと有難いです。
- 広報の特定のコーナーに「高齢者保健福祉施策」を紹介し、情報提供してほしいです。
- 市の保健・福祉に関する活動状況がわからないので、広報か自治会を通して、連絡・報告がほしいです。
- 身内に認知症と思われる人がいますが、気やすく相談できる病院や診療所等を市の広報で度々知らせしてほしいと思います。

**【介護保険制度について】**

- 介護保険制度を利用する様になった時、窓口での手続きが、わかりやすく、時間がかからないで受けられると良いと思います。
- 現在、要介護支援を利用していないので分からない事が多いです。
- 超高齢化のスピードにより、年金、介護保険等のシステムが継続出来なくなる可能性が有ります。50代以下の人たちには影響が出ると思います。
- 介護事業は介護保険料以外からもまかなうことを考えるべきです。

**【介護保険料等について】**

- 医療・介護などの保険料を所得（財産）に応じて差をつけることが重要です。もっとメリハリをつけた仕組みに変更することが必要です。
- 年金生活では予想以上に生活が苦しいです。各保険料は利用に応じて金額を決めて欲しいです。
- 介護保険料がどのように使われているか具体的な例とお金の使われ方を知りたいです。

**【相談体制について】**

- 些細な事も、相談出来る制度が欲しいです。
- これから益々、単身者世帯が増えていくと思います（身内がいなかったり、いても疎遠であったりして）。その人達が最期まで安心して生活出来るように相談できる窓口があるとありがたいです。民

## 第2章 調査結果の詳細

間やNPO等も有りますが、必ず公的機関に関与してもらいたいです。

- 自分が高齢者なのですが、周りに老人がいないのでどんなサービスがあるのか何処へ相談に行ったらいいのかわかりません。同じような方も沢山いらっしゃるのではないのでしょうか。広報等で少し大きくわかりやすく広げて欲しいと思います。

### 【自治会・町内会・民生委員について】

- 歩行が出来なくなると、行動範囲が狭くなり、家にこもりがちになりそれが、認知症の原因のひとつとっております。歩こう会を各自治体や町内会で月に1回程度開催していったら、若干でも認知症が予防出来るのではないかと思います。
- 一人暮らしの年寄りに対して、何かあって（地震、大雨等）も声掛けも何もなし。町内会費を払っていても何もないので町内会を抜きたいと思います。
- 近隣者との会話があると良いと思います。そのためには、町内会で集まる場所があると良いです。

### 【アンケートについて】

- 高齢者に対するアンケートとしては、設問が多すぎるのもっと絞るべきです。理解できない人が多いのではないのでしょうか。
- このアンケートは、高齢か認知症かに絞られているように感じますが、認知症以外の難病者、障害者である高齢者もいます。その人達の事はどうなっていますか。
- 65歳以上ひとくくりのアンケート調査になっていますが、あまりにも対象者の年齢幅が広すぎるので、例えば65～、75～、83～位の三段階に分けて、その年齢幅にふさわしい質問にすべきと思います。

### 【医療体制について】

- 近くの医院がサロン化していることに疑問を感じます。毎日の様に色々な（科）に通っている老人達はどうしたら良いのでしょうか。医療費負担の安い人ほど通院が多いという現実を考えてほしいです。
- 北部地域には、介護施設も緊急医療病院も少なく、自宅介護を受けながらホーム医療をして下さる医師はいないようです。理由は各々の先生方は昼間の診察だけでいっぱいいっぱいという事です。緊急の場合は、近くの病院でお世話になりたいと思います。
- 365日24時間対応してもらえる医療体制が早急に必要だと思います。夕方になると病院はしまってしまうし、ちょっとした事でも救急車を呼ぶ事になり、運ばれると4～5時間の検査をその都度受ける事になり、年寄りはずつかれてしまいます。今親の介護をしています。毎回大変でしたがやっとの事で24時間来てもらえる医院をみつけて親共々精神的に落ち着きました。私の友人にも救急車を呼ぶしかないと言っている人がいます。家で過ごしている年寄りの最も安心する事だと思います。

### 【独居高齢者について】

- 孤独死だけは避けたいので独居の場合動きがみとめられなくなったら連絡がつく様なシステムがあると良いなあと思います。
- 独居の高齢者世帯への見守り、支援を各自治体で充実できるような体制作りを望みます。

【ボランティア・社会参加について】

- 私はスーパーで働いていますが、高齢者の方が増えています。買物お手伝いのボランティアの方がいればいいと感じます。
- 高齢者を一定の場所に集め社会から隔離するのではなく、なんらかの方法でできるだけ社会の一員として実感できるような場を提供してほしいです。例えば子供達（幼稚園・保育園児）との交流、人生経験を発表する場など。

【業者・従業員について】

- 施設員の数が足りません。昨今その施設員のレベル低下によるトラブルが度々聞かれます。老人をケアする施設員のレベルアップを図って頂きたいです。

【住まいについて】

- 年金額と家賃のバランスで、目下、住宅の問題が切実です。もっと市営、県営の高齢者向き住宅があると、どんなに有難い事かと思えます。

【要介護認定について】

- 認定制度を受けている人達を、もう一度見なおしたり定期的にチェックする必要があるのではないのでしょうか。

